

康和五年十二月二十一日

三二六

〔公卿補任〕 九

內 大 臣正二位源雅實四、右大將、十二月廿一日遷左大將、

權大納言正二位藤家忠四、十二月廿一日兼右大將、

參 議正三位源顯通 左中將伊與權守、十二月廿一日遷右近、

從三位藤忠教廿九、右中將讚岐權守、十一月、遷左近、

〔殿曆〕

十一月十一日、丙戌、天晴、辰刻許權大納言家忠、卿被來、於中門廊相合、

大將所望間事被示合、已刻許被退出了、諸大夫一兩來、

十二月十九日、甲子、天晴、不出行、○中、新大將許家忠、饗物具等ヲ、奉使家令廣親、

廿一日、丙寅、天晴、早旦清實朝臣ヲ、爲使馬六疋、置、隨身カリ胡錄下、劍平緒

等、皆所奉也、已刻許余著直衣、向新大將亭前駈六人、其人宰相中將家政、四位

少將有家、兵衛佐宗能、左京權大夫俊賴等也、

廿二日、丁卯、天晴、爲慶賀大將被來、對南庭、出迎、答拜了自階昇天、對面著座、

大將中門自中方昇テ、著座、頃之引出物馬一疋、又北政所被、申慶賀、民部大

輔忠長申之、有送物、手文本、民部大輔忠長取之、余對面間將東帶、對面庇敷、疊

一枚、其上敷茵爲大將座、西面、中一間置、敷圓座爲余座、余裝束々帶、於門

家忠忠實
ヲ訪ヒ大
將ヲ所望
ス

忠實家忠
等ヲ送ル
具

家忠慶ヲ
忠實及ビ
麗子ニ申
ス

忠實日記
ニ依リテ
沙汰ス

忠實家忠
參內家忠
出御

家忠忠實
及ビ令子
內親王ニ
慶ヲ申ス
家忠ヲ人
大將ノ目
ノ耳ヲ目
驚カスヲ
經實以下
ス

下自車、昇自中門寢殿ニ、至、昇上上達部座暫居此左、大辨來、開日記可有事示、

余同開日記令沙汰、頃之退出、此間於中門余隨身敦時ニ、彼家主大納言賜衣、

余門出間、又召還敦時、民部大輔侍從等又賜衣、余參內、未刻許余著束欲參御

前間、彼大將參內、最所被來合、相則參御前、除目、主上出御、余著圓座男共ヲ、召

重資參進年中行事障子許、余仰可召上卿之由退還、民部卿俊明卿參進、經簀

子進圓座、其儀先圓座ノ、東ノ方居揖、依重召著圓座、主上揖給、上卿男共ヲ、召

五位藏人爲隆參進、召視續紙等、即持參、仰云、又揖給、任次第、太政官謹奏字ヲ、

不書、左近衛府大將正二位源朝臣雅實、兼、權中將從三位藤原朝臣忠教、兼、將

曹正六位上豐原朝臣時元、右近衛府大將正二位藤原朝臣家忠、兼、權中將正

三位源朝臣顯通、年號如常、除書了奏聞、返給取副笏上卿退出、清書同上卿也、

余下宿所、彼大納言ヲ、可有次第ヲ、示申了、大納言彼弓場殿ニ、被參、其儀如常、

參中宮御方被申慶賀、權亮師隆申之、次、齋院御方又被申、

〔中右記〕 十二月九日、甲寅、天晴、○中、申時許頭辨奉勅、以內暨召權大納言家

忠卿、是可任大將之由、依可被仰下也者、參內之間聞此旨、萬人驚耳目、若君歸

東三條給之後、新大納言以下爲慶賀被行向權大納言許、院、人々濟々被來

康和五年十二月二十一日

三二七

家忠參內

賀家主著直衣被相逢(宗世)同力行向年來於事有會釋之人也仍馳向申感悅之由
 此間內豎來從內有召由來觸前駟等從殿下遣之云々(忠實)及秉燭歸家
 後聞入夜大納言被參內前駟六人業房成實說長惟兼季良中務丞國輔宰相中將忠教民部
 大輔忠長中務少輔家光車扈從入從和德門參著陣奧座頭辨來仰云可任
 賜大將日次可勘申者不被仰左右字尤可然所闕左大將也而右大將上藤
 也仍不被仰左右一定也云々被退出之後於花山院東對南面有事定召陰
 陽師泰長被問日時來廿一日者不書勘文令友房朝臣書定文治部卿俊實
 著直衣被行向左大辨基綱大藏卿道良被行向云々
 十一日天晴略或人告送云大納言任大將日以頭辨被奏云々
 廿一日丙寅天晴依任大將事午時許參內人々未被參之間暫參殿下御直廬
 梅壺頃而權大納言家忠卿同被參此御直廬是相待除目之間暫被候也有文
 紫綵緒宰相中將忠教被相共也下官歸參仗座民部卿以下諸卿七八人許參
 集申時許頭辨重資朝臣出仗座召民部卿今日執筆在與座則起座後陣後經南殿後
 出從殿上之上戶經簀子敷居御座間長押上揖依氣色著圓座先是主上御出
 畫御座御直衣殿下候給次依御氣色民部卿俊明召人男共藏人中宮大進爲隆

執筆
出御

清書

召續紙入柳筥則持參置大床子間依仰書除目了暫置硯筆等座傍件柳筥入
 除目指笏進奏也暫不復本座退候長押下返給退著圓座置笏如本入硯筆等
 於柳筥取副除目於笏出殿上召外記從階召外記筥入除目令持外記上卿從南殿後著
 仗座端座外記從階召官人令置軾之後外記則持參除目置上卿座前予依上
 卿命清書外記先置硯
黃紙民部卿後口被談云於御前
勅不書太政官謹奏字也尤可然

左近衛府

大將正二位源朝臣雅實兼

右近衛府

大將正二位藤原朝臣家忠兼

康和五年十二月廿一日

太政官謹奏

左近衛府

權中將從三位藤原朝臣忠教兼

康和五年十二月二十一日

康和五年十二月二十一日

右近衛府

權中將正三位源朝臣顯通兼

年月日同前

太政官謹奏

左近衛府

將曹正六位上豐原朝臣時元

年月日元府生件時元不進申
文暗被成也任人四人

右三通書了進上卿、々々入筥給外記、起座出從軒廊東二間、進弓場殿被奏覽、於執柄殿下依御座御所同內覽、返給出仗座、于時小雨、召外記問兵部省、三度申被止了、依日暮也、兵部丞參入立小庭、著靴、上卿向北仰云、參來、丞參入、以除目微々給之、右手、丞給除目立小庭、上卿命云、班給、微音稱唯退出、人々起座、此間新任大將經陣前并階下進弓場殿、立北廊二間、西間、隨身將監、將曹、府生、番長、舍人等、官人束帶、壺胡鏡、番長以下、壺、匣、巾、出從右近陣、進從之、又本府官人等校書殿壇下相並居、爰大將付頭中將顯實朝臣令奏慶、頭中將帶劔持笏、仰

家忠慶ヲ
奏ス

拜舞

中宮并令子内親
王ニ慶ヲ
申ス

花山院饗
饗ノ儀

聞食了由、拜舞、第二拜、間、隨身等、初進前、官人發、次付頭辨重資朝臣官人以下御酒給、半、被奏、仰聞食由、如本經階下并陣座前、陣座前垂、入從軒廊東二間、經宜陽殿壇上、出宣仁左青瑣門、和德門、經承香殿後參中宮御方、被申慶、權亮、師隆、啓事次被參前齋院御方弘徽殿、付職事有賢朝臣被申慶之後、如本歸出、更和、殿ヲラシ德門出敷政門、次將等相從之、至陽明門下、人人退出、經大宮中御門、東洞院等、至花山院西門下車、於此亭有饗饌事也、其儀寢殿南廂五ケ間立亘四尺屏風、等、敷長筵如恆、居饗儲人々座、次將等奧座、諸卿端座、更西廂、殿上、渡殿透廊西對南庇、中門廊等敷筵、中門廊將監、將曹座、饗六前、綠、端、同對南庭、官人以下饗、三行、侍所諸大夫饗、東廊前引幔、西中門南引幔、車、宿、中門內酒部所幄、大將先、著殿上人座、本府次將、藏人頭中將顯實朝臣、中將宗輔朝臣、少將家定進出庭、中、其後官人以下、先、例、藏人、頭、中、將、立、此、列、歟、如何、可、了、歸、出、中、門、前、大將著公卿座上、召清實朝臣、次將可著座之由被示、此、間、諸、卿、暫、頭、中、將、以、下、昇從中門廊著座、宰相中將二人、顯通、顯雅、追加著次將座上、依、先、上、達、部、著、座、新大納言、經、實、治、部、卿、後、實、左兵衛督、能、實、源、中、納、言、國、信、右兵衛督、師、賴、下、官、左大辨、基、綱、左宰相中將二人、忠、教、予申上云、先例一獻之後、公卿所著座也、如

康和五年十二月二十一日

勸盃

何、而新大納言被推著、餘人々被引上、藹著了、何爲哉、官人於庭中舞、求子、和琴、或本家儲之可給云々、今度不給、是又先例者、可尋事也、殿上人著座、官人以下各著座、大將勸盃、瓶子、藏人少將、顯國、圓座、盛雅、敷之、机、次將以下巡流、二獻新大納言、將監座、地下四位、勸盃、三獻治部卿、已上二人、入從一間、居次將座、上勤、宗仲、將陪、四獻左兵衛督、勸大將擬公卿、四獻之間、官人、與次將相互下盃、末座、議擬殿上人座、次汁物、五獻源中納言、同、四、居菓子、殿上人四位五位相加取次將祿給之起座、次又殿上人取公卿祿奉之、次牽出物馬一疋被奉新大納言、及深更人々退出、中、

密々纏頭アリ 忠實饗饋 物具ヲ遣

家忠所々ニ慶ヲ申ス

後聞、今朝右大臣殿渡大將宅花山院給、歸給之間、大納言殿下御隨身敦時纏頭、宰相中將忠教、民部大輔等同給之、彼息侍從忠宗纏頭、但纏頭此間有制之比、依密々儀不及廣歟、此事且又先規也、今日饗饋物具皆從殿下被奉云々、御馬四疋、置移、殿下被渡大將、御使清實朝臣、大將給祿云々、
廿二日、新大將被申慶所云々、被申、被伴人々左兵衛督、能、宰相中將忠、被相、具者、前驅十八人、此中四位二人、重仲、六位四人、君達、四人、忠宗、忠長、院東宮、殿下、有御

雅實著陣

家忠著陣

任大將兼宣旨

答拜、牽出物馬一疋、北政所、高倉、一宮、母堂許者、大將歸家之後、被奉馬於左兵衛督云々、今日又內大臣被渡左大將之後、被著本陣云々、先左大辨候申文、藏人少將顯國下申吉書、次又覽本陣書等、次將等在參議座申行云々、廿九日、中、今日新右大將初被著陣云々、先參左仗、左大辨申文、頭中將顯實朝臣下吉書、次渡階下著右近陣、頭中將、右少將家定候之、次第事等如恆云々、

〔本朝世紀〕

十二月九日、甲寅、晴、權大納言 家忠、參入、奉任大將宣旨、

廿一日、丙寅、有任大將事、大納言俊明卿以下參御前、有除目事、仗座清書如常、不被仰饗祿事、次新大將被申慶賀、自敷政門退出給、中將以下相從之、今日不被仰饗祿事如何、中、

左近大將正二位源朝臣雅實兼、內大、

中將從三位藤原朝臣忠教兼、參、議、

將曹豐原時元元、府、

右近大將正二位藤原朝臣家忠兼、權、大、納、言、去、九、日、

權中將正三位源顯、通、元、左、

廿二日、丁卯、內大臣轉左大將後、初參仗座給、有吉書申文、

家忠任大
將ノ事情

法皇宗通
ヲ推シ給フ

宗忠ヲシ
テ奏聞セ
シメ給フ

康和五年十二月二十一日

三三四

廿九日、甲戌、○中又權大納言 家忠、任大將後初參仗座、有吉書申文、次被著本陣、

〔今鏡〕

花の山ふぢなみの中

（師賢）

おほとこのをのこきみたちは、（師通）後の二條殿の

つきに、花山院の左のおとゝいゑたゝとて、大臣の大將にて、ひさしく一のかみにておはしき、○中このおとゝ關白にもなり給へき人におはすれと、御あにの二條殿の御子ふけ（忠賢）の入道おとゝの大殿のむまこにおはするうへに、御子にしてたてまつり給て、關白つき給へれば、大殿のおはしましゝ世（代）より、ふけとのをたのみ（代）ましてあれとおほせられをきてさせ給へりければ、なにことも申あはせつゝ過給へりけるに、富家殿關白になり給ひて、大將のき給へりけるを、白河院の御おほえにて、宗通大納言なるへしときこえければ、このおとゝのふけ殿にいかゝし侍へきと申あはせ給ければ、いかにもちからをよはぬ事にこそあめれ、さるにても、もしすこしのつまともやなると、中宮に心さしを見え申給へ、この家にとなきことなれとなと侍ければ、まことにしか侍事とて申いれ給へりければ、おもひかけぬ御心さしなときこえ給ける程に、白河院宗忠のおとゝ頭辨におはしける

御返事

政ハ司召
ニアリ

時、きとまいれと侍ければ、をそくやおほしめすらんとおそれおほしけれと、いと心よき御氣しきにて、堀河のみかと位におはしましゝ時、うちへまゐりて申せとて、大將あきて侍にむねみちをなし侍らんと思給なり、おさなくよりおほしたて侍て、さりかたく思あまりになんたとそうせよと侍ければ、わつらはしきことにかゝりぬとおもひなからまいり給へりけるに、うちは御ふえふかせ給ひて、きこしめしもいれさりけるを、ひまうかゝひてかくとそうし給ければ、御返事もなくて、猶ふえふかせ給ていらせ給にけるを、いそきて御返事申せと侍つる物とおもひておとろかし申されければ、いてさせ給て、いかさまにも御はからひにこそ侍らめ、かくおほせつかはすへしとも思たまへ侍らす、かゝる仰侍れば、おそれながら申侍るになむ、むかしうけ給侍し仰に、世のまつりことは、つかさめしにあるへきなり、しかあれは大臣大將なとよりはしめて、ゆけいのまつりことまで、人のみゝおとろくはかりのつかさを、よくためらひて、世の人いはむ事をきくへきなりとうけたまはりはへりしより、いとかしこき仰なりと、心のそこにおもひ給てなんまかりすき侍る、此大將の事は、しかるへきにと

康和五年十二月二十一日

三三五

りて、いゑたゞこそ關白の子にて侍うへに、位も上臈に侍るを越侍らんや
いかゞとおもひたまふるに、下臈成とも、身のさえなとすくれ侍らは、其か
たともおほえ侍へきに、それもまさりたることも侍らす、いかにも御はか
らひに侍るへしと申せとのたまはせければ、かへりまいられ侍りけるに、
いそきとはせ給ける程に、かくと申ければ、院きかせ給て、しはしさふらへ
とてかさねてめして、えもいはすのたはする物かな、まことにことほりな
りとて、いゑたゞ仰くたすへきよし侍りて、そのおとゞ大將にはなり給
ひける、○平治物語
異事ナシ

法皇家忠
ヲ推シ給

令子内親王、越後守藤原敦兼ノ五條坊門堀河第二御方違アラセラル、

〔中右記〕十二月廿一日、丙寅、天晴、○中 又前齋院依御方違、出於禁中、渡御越

公卿五人
連車扈從

後守敦兼朝臣五條坊門堀川宅、左衛門督以下公卿五人連車扈從、出車三兩、
網代、御車、院唐、殿上人、諸大夫前驅、予依仰扈從、

長治元年正月十日、未剋許參内、○中 今夜前齋院令還入禁中、給、源中納言、殿

上人五六人許參仕云々、

〔殿曆〕十二月廿二日、丁卯、天晴、○中 今夜齋院出給越後守敦兼家、

○殿曆二十二日ト爲ス、敦兼ニ越後守重任ノ宣旨ヲ下スコト、本月三
十日ノ條ニ見ユ、

二十二日、陣定、大神宮神御衣祭式日延引及ビ近江、陸奥兩國司申請ノ
コト等ヲ議ス、

〔殿曆〕十二月十九日、甲子、天晴、不出行、○中 午剋許爲隆來云、伊勢大神宮沙

汰文持來、

〔中右記〕十二月廿二日、○中 御佛名間ノ條參看、一日有陣定、予依小所勞、從内

俄退出、

後聞、伊勢神衣事云々、上卿民部卿、左大辨書之者、

〔本朝世紀〕十二月廿二日、丁卯、○中 略、雅實、仗座ニ參入スルコトニ次大納

言俊明以下參入、被定申去九月伊勢太神宮言上服織麻績御衣式日延引、被

勘問大宮司宣孝以下子細、并近江、陸奥國司申請事等、

○大神宮神御衣祭式日延引ニ依リ、大宮司大中臣宣孝ヲ主稅寮ニ勘

問スルコト、十一月十八日ノ條ニ見ユ、

二十三日、辰、光仁天皇國忌、

上卿

廿四日、己巳、中春宮自高陽院遷御高松賞、八月十七日、爲立太子渡御、以同也、

正五位下藤原仲實宮内少輔、太皇太后宮權、大進

藤原宗能左兵衛佐、左大辨、宗忠卿息

廿五日、庚午、中次權中納言能實行位記請印事、以右少將家定爲中務輔代、

高陽院ヲ東宮御所ト爲スコト、八月五日ノ條ニ、東宮、高陽院ニ遷御

ノコト、八月十七日ノ條ニ、高松殿ニ遷御ノコト、同月二十七日ノ條ニ、

忠實、高陽院ニ移ルコト、長治元年正月二十日ノ條ニ見ユ、

二十四日、中官奏、位祿定及ビ大糧申文、

〔殿曆〕十二月廿四日、己巳、天晴、中今日有官奏、亂心地猶不快、仍不參、戊剋

許依内覽來著直衣冠等於對面（西之）南相逢見文、信乃文五通、此内有減省、

卅日、乙亥、天晴、不出行、中今曉信乃惣返抄持來、遠江又同、

〔中右記〕十二月十三日、中略、不堪佃田和（後略）次爲定申位祿、被尋文書之處、于

今不具之由所申也、左府命云、位祿定春之事也、文書未具之由申上之條、位祿所史懈怠也、早可處勘當由可仰下者、仍件旨下知大史了、位祿所史良兼云々、

信濃國ノ
文減省
返抄

位祿所史
懈怠ニ依
リ勘當ス

位祿定延
引

臨深更事了退出、

廿四日、中左大臣參仗座、有官奏并位祿定、大糧申文云々、（左略）左大辨候之、

〔本朝世紀〕十二月十三日、戊午、中今日可有位祿定、文書不具延引、仍彼所

（朱書下同）「史恐懼事」
史良兼恐懼畢、尤奇怪也、

廿四日、己巳、左大臣參入、有位祿定、大糧申文、官奏等事、

二十五日、庚石清水八幡宮權別當光清ヲ別當ト爲ス、

〔殿曆〕十二月十九日、甲子、天晴、不出行、中頭辨戊剋許來云、今夜八幡別當

可被補、而申事ヤアル、申云、修理別當圓賢ヲ可成權別當給、即參了、同剋許示

延引之由、

廿五日、庚午、天晴、聊依風氣不出行、中頭辨爲内覽來、頭中將（頭中）又同依風氣不

相逢、

〔中右記〕十二月廿三日、中今夜飛雪紛々、以法橋光清可爲八幡別當之由

被仰下、（年々）上藤法眼覺心依中風不仕也、仍雖下藤被任歟、

〔本朝世紀〕十二月廿五日、庚午、中今日被補八幡別當、（法橋）光清、元權別（左略）

大臣下給頭辨云々、

圓賢ヲ權
別當トナ
ス延引

補任ノ事
情

康和五年十二月二十五日

三四二

〔石清水八幡宮記錄〕

別當十一 ○山城 石清水八幡宮略補任

光清 康和五年十

二月廿五日宣下、同廿八日官符到來、

〔石清水八幡宮記錄〕

權別當十一 ○石清水八幡宮略補任

圓賢 長治元年六

月廿七日官符、

〔菊大路文書〕

○八別當事

光清法印、同御宇、鳥羽、讚岐院、生年廿一、補別當、康和五年十二月廿五日宣下、

同廿日官符、從權別當、

〔石清水文書〕

佛神寺惣次第抄

拜堂ノ次

御拜堂并三日厨先例

長治元年十一月十日、別當法橋

先正印奉上、奉納寶藏了、御共、當時三綱皆參、

次午正、長吏參拜寶前、御座中門前敷之、在差筵、

三綱等、各座前曳下疊祇候、

次讀官符、三綱役可有故實、在被物、寺任少別當取之、

次諷誦、

官符ヲ讀

諷誦

導師作法如常、諷誦一裹

呪願 在被物一重、寺任少別當取之、

導師 在被物一重、同少別當取之、

次長吏參拜御堂、禮堂格子內正面敷御座、在差筵、

次諷誦、

禮盤立禮堂、取却正面犬禦、諷誦物一裹 絹廿疋、

呪願 在被物、權官取之、

導師 在被物一重、權官取之、

次長吏參拜諸神畢、

次長吏以下著座畢、

次御供、

祝神主 在被物一重、寺任少別當取之、 檢知俗官 單一領、 樂人 念歎、

次三綱引率奉迎正印

前宮守二人 次大禰宜持正印 次禰宜二人 次預所司 次堂達二人

次三綱、即登從南橋、安置御棚上、但於宮守者橋許留了、三綱以西爲上

御供

康和五年十二月二十五日

三四三

康和五年十二月二十五日

三四四

藤、正印前烈座各賜被物、次堂達二人、禰宜三人各賜單衣、次宮守二人、警蹕巡檢二人賜腰差

次僧供饗 僧俗所司被物

次奉行 次捺印了、在單衣一領、

次御殿司等 在單衣一領、

次長吏取奉行符案、中門前ニシテ拜シテ、從廊渡テ、西廊御休所入御、即南向御坐、

次三綱、引率捧持印鑑等、參御休所、上藹鑑、次印、

次年中行事、各三拜、奉授之、各在被物一領、

次少饗膳 長吏二本、三綱一本、

次成吉書 伊与國御封 福□燈油國 万代別宮、長吏三綱加署了、次任符加署於長吏御

前、向北捺印了、以吉書入印篋、付封了、

次如本次第給請、從五師座前渡、奉納御倉了、其間長吏馬場殿令渡御、三日

厨始自今夜、所司等退出、各成宿直裝束參臨、戌終許也、馬場殿中障子ヲ取

却、北橫座南向御坐、東連座西向官任所司、西座俗別當 神主 其次南

吉書

三日厨

饗膳備

緣帶寺任少別當、數剋取盃酒

饗膳備

正官廿前、權官十前、侍廿前、堂達卅前、小綱等、饗膳折敷饗等事、

丑時畢、第二日 三日 同之、

〔釋家初例抄〕上 八幡法師正員僧綱例

法印大僧都光清 康和五年敍法橋、二十、

○光清ヲ法橋トナスコト、便宜合敍ス、光清ノ別當補任ノ日ヲ、中右記、

二十三日ニ作ル、別當清圓寂スルコト、本月四日ノ條ニ見ユ、

二十六日、辛未賀茂社ノ怪異ヲ軒廊ニトス、

〔中右記〕十二月廿六日、○中(雅俊)左衛門督參仗座、被行軒廊御下、鴨社申事、鳥不

宿樹上怪所事、

〔少外記重憲記〕十二月廿六日、辛未、權中納言雅俊參入、先被行軒廊御下、是

鴨御祖社言上、去十月一日、靜原御手代四坪内、鹿爲狼被喰死、并去月卅日、以

後、鳥不參宿社頭樹木事等也、○本朝世紀同シ

政、尊勝寺阿彌陀堂造作日時定、

康和五年十二月二十六日

三四五

鳥樹木ニ宿ラズ

鹿狼ノ爲メニ喰ハル

康和五年十二月二十七日

三四六

〔殿曆〕

十一月廿七日、壬寅、天陰、○中 左中辨時範來、尊勝寺文内覽、頃之退出

〔中右記〕

十二月廿六日、終日候内、有政、左兵衛督、予右少辨俊信、少納言懷季

參勤之、○中 又尊勝寺、阿彌陀堂造作日時、左兵衛督同被勘申、

〔本朝世紀〕

十二月廿六日、辛未、○中 次被定可被立尊勝寺阿彌陀堂日時、棟上

明年八月
二日、癸卯

○尊勝寺内ニ阿彌陀像ヲ造立スルコト、七月一日ノ條ニ、高階爲家ヲ

シテ、同堂ヲ造進セシムルコト、長治元年七月二十四日ノ條ニ、同堂供

養ノコト、同二年十月十九日ノ條ニ見ユ、

二十七日、壬官奏、著欽政、

〔殿曆〕 十二月廿七日、壬申、天晴、不出行、依官奏、酉剋許參内著衣冠、於殿上内

覽、辨長忠朝也、今夜侍宿、○中 左大臣被候官奏、右大辨又同、午剋許頭中將爲

内覽來、

廿八日、癸酉、天晴、巳剋許退出、

〔中右記〕 十二月廿七日、○中 晚頭左大臣參仗座有官奏、宗忠下官并右中辨長忠、

右大史有時候之、奏文十三通、及深更退出、○中

今日使廳有著馱政云々、

〔本朝世紀〕

十二月廿七日、壬申、左大臣參入、有官奏事、

右大臣忠實、興福寺別當覺信ヲシテ、同寺衆徒ノ張本ヲ追却セシム、

〔殿曆〕

十二月八日、癸丑、天晴、○中 爲院御使右大辨往反、

廿七日、壬申、天晴、○中 未剋許右大辨、奈良別當法印等來合、御寺沙汰也、同剋

許各退出了、

廿八日、癸酉、天晴、○中 今日毎日、月也春日奉幣立、紙百以下、家司社司ノ許送遣、

件幣長者後于今不進條、尤不便也、服者僧尼不來、又潔齋、

〔中右記〕

十二月四日、○中 略、法成寺八講ノコトニカ、次詣奈良法印房、京極殿北

御及深更沙汰御寺事、

八日、晚頭參内、○中 又參院令申之次、諸寺大衆事令申給、又參内、奏件旨、又依

御返事參院申御事退出、

廿七日、爲御使二ヶ度參院、又參殿下、奈良法印被參會、御寺大衆張本可追却

由面被仰下、

長治元年二月廿日、午時許參右大臣殿、申御寺沙汰并金峰山衆徒事、

康和五年十二月二十七日

三四七

○忠實春日社奉幣ノコト、便宜合致ス、覺信、興福寺衆徒ノ上洛ヲ止ム
ルコト、五月十二日ノ條ニ見ユ、

二十九日、軒廊御下、

〔殿曆〕十二月廿九日、甲戌、天晴、○中頃之頭辨來云、○中但軒廊御下候、內覽

如何、余內覽奏後持來有何事、頭辨還出了、

〔中右記〕十一月七日、壬午、○中今日已剋許依有召參院、雖御物忌、召御前令申

內御事、○中則參內、於黑戶方令申此旨、○下

十二月廿九日、○中源中納言參仗座、被行軒廊御下者、

〔本朝世紀〕十一月卅日、乙巳、○中又左大臣殿下給阿蘇宮新池被掘出解狀、

可勘例者、

〔少外記重憲記〕十二月廿九日、壬申、○中權中納言國信行軒廊御下、是伊世齋王

依月事數度不參祭庭、并稻荷社田中明神樹木俄枯、大宰府阿蘇御池傍新池

被掘出解狀等也、○中本朝世紀

外記政、小除日、僧事、又秀才及ビ勸學院學問料ノ宣旨ヲ下ス、

〔殿曆〕十二月廿八日、癸酉、天晴、○中申剋許頭辨頭中將等來、內覽、

稻荷社
枯
木
俄
枯

阿蘇宮
新池
掘
出

齋宮御違
例

內覽

僧綱召
下

阿闍梨
內

供宣下
別

梵釋寺
別

當融院
別

小除日

犯人追
捕

政ノ賞

口宣ヲ
仰

下

廿九日、甲戌、天晴、不出行、午剋許頭辨來、內覽、先是爲隆來、同之、○中略、法成寺
ノコトニカ、ル、長治元、此間右大辨來、戊剋許爲御使爲隆來云、料文、阿闍梨
年正月四日ノ條ニ收ム、○中如此諸寺別當先例人々、被尋問常事候、如此事一
并諸寺別當事等也、○中身難申左右者、爲隆歸參了、頃之頭辨來云、同事、

〔中右記〕十二月廿六日、○中爲御使參院申事、○中僧事、○中給料事、

廿七日、爲御使二ケ度參院、

廿八日、入夜參內之次先參院、次參內申御返事、

廿九日、巳時許參院、爲御使參內二ケ度、又參殿下二ケ度、僧事、給料等沙汰也、

但依有大事、僧綱召被止由、從院令申給也、○中

阿闍梨四人、內供二人、宣旨被下了、又梵釋寺別當大僧正隆明、圓融院別當法

眼靜意、文章得業生藤尹通、○中東宮、學生藤資光學問料於勸學院、資光者故有信

朝臣三男、爲勸學院學頭、年廿九、依稽古之勤、殊被抽賞也、今夜又有小除日、木

工允平定光、右兵衛尉平貞兼、藤盛道、是追捕犯人賞云々、今日又晚頭有政、藤

中納言、左大辨行之、但不被著南所云々、晚景之政甚以不便也、後聞、件除目不

書上、只口宣被仰下者、世間人爲奇怪、於陣臨時除目被行時、必以參議令書恆

康和五年十二月二十九日

三五〇

任官宣旨

例、今度不然、如何云々、
〔本朝世紀〕十二月廿九日、甲戌、政中少辨不參、○中次召予被仰下任官輩宣旨、

木工少允平定光帶刀、右京

右兵衛尉平貞兼左衛門尉兼

藤原盛道帶刀、左衛門

已上皆剩闕云々、春宮坊帶刀於陣頭搦追犯人賞、上卿源中納言〔廣信〕召仰大外記師遠云々、口宣例不穩事歟、

宣旨

〔宋考〕仰事〕
宣旨

文章得業生藤原尹通給料

勸學院學問料藤資光學頭、故右中辨

阿闍梨

阿闍梨

禎基觀音院分、大

忠暹羅惹院分、

賴照積墨寺分、法

覺珍慈德寺分、權少

內供奉

內供奉

順源法印慶

仁實法印相

梵釋寺別當大僧正隆明

圓融寺別當法眼靜意

〔勸修寺長更次第〕八代 法印權大僧都寬信大藏卿

同十二月卅日、東大寺准得業宣下、

〔太元祕記〕○柳原家記 一別當次第事

第廿三堀川 定慶 康和五年十二月廿九日任、定慶者和泉守貞義子也、父

逝去後經五ヶ月、補此職了、○法琳寺別當宣慶ノ寂ニルコ

〔法琳寺別當補任〕第廿三阿闍梨定慶治三

康和五年十二月廿九日宣下、

〔三寶院文書〕八十五 太元別當寺務次第

第廿三阿闍梨定慶持阿闍梨三年

蒙宣旨、康和五年十二月廿九日、

〔入唐五家傳〕小栗栖律師傳并太元阿闍梨次第

第廿三阿闍梨定慶持阿闍梨二年蒙宣旨、康和五年十二月廿九日、

康和五年十二月二十九日

三五二

東大寺准
得業
法琳寺別
當補任

三十日、追儼、大祓、

〔殿曆〕 十二月卅日、乙亥、天晴、○中追儼如常、

〔中右記〕 十二月卅日、追儼、上卿源中納言、參議家政、

〔爲房卿記〕 十二月卅日、乙亥、追儼如例、

〔本朝世紀〕 十二月卅日、乙亥、○又大祓、追儼如常、

東宮節折、

〔爲房卿記〕 十二月卅日、乙亥、○中東宮節折被行之、其儀同內儀云々、撤晝御

座、供神事御座、半疊、京筵、東西北三面立廻御屏風、御座前立御几帳、南庇御簾皆垂

卷上、御座間五寸許南簀子敷、打藏人縫殿女官座、砌下敷神祇官并供奉所

司座、剋限御乳母奉抱、

內侍除目、輕囚ヲ免ズ、

〔殿曆〕 十二月卅日、乙亥、天晴、不出行、依內覽職事等來、今日有免物、

〔中右記〕 十二月卅日、○中今夜有臨時免物、未斷輕犯者廿餘人、又有內侍除

目、

〔本朝世紀〕 十二月卅日、乙亥、有內侍除目事、○中

御乳母東宮ヲ抱キ奉ル

未斷輕犯二十餘人

內侍掌侍源朝臣寧子、

越後守藤原敦兼ニ重任ノ宣旨ヲ下ス、

〔中右記〕 十二月卅日、○中越後守敦兼蒙重任宣旨、

○令子內親王、敦兼ノ第二御方違ノコト、本月二十一日ノ條ニ見ユ、

年未雜載
天文、變異

京都火災
一條ノ北
邊燒失ス

〔中右記〕正月二日、甲午、天晴、略○中今夜一條北邊燒亡、

高陽院附
近燒失ス

〔殿曆〕正月九日、己丑、天晴、戌剋許欲參法勝寺并尊勝寺等間、日ノ本年正月八

近邊有火事、仍暫遲々、

〔中右記〕正月九日、夕方參内、略○中候御前之間、當東方有燒亡所、乍驚退出、從

近衛大路南中御門北、西洞院東二町餘小屋等也、馳參殿御所高陽院、火滅了、

〔本朝世紀〕正月九日、夜近衛南、西洞院東、室町西、中御門北、多以燒亡、

〔殿曆〕正月十九日、己亥、天晴、略○中以綱家燒了、檢非使等來奏、但不奏内、此間

万事吉間歟、

〔中右記〕正月十九日、略○中今夜宿侍、戌剋許前相模守以

〔本朝世紀〕正月十九日、己亥、略○中今夜前相模守以綱朝臣宅燒亡、二條北、東

〔中右記〕二月廿四日、癸酉、略○戌時許室町末七條以南小屋等燒亡、

十一月十三日、略○中此曉四條万利小路小屋等燒亡、

室町七條
燒失ス
四條萬里
小路燒失
公綱第燒
失ス

〔本朝世紀〕十二月二日、夜寮頭公綱大宮御厩小路宅燒亡、

三條京極
燒失ス
基信第燒
失ス
河原院附
近燒失ス

〔中右記〕十二月三日、略○中又夜半有小燒亡、寮頭公綱宅、中御門大

十六日、略○中夜半許三條京極小屋等燒亡、

十七日、略○中亥時許當北方有燒亡、是前右衛門佐基信三條万利小路宅云々、

廿八日、略○中略ニカカ、ル當異方有燒亡所、乍驚退出歸茅屋、伴燒亡河原院

邊小屋云々、

〔中右記〕三月四日、略○中亥時許小地震、

〔本朝世紀〕三月四日、癸未、略○中戌剋地動、

六月廿一日、略○中申剋地震、有音、亥時白雲一條自巽及乾、

〔中右記〕十月廿六日、略○中亥剋許地震、甚有聲、

十一月卅日、略○中今日午時許地震三ケ度、

〔本朝世紀〕十一月卅日、乙巳、午時地動、有聲申剋虹見東、

〔中右記〕十二月三日、略○中此晚地震、

廿七日、略○中亥時許地震、

〔本朝世紀〕十二月廿七日、壬申、略○中地大震、

〔殿曆〕四月廿一日、己巳、天晴、午剋許天陰雨降、馬見間雷電鳴、極大、

雷鳴

京都地震

〔中右記〕 四月廿一日、未時許大雷電、

五月廿三日、○中未時許天晴、大雷電、

十月朔日、丁未、朝間天陰大雨去夜丑寅許雷雨、

〔本朝世紀〕 九月卅日、曉更雷鳴雨、降立冬之後、尤爲異而已、

〔本朝世紀〕 五月十九日、丁酉、夜有奔星、

〔中右記〕 十一月九日、○中今日入夜參向民部卿許、○中暫言談之間、空中有

流星
空中光耀
奔星

神社、

〔小山田文書〕 前○豐

御裝束所正檢校大神貞安解 申請□□事

請被殊任先祖相傳并父末貞、伯父小山田祝故弘永讓狀、賜御裁判、爲貫首
國門、從大工友成手稱買得由、無指故、押領先祖相傳田畠子細狀、

在向野鄉內

字神至田二段 畠一段 字大木垣

副進 讓狀

宇佐八幡
宮祝職ノ
相傳

右謹檢案内、於件田畠者、貞安父末貞、伯父小山田宮前祝故弘永先祖相傳之
所領田也、而以去康和五年二月四日、彼祝職并件田畠等從弘永之手讓得、年
來無他妨領知之、○中

保元元年十月廿七日

御裝束所檢校大神貞安

〔金峯神社文書〕 金峯山創草記 一顯蜜佛事

曼茶羅供 於藏王堂爲役行者報恩修之、康和五年 癸未三月七日始之、

一山上勤事

役行者御影供 六月七日、兩壇行之、康和五年 癸未始之、

〔殿曆〕 三月八日、丁亥、天陰時晴、○中辰剋許左衛門督源朝臣雅俊男、以少將

顯重示送云、春日神民兩三來、小子一兩候所 圍、件故依預所事也、余答云、只

今相尋可申、則退出、

〔類聚世要抄〕 十三 德富猪一郎氏所藏 九月四日 春日八講始事

同曆記云、同五年 四月、自佐保田參御社御八講、即籠御社、宿神主時經家了、

八日、季弘檜皮屋二 經覺、捧物之間、副引細馬一疋、栗毛、別當料云々、

〔類聚世要抄〕 十七 德富猪一郎氏所藏 十月 春日御讀經事 九月或

康和五年雜載

三五七

金峯山曼
茶羅供

同役行者
御影供
春日社神
民上洛預
所ノ事ヲ
訴フ

同八講

春日社御
讀經

同權預補
任

熊野新宮
御靈ヲ白
河邊ニ祀
ル

圓宗寺結
緣灌頂

興福寺常
樂會

康和五年雜載

三五八

同曆記云、康和五年十月二日、當講讀經參了、如例於御社行之凡八十人、予所作、仁王經、學衆、金剛般若經、律宗、

〔中臣社司補任〕和○大神宮預補任次第

近助助延一男 康和五年 癸未 十月、讓權預職於男助實畢、

權預補任次第

近助一男 助實 康和五年 癸未 十月補權預、父近助讓也、

〔中右記〕三月十一日、庚寅○中略

今日僧正增譽於白川邊祭熊野新宮御靈云々、

佛寺、

〔三僧記類聚〕二 爲僧綱人勤結緣小阿闍梨例

康和五年二月六日、辛亥、於圓宗寺被修恆例結緣灌頂、同夜小灌頂阿闍梨寬

助律師、

〔中右記〕二月八日、○中略

又行向法印房、密々間常樂會事、及深更歸家、

十日、己未、○中略次參殿下御直廬、申御寺事、常樂會沙汰晚頭退出、

〔類聚世要抄〕

○德富猪一郎氏所藏

二月十五六日

常樂法花會事

同曆記云、同五年（庚和）十五日、今年常樂會聊澆薄云々、但光時并忠方等始爲男舞云々、光末眼前見彥男力舞、輔忠死後○康和二年六月十五日ノ條參看不見子舞之條尤哀也、

堂前僧綱兩松房、行賢、律師一人云々、

長者宣引付云、康和五年、

被長者宣稱、今年無執行別當間、常樂會事自有違例歟、僧綱已講所司五師等

早任恆例、宜令勤行者、長者宣如此、悉之、

康和五年二月十日

右大辨（宗也）一奉了、

下 興福寺

〔類聚世要抄〕

○十五 德富猪一郎氏所藏

九月 法華會

同曆記云、同五年九月卅日、早旦下向、車著佐保田了、法花會講師智賢、前五師

賢義、兼覺、

一日、堅義覺暹

二日、（歷下同シ）澄懷

三日、忠覺

四日、知尋并覺任

五日、叡尊

六日、兼實

康和五年雜載

三五九

同法華會

鹿興福寺
二入ル

醍醐寺修
二月會

同寺清瀧
宮季御讀

同寺三綱
補任

東大寺萬
花會

康和五年雜載

三六〇

〔殿曆〕十一月廿七日、壬寅、天陰、略、中午後雨降、雖物忌外人來、山階寺入鹿也、

〔慶延記〕下六 醍醐雜事記六 一修二月番頭次第

同五年 (庚和) 圓範 隆尊 良順

〔慶延記〕上二 醍醐雜事記二 一清瀧宮季御讀經執事頭帳

同五年 (庚和) 癸未 春三月、賢仁阿闍梨改、正月八日延順、秋分頭次年二月八

日、上下大衆修之、

〔醍醐寺三綱次第〕城〇山

上座慶順 康和五年八月廿九日、忠安辭替、

寺主賢圓、四十、康和五年八月廿九日、慶順轉上座替、

都維那暹賢 康和五年八月廿九日、賢圓轉寺主替、

〔東大寺文書〕〇八十二 第四回採訪

米伍斗大佛殿万花會折敷食祈

康和五年六月九日

判 可下美作納所下司年預五師祈

同寺手搔
會

政所

三綱 〇本文書、朱線ヲ
以テ抹削セリ、

手搔御會樂人饗雜用祈

康和五年八月廿五日

改濟物祈

〔改所カ〕
〔三カ〕
□ 綱

〔東大寺古文書〕〇八 東京帝國大學書伍櫃第十五卷

政所

請定寂勝仁王講請僧事

上旬 良昭改會親奉 大法師 慶久改慶久奉 慶觀改慶久奉、法、師下同シ

中旬 信源奉、奉、 慶覺奉、奉、 長俊奉、奉、

下旬 快覺奉、奉、 改信改信與奉、奉、 圓快奉、奉、 經深奉、奉、

右依例請定如件、

康和五年雜載

同寺最勝
僧仁王講請

康和五年八月廿九日

權都維那法師
都那法師(維那)

上座威儀師
權上座大法師

〔東寺長者補任〕二 六月十六日、忠嚴闍梨於東寺舍利供養、導師勝暹已講

呪願濟暹律師、請僧六十口、(務) 十二月十九日灌頂、小(阿闍梨) 隆真三ヶ年同

東寺舍利
供養
同寺灌頂

長者法印權大僧都經範法、(務) 十二月十九日灌頂、小(阿闍梨) 隆真三ヶ年同

名如何、○後七日御修法阿闍梨名帳異事ナシ、 十二月十九日、(法印權大僧都經範) 三寶院舊記

〔東寺灌頂大阿闍梨名帳〕二 〇三四所收

〔東寺文書〕御一之七

〔准定額僧請書案并請文等〕

東寺 同日請

咽請

權律師

阿闍梨、、、、、

勸修寺八
講

同寺權別
當

右准定額僧、被行來十九日始自恆、例結緣灌頂會、可被勤仕御願者、請定如件

康和五年十二月十一日

都維那法師

法印權大僧都(經範)

阿闍梨

上座大法師

寺主大法師

〔爲房卿記〕 八月一日、戊申、○中略、高陽院修理、依此沙汰、今日不參勸修寺、出

羽盛實以下四人參會云々、

〔勸修寺文書〕〇山十一 一別當次第

八前大僧都寬信

康和五年十月廿七日任權別當、年二十、于時、闍梨先父、先師相議、被

〔野澤流諸派略記〕 一勸修寺別當次第

寬信法印法務、康和五、十、廿七、始任權別當、年二十、先例不見云々、 〇東寺

收勸修寺別當
次第異事ナシ、

〔河內國小松寺緣起〕 本尊御事

康和五年雜載

承和勸進上人僧道智所持本尊奉安置講堂、小松未現給、名號文字御本尊、奉納毗沙門堂、○中

記云、金色紙名號御本尊、永長元年大歲丙子二月十八日夜、遠江國修行者盜取、於京中賣之、八幡住人買取、而奉安置本尊云々、堀川院○中

去永長元年二月十八日夜、盜入奉取金色紙名號文字重寶之由、天下有風聞、故康和五年八月二日、奉納于宇治寶藏寺僧等奏聞子細之時、依鳥羽院宣旨、天仁二年歲次己丑、如元返入當寺給云々、

小松寺ノ
重寶ヲ字
治寶藏ニ
奉納ス

〔門葉記〕

七十一 兩寺檢按次第 三昧院檢按次第當院九條右大臣建
座主 寬慶 康和五ノ八一補○華頂要略一所收無動
寺檢按次第異事ナシ

三昧院檢
按補任

公家、

〔殿曆〕正月十九日、己亥、天晴、辰剋許參御前、則退出、

忠實參內
宿仕

二月六日、乙卯、天晴、辰剋許參御前、頃之參齋院御方、次參宮御方、

九日、戊午、天陰、雨不降、入夜雨下、○中 戌剋許余參內、先參齋院御方、則參御前、

頃之參宮御方、今夜宿仕、

十二日、辛酉、天陰、雨降、申剋許參內、戌剋許退出、

十五日、甲子、天陰、○中 申時許參內、今夜侍宿、

廿二日、辛未、天晴、申剋許參內、酉剋許退出、

廿六日、乙亥、天陰、○中 酉時許參內、先參御前、亥時許下宿所、侍宿、

廿七日、丙子、天晴、辰剋許參御前、頃之下宿所、酉剋許退出、

三月五日、甲申、天晴、○中 未剋許參內、○中 參內共人左兵衛佐宗能、酉剋許下

宿所、其次參宮御方、於殿上迎女房、則立了、今夜侍宿、巳時許參齋院御方、暫後參內御方、

六日、乙酉、天晴、巳剋許參御前、午剋許下宿所、申剋許又參御前、○中 酉剋許退出、

八日、丁亥、天陰、時晴、○中 酉剋許參一條、則參內侍宿、

五月九日、丁亥、天陰、雨降、辰剋許參御前、戌剋許退出、

十八日、丙申、天陰、猶雨降、○中 參內、參御前、暫後下宿所、

十九日、丁酉、天陰、雨猶盛降、辰剋許參御前、戌剋許退出、

六月六日、癸丑、天晴、酉剋許參內、侍宿、

十五日、壬戌、天晴、○中 酉剋許參內、侍宿、

十八日乙丑天晴，略中申剋許參內侍宿。

〔中右記〕六月十八日，略中右大臣殿令參內給渡御一條殿之後令參內御也。

〔殿曆〕六月廿三日庚午天晴申剋許參內宿侍。

七月九日丙戌天晴，略中戌剋許參內宿侍。

十日丁亥天晴辰剋許參御前申時許下宿所。

八月廿二日己巳天陰辰剋許參御前未時許下宿所。

廿三日庚午天陰午剋許晴退出。

廿五日壬申天陰晚頭參內雨降。

廿六日癸酉天陰自內參京極殿還東三條戌剋許參內此間雨甚降密々參

自陽明門侍宿。

九月四日庚辰天晴，略中參內侍宿。

五日辛巳天晴辰剋許參御前頃下宿所申剋許又參御前。

十四日庚寅天陰雨甚降，略中則參內雨甚降酉時許歎及秉燭退出無指事。

十月二日戊申天晴申剋許參內其次參太宮頃之退出參內今夜候宿。

十日丙辰天晴戌剋許參內先參宮御方頃參齋院頃之下宿所，略下

十一日丁巳天晴午剋許陰未剋許小雨，略中午剋許參齋院并中宮御方頃之

下宿所酉時許參御前戌剋許還東三條前駟一兩來。

廿六日壬申天晴，略中頃之參內戌剋許退出。

十一月廿六日辛丑天晴，略中戌剋許參內則退出依中間不見參余隨身重時

賜馬依早參也。

十二月二日丁未天晴，略中戌剋許參內參御前候數剋侍，略中頃之著直衣參

內侍宿。

三日戊申天晴辰剋許參御前午剋許退出用中門。

六日辛亥天晴午剋許參御前今日無指事申剋許退出。

十二日丁巳天晴今夜侍宿。

十三日戊午天晴午後退出。

〔殿曆〕六月十六日癸亥天晴，略中其次參院則退出。

七月十日丁亥天晴，略中酉剋許參院則退出還家勤女房陪膳。

九月十日丙戌天晴巳剋許陰雨降午剋許參院，東宮御方候頃之退出此間雨甚

降。

〔中右記〕二月廿二日、○中及深更參內宿侍、

五月廿三日、終日候御前、○中歸參內宿仕、

廿九日、終日候內、

六月三日、○中次參內候女房陪膳、入夜退出、

五日、○中午後參內、

十三日、○中夜參內宿仕、

十四日、終日候內、今夜又宿仕、

十五日、早旦退出、

十月十五日、早旦參內、且依有召也、終日勤女房陪膳、○中次參內、已及深更御

寢者宿侍、

〔殿曆〕十月十五日、辛酉、天晴、○中同（後）剋許（宗也）大辨來、○中彼大辨依無女房陪膳

念參內、

〔中右記〕十月廿六日、朝間候御前、

廿七日、○中今夜宿侍、

十一月廿三日、終日候內、晚頭退出、

廿六日、早旦參內、終日祇候、晚頭退出、

廿七日、壬寅、○中今夜依女房陪膳宿侍、午後

廿八日、終日候女房陪膳、入夜退出、

十二月四日、○中次參內宿侍、

十八日、入夜參內、暫候御前、臨深更退出、

廿五日、○中今夜宿侍、

〔中右記〕十月九日、晚頭參院、○中出仕之後依日次宜也、

〔殿曆〕二月九日、戊午、天陰雨不降、入夜雨下、未剋許縫殿大夫爲賢於院御使

來、則退出、

〔朝野群載〕二十一 補保刀禰

右京職符 九條二坊二保

常澄重方

右人補任刀禰職已畢、保內宜承知、令執行之狀如件、故符、

康和五年二月十三日

少進紀

〔殿曆〕三月六日、乙酉、天晴、○中申剋許又參御前、源（國信）中納言被候、

同參院
法皇爲賢
ヲ忠實ノ
許ニ遣シ
給フ

京都九條
二坊二保
刀禰補任

國信參內

康和五年雜載

前伯耆守
公文ノ成

〔朝野群載〕二十七國公文下 長官成上文書狀
前伯耆國公文事

右无指訴者、不待次第、可被成上之狀如件、

康和五年十二月廿六日

頭賀茂 在列

官人御中

諸家、

家政宗輔
ト闢諍ス

〔殿曆〕正月三日、癸未、天晴、○中今夜宰相中將家政與新中將宗輔聯合戰中

將宗輔被打了、伴宗輔不覺歟、事出條件宗輔也、

同忠實ヲ
訪フ

十二月廿日、乙丑、天晴、○中宰相中將家政來、

忠實吉書

〔殿曆〕正月五日、乙酉、天晴陰、小雪時々降、○中依吉日、家吉書爲隆申之、伊豫

國御封文也、先召光平令勘日時、依物忌以人申之、

二月八日、丁巳、天晴、不出行、依吉日、今日申吉書、頭辨重資、同中將顯、實、五位藏人爲隆也、余不相合、

職事盛家申之、

同方違

〔殿曆〕正月五日、乙酉、天晴陰、小雪時々降、已剋許召光平陰陽問方違事、頃之

退出了、○中方違止了、

同白河ニ
赴ク

二月六日、乙卯、天晴、○中依方違、向白河邊、阿闍梨房門立也、

三月廿日、己亥、天晴、○中依方違、向白河、乘車立、鷄鳴後還、

十月十三日、己未、天晴、○中依方違、向白河法務房邊、

〔殿曆〕正月五日、乙酉、天晴陰、小雪時々降、○中今年始沐浴、依日次宜也、女房

同之、

十七日、丁酉、天陰、○中還家佛經供養、法眼寬慶所供養也、布施彼法眼所儲也、

余又儲布施、

三月十八日、丁酉、天晴、未剋許供養佛、十一世間夢想歟、講師齊尊律師、今日依

吉日始修法、金銅大威德也、阿闍梨俊慶、石藏、於東三條始之、○中頃之退向東

三條始法、時了還家、○後慶ノ寂スルコト、年、未雜載、生死ノ條ニ見ユ、

五月五日、癸未、天晴、○中心經尊勝陀羅尼、大威德供養、齊尊講師、

六月廿四日、辛未、天晴、○中今日始修善二壇、

廿六日、癸酉、天晴、○中向壇所、

七月三日、庚辰、天晴、不出行、依吉日始修善、大威德法、阿闍梨、仁慧法橋、

十月十五日、辛酉、天晴、○中佛師等一兩來造佛同書、

康和五年雜載

同佛事ヲ
修ス佛經供養

十一面佛
ヲ供養ス
大威德法
ヲ東三條
第ニ始ム

心經等ノ
供養

大威德法
ヲ修ス

愛染王ヲ造ル
忠實馬ヲ見ル

馬寮ノ馬ヲ見ル

廿七日、癸酉、天晴、午剋許始佛愛染王

〔殿曆〕正月廿日、庚子、天晴、不出行、午時許見馬、此外無別事、

廿九日、己酉、天晴、略中未剋許見馬、密々事也、

二月十七日、丙寅、天晴、略中午時許見馬、不出行、

三月二日、辛巳、天陰、雨不下、辰剋許見馬、今日不出行、

四月一日、己酉、天陰、雨降、未剋許見馬、酉剋許馬寮御馬六疋同見、戌剋許見了、

三日、辛亥、天晴、馬寮御馬同見、依物忌、自夜前南馬廐籠也、辰剋許見了、

九日、丁巳、天晴、不出行、巳剋許見馬、

十五日、癸亥、天晴、巳剋許見馬、

十八日、丙寅、天晴、巳剋許見馬、今日不出行、

十九日、丁卯、天晴、不出行、辰剋許見馬、略中入夜見馬、

廿日、戊辰、天晴、不出行、申剋許見馬、

廿一日、己巳、天晴、午剋許天陰、雨降、馬見間雷電鳴、極大、

廿四日、壬申、天晴、不出行、見馬、

六月卅日、丁丑、天晴、略中略、法皇、春日社御幣了後見馬、

同物忌

物忌ト雖モ開門ス

七月十七日、甲午、天晴、見馬、

廿日、丁酉、天晴、辰許見馬、申剋許見寮御馬、密事也、

十月六日、壬子、天晴、略中未剋許見馬、

廿三日、己巳、天晴、略中早旦見馬、

十一月二日、丁丑、天晴、不出行、略中午剋許見馬、

十二月八日、癸丑、天晴、辰剋許見馬、

〔殿曆〕二月三日、壬子、天晴、依物忌不出行、

廿三日、壬申、天晴、依物忌不出行、

廿四日、癸酉、天晴、依物忌不出行、

廿五日、甲戌、天晴、略中今日雖物忌開門、

三月十九日、戊戌、天晴、依物忌不出行、

四月二日、庚戌、依物忌不出行、

六日、甲寅、天晴、略中依物忌不出行、

十三日、辛酉、天陰、依物忌不出行、未剋許雷電、

十六日、甲子、天晴、略中物忌也、

堅固物忌

卅日、戊寅、依物忌不出行、
 五月一日、己卯、天晴、依物忌不出行、
 二日、庚辰、天晴、依物忌不出行、
 三日、辛巳、依物忌不出行、
 六日、甲申、依物忌不出行、
 七日、乙酉、依物忌不出行、
 十日、戊子、依物忌不出行、
 十一日、己丑、物忌也、仍不出行、
 十四日、壬辰、天陰、雨盛下、依物忌不出行、
 十五日、癸巳、天陰、依物忌不出行、
 十七日、乙未、天陰、雨降、依物忌不出行、
 廿一日、己亥、天晴、○中依物忌不出行、
 廿四日、壬寅、依堅固物忌不參內、
 六月一日、戊申、依物忌不出行、
 二日、己酉、依物忌不出行、

多武峯物忌
 夢想物忌
 家司等物忌
籠ル

十二日、己未、天晴、依物忌不出行、
 廿一日、戊辰、天晴、依物忌不出行、
 廿二日、己巳、天晴、依物忌不出行、
 廿八日、乙亥、天晴、依物忌不出行、
 七月五日、壬午、天陰、○中今日物忌也、
 七日、甲申、天晴、依物忌不出行、
 廿七日、甲辰、依物忌不出行、
 廿八日、乙巳、天晴、依物忌不出行、
 八月六日、癸丑、天陰、雨降、○中依物忌不出行、雖然外人來、
 七日、甲寅、天陰、○中依物忌不出行、（武殿力）多峯物忌也、
 九月二日、戊寅、天晴、依物忌不出行、是夢想物忌也、極重慎、職事宗仲、盛雅、家司
 重仲、勾當盛經、公達兼基、六位說兼等所候也、侍兩三人候、
 七日、癸未、天晴、依物忌不行、（出殿力）
 十七日、癸巳、從夜前天晴、不雨降、依物忌不出行、五位職、（出殿力）一人不候、不便也、家司
 重仲、勾當盛經、參進、籠物忌、

廿三日、戊戌、天晴、略○中 依物忌不出行、
廿三日、己亥、天晴、依物忌不出行、略○中 宗仲職(事脱カ)北面公達季忠、此外勾當說(脱ラシ)等候也、

廿四日、庚子、天陰雨降、去夜居尊智阿闍梨、辰剋許退出、家司重仲、職宗仲、知宗等候、

十月九日、乙卯、天晴、依物忌不出行、

十二月、戊午、天陰、雨不降、略○中 法眼寬慶來、依物忌也、

十五日、辛酉、天晴、依物忌不出行、

廿四日、庚午、天晴、依物忌不出行、

十一月七日、壬午、天晴、依物忌不出行、

十二月七日、壬子、天晴、依物忌不出行、雖然外物取入、是依口舌物忌也、略○中 午後外人來、

〔殿曆〕二月十七日、丙寅、天晴、辰剋許念珠、(下同シ)

十八日、丁卯、天陰雨降、辰剋許念珠、

三月七日、丙戌、天陰雨降、略○中 同剋許念珠、

忠實念誦

口舌物忌

最勝念誦

十七日、丙申、天晴、不出行、早旦念珠、

五月廿一日、己亥、天晴、略○中 此間勝(最勝)最念珠也、

八月六日、癸丑、天陰雨降、略○中 早旦念珠、

七日、甲寅、天陰、略○中 同剋念珠、

九月十五日、辛卯、天陰雨猶降、略○中 每月尊念珠(勝脱カ)僧三人(來脱カ)

十月十五日、辛酉、天晴、略○中 僧一兩來、尊勝念珠、

十一月廿五日、庚子、天晴、早旦念珠、

廿六日、辛丑、天晴、早旦念珠、

〔殿曆〕二月廿一日、庚午、天晴、未剋許參太宮、頃之退出(參カ)

三月六日、乙酉、天晴、略○中 參太宮、頃之退出、

十日、己酉、天晴、略○中 申剋許參太宮、頃之退出、

十八日、丁酉、略○中 戌剋許參太宮、頃之退、

四月八日、丙辰、天晴、略○中 戌剋許參宮、頃之退出、(本脱カ)

五月四日、壬午、天晴、略○中 次參太宮、

十九日、丁酉、天陰、雨猶盛降、略○中 參太宮、次還高陽院、

同太皇太后宮二伺候ス

尊勝念誦

忠實夢想

同二條ヨ
リ守ヲ召
ス

同慎

同小寢殿
ノ泉ヲ深

訪フ
同麗子ヲ

六月十八日、乙丑、天晴、○中其次參太宮、

八月十日、丁巳、天晴、○中次參太宮、

廿七日、甲戌、雖物忌(太政力)參宮、

九月卅日、丙午、天晴陰、○中參太宮、頃而還東三條、

十月十日、丙辰、天晴、○中次參太宮、

廿一日、丁卯、天晴、○中參太宮、

廿六日、壬申、天晴、○中參太宮、頃之退出、

十一月廿六日、辛丑、天晴、○中午剋許參太宮、頃之退出、

〔殿曆〕二月廿五日、甲戌、天晴、○中今日不出行、依夢想不閑也、

八月九日、丙辰、天晴、雖企參內、依夢想不閑暫遲、前馳等皆退出了

〔殿曆〕三月七日、丙戌、天陰雨降、○中今日無指事、終日雨降、亥剋許從二條被

送守、使大炊允仲季、酉剋許從之所尋申也、件守累代物也、

四月十日、戊午、天晴、依有慎事、閉戶不出行、

十九日、丁卯、天晴、不出行、○中同時小寢殿泉(麗子)はらふ、

五月四日、壬午、天晴、威德相共參京極殿、

十八日、丙申、天陰猶雨降、午時許參京極殿、頃之退出、

八月十日、丁巳、天晴、○中次京極殿、

九月十四日、庚寅、天陰雨甚降、參京極殿、○中參京極殿、頃之退出、

廿日、丙申、天晴、戌剋許參京極殿、

十一月廿五日、庚子、天晴、○中參北政所御方、今日不出行、

〔殿曆〕六月卅日、丁丑、天晴、○中午時許還渡高陽院、○中戌時許被如常、於簾

中有此事、女房姬君等同之、被後參內、○下

七月七日、甲申、天晴、○中乞巧奠祭如常、節供又同、陪膳四位以綱、行事雅職朝

臣、五位、

九月一日、丁丑、天晴、無御燈、(麗子)凡未行、御燈仍可自春行、而依障未行也、○中隨身

右府生公種賜馬、栗毛馬、(宗忠)冬比奉獻也、

二日、戊寅、天晴、○中依神事僧不參、

十二日、戊子、天晴、○中依神事不來僧等、

〔殿曆〕九月五日、辛巳、天晴、○中參東宮路間雨降、候上殿間顯隆來云、院仰也、

依無所不召御前余承之由申、顯隆退出申了、頃之東宮大夫來、於殿上數剋、酉

同高陽院
ニ赴ク
同六月被

同乞巧奠
及ビ節供

同御燈被
ヲ停ム

同公種
馬ヲ與フ

同神事

同東宮ニ
參ル

忠實隨身
ヲ誠ム
同一條殿
ヲ訪フ

同庭ヲ修
理ス
同船岡ニ
雪ヲ觀ル

麗子京極
殿ニ移ル

剋許退出、及秉燭還家、此間雨甚降、

廿八日、甲辰、天陰雨降、○中於東宮於（中）東宮大夫談、

廿九日、乙巳、天陰、時々小雨、午剋許參東宮、御院同所、

十月廿日、丙辰、天晴、申剋許參東宮、

十一月十一日、丙戌、天晴、○中參東宮、頃之退出、

廿一日、丙申、天晴、早旦小雨降、○中則著直衣參東宮、

〔殿曆〕九月十五日、辛卯、天陰、雨猶降、○中依有無便事、隨身二人兼信、誠之、

〔中右記〕十月廿六日、○中午時許參一條殿、右大臣殿（忠實）又渡給間、執申雜事、還

給之後入夜歸家、

〔殿曆〕十一月廿日、乙未、天晴、○中以隨身一兩南面庭（中）令直、

十二月十五日、庚申、天晴、辰剋許見雪船岡邊、

廿四日、己巳、天晴、卯剋爲見雪、向船岡、相具威德、余於北野邊乘馬昇船岡其邊

廻則還了、

〔中右記〕十二月廿四日、早旦右大臣殿御覽雪云々、

〔殿曆〕正月五日、乙酉、天晴陰、小雪時々降、○中依吉日、北政所渡御京極殿、

同忠實ヲ
訪フ

同方違

同太皇太
后御方ニ
候ス

同使ヲ忠
實ノ許ニ
遣ス

同東三條
殿ニ赴ク
宗忠一條
殿ニ參ル

三月二日、辛巳、天陰雨不下、○中北政所渡御京極、則還御、余不參、

〔殿曆〕正月廿日、庚子、天晴、不出行、○中北政所渡御余方、宿御云々、廊出居、

六月七日、甲寅、天晴、○中次北政所方違云々、

十二月七日、壬子、天晴、○中依方違、北政所令渡太宮給、

〔殿曆〕九月卅日、丙午、天晴陰、○中參太宮、○中夜前北政所渡御太宮、

十月廿一日、丁卯、天晴、○中參太宮、北政所御同前、

十一月廿日、乙未、天晴、○中未剋許爲北政所御使大夫家隆來、（少）事也、侍訴事

歟、申剋許還參了、

廿四日、己亥、天晴、○中北政所渡御東三條、依神事不參彼御方、

〔中右記〕正月五日、乙酉、晚頭參兩一條殿、

廿二日、早旦參一條殿、

五月十二日、（庚寅）夜半許參一條宿仕、

十六日、○中早旦參一條殿、入夜歸、

十月十一日、午時許參一條殿、晚頭歸家

十九日、參一條殿、入夜歸、

宗忠俊明
ヲ訪フ
同夢想

十一月十六日、略中密々參一條殿暫祇候、
十二月廿一日、丙寅天晴、略中宗忠下官參一條殿、暫休息歸參内、
〔中右記〕正月五日、中略乙酉、宗忠歸華之次、行向民部卿亭、言談万事、
二月十九日、略中此曉夢想云、有人告云、汝五十三之年重可慎者、此夢不得心
仍所記置也、

同宗通ト
語ル

五月五日、卯剋許夢、日光暗夜成者、此夢甚大驚思歎、
十二日、庚寅中略、宗忠此曉夢、故日野實圓閣梨談極樂往生事、誠以希有也、仍記置、
十月朔日、丁未中略、宗忠此曉夢想云、從東宮給袈裟者、覺之後思之、袈裟福田衣也、定
可浴殊恩之徵歎、

同佛事ヲ
修ス

〔中右記〕二月廿九日、略中略、御物忌ノコトニカ、右衛門督宗通被籠、下官右兵
衛陣直廬之間終日互以言談、及催馬樂并除目口傳等、且又件人一家之上臈
也、仍心中所思申付了、
五月四日、壬午、
送今日限永年、阿彌陀小呪千遍、光明真言百遍、付暹慶阿闍梨、每日令祈念、
是偏爲臨終正念往生極樂也、阿闍梨有道心之人也、仍互爲善知職約束先

同宗俊ノ
遠忌ヲ修
ス

了、
五日、略中一條殿修大納言遠忌佛事、
今夕留一條殿、
六日、夕方歸五條、
六月廿四日、辛未、造立二尺彌勒佛像書寫法華經一部、囑齊尊律師奉供養、是
與遇去雙親、爲值遇慈尊出世之時、法華演說之庭也、
十月二日、略中故大宮右大臣殿御忌日也、經一部相具布施奉送一條堂、

同俊家忌
日法會ニ
經等ヲ送
ル
同清水寺
ニ詣テ
堂一切經
ヲ觀ル

〔中右記〕五月四日、略中略、
今夕參詣清水寺之歎、次カ虚空藏房可達立之一切經堂則廻見、奉納一代理正教、
安置文殊師利、誠成隨喜心、至誠奉禮拜、而其堂東砌有飛泉、住僧云、此寺難
得水、仍聖人祈請之處、從去々年此堂前泉涌出、予初見此、大以隨喜、佛法護
法善神所令然也、雖末代靈驗顯然者歎、予飲此水、願云、一飲清涼之水、長除
我身中之業障、
七日、白地密々行向鳥羽、宗忠兵衛佐宿所聊沐浴、
八日、略中今夕初密々參右大臣殿、

同宗能ヲ
訪フ
同忠實ヲ
訪フ

廿三日、○中未時許天晴、大雷電、入夜參殿下、
六月十三日、參殿下、

〔殿曆〕八月九日、丙辰、天晴、○中午剋許右大辨被來、頃之退出、右大辨男大夫（宗族也）始來、歲（胤アラン）

九月七日、癸未、天晴、○中申時許右大辨來、依有申事、雖物忌相合、頃之退出、
〔中右記〕十月四日、○中先參殿下、東三雖御忌參御出居、

八日、○中入夜參右大臣殿、東三雖御物忌、依召參入御出居方、
十一月廿五日、庚子、○次參殿下、及夜歸家、

〔殿曆〕十一月廿五日、庚子、天晴、○中戌剋許右大辨來、則退出、
廿七日、壬寅、天陰、右大辨午剋許被來、頃之退出、

〔中右記〕六月三日、早旦行向中御門亭初見之、近江守隆時朝臣可相博東五條由、所語之宅也、

十月九日、晚頭參院并東宮、高松、出仕之後依日次宜也、
十一月廿日、午時許參東宮、
廿五日、庚子、參土御門殿、

宗忠東五條亭ヲ隆時ノ中御門ト相博ス
同東宮ニ參ル
同土御門殿ヲ訪フ

威德京極殿ニ赴ク

〔殿曆〕正月五日、乙酉、天晴陰、小雪時々降、○中依吉日、北政所渡御京極殿、威德同之、

忠實ノ女ト同行ス

五月四日、壬午、天晴、威德相共參京極殿、
十一月十二日、丁亥、天晴、辰剋許姬君、威德參京極殿、○中爲向姬君前駟一兩令參京極殿、隨身同之、

威德及ビ忠實女ノ宿曜

十八日、癸巳、天晴、○中威德女房等渡京極殿、亥剋許歸來、
十九日、甲午、天晴、○中今日京極殿御懺法畢、仍威德午剋許還來、御懺法畢、進袋婆（婆）

〔殿曆〕二月九日、戊午、天陰雨不降、入夜雨下、○中申剋許明算來、姬君宿耀事問也、頃之退出、
十二月廿五日、庚午、天晴、○中巳剋許宿耀師明算來、召前相逢問宿耀事、委子細取申、了則衣一重也、白衣重仲朝臣取之授明算、賜之乍居一拜退出、件宿耀去

廿三日於內宿所持來也、雖然中間上、於宿所僧相逢事非不通事、仍取宿耀、彼明算則退出、今日可來之由、其次仰了、○中件宿耀姬君并威德宿耀也、

〔殿曆〕十月六日、壬子、天晴、○中今日威德物忌也、仍於東廊忌之、雖開東西門、

威德物忌

威徳同馬
ニ乗ル
爲隆忠實
ヲ訪フ

件廊許ヲたて廻也、是先例也、又請僧三口行仁王講、又□時ニ僧一兩候、
十二月五日、庚戌、天晴時陰、○中參内以前ニ依吉日威徳始乘馬、
〔殿曆〕正月五日、乙酉、天晴陰、小雪時々降、○中午剋許爲隆朝臣來、五位藏人兼家司

二月十一日、庚申、天晴、不出行、○中爲隆○中來、各退出、

三月二日、辛巳、天陰雨不降、○中申剋許爲隆來、執申退出、不會面、重仲申之、

四日、癸未、天晴陰、○中五位藏人爲隆來、頃之退了、

五日、甲申、天晴、○中未剋許五位藏人爲隆來、各出、（退散ノ）

十二月七日、壬子、天晴、○中巳剋許爲隆來、○中皆退出了、

寬慶忠實
ヲ訪フ

〔殿曆〕二月四日、癸丑、天陰雨降、○中巳剋許法眼寬慶來、則退出、

三月四日、癸未、天晴陰、辰剋許法眼寬慶來、

五月廿一日、己亥、天晴、辰剋無動寺法眼來、頃之被出了、（寬慶）

八月六日、癸丑、天陰雨降、○中寬慶法眼來、

時範忠實
ヲ訪フ

〔殿曆〕二月八日、丁巳、天晴、不出行、○中同時許時範朝臣來、則退出、

十一月、庚申、天晴、不出行、○中時範來、各退出、

秀才某ノ
儀

〔本朝世紀〕二月九日、戊午、秀才判官兒百日也、（清原重実ノ）予含餅了、

俊忠忠實
ヲ訪フ

〔殿曆〕二月十一日、庚申、天晴、不出行、午剋許中將俊忠來、○中各退出、

十七日、丙寅、天晴、○中中將俊忠來、則退出、

兼實忠實
ヲ訪フ

〔殿曆〕二月十一日、庚申、天晴、不出行、○中申剋許右馬頭兼實來、頃之退出、

齊尊忠實
ヲ訪フ

廿三日、壬申、天晴、○中申剋許齊尊律師來、於南面相合、酉剋許律師退出、余還

入了、

三月十六日、乙未、不出行、天晴、○中齊尊律師來、

九月二日、戊寅、天晴、○中自齊尊律師許所尋□今日所送也、

十二月廿五日、庚午、天晴、○中齊尊律師來、相逢、

顯實忠實
ヲ訪フ

〔殿曆〕三月五日、甲申、天晴、○中午剋許頭中將來、○中各出、（退散ノ）

靜意忠實
ヲ訪フ

六日、乙酉、天晴、○中仁和寺僧來、對面後退出、

泰仲忠實
ヲ訪フ

十九日、戊戌、天晴、○中同剋許仁和寺法眼來、

家忠忠實
ヲ訪フ

〔殿曆〕三月七日、丙戌、天陰雨降、○中同剋許念珠、而問泰仲朝臣來、數剋後退

了、亥剋許雨猶降、

八日、丁亥、天陰時晴、巳剋許權大納言藤原朝臣家忠來、余對面、

七月四日、辛巳、天晴、不出行、○中辰剋許權大納言家忠卿來、

忠敬忠實
ヲ訪フ

八月九日、丙辰、天晴、○中權大納言被（宗廟之）

〔殿曆〕三月十九日、戊戌、天晴、○中未剋許宰相中將忠教朝臣來、

四月十日、戊午、天晴、○中申時許宰相中將忠教來、即退出、參內歟、

十五日、癸亥、天晴、○中午剋許宰相中將忠教來、頃之後被退出了、

廿一日、己巳、天晴、○中別人來、宰相中將忠教來、頃之被參內了、

十月七日、癸丑、天晴、○中午剋許宰相中將忠教來、

十一月廿三日、戊戌、天晴、不出行、○中戌剋許宰相中將忠教來、於出居相迎、

〔江都督納言願文集〕

（庶人）肥後權介相忠作善

奉造寫供養佛像（經卷）□事

文屋相忠
佛像經卷
ヲ造寫供
養ス

般若心經一卷

右為天神地祇法（華聖力）□嚴也、大社少社、或是十地之菩薩、安上安下、□□三世之

如來、不耐利物濟生懷、垂跡於神道、□□盡淨虛融之門、豈歸究竟圓滿之位、

一等身皆金色釋迦如來像一體

右先考前豆州刺史、出累葉風月之家、任重華聖明之代、以文章而立身、以廉節

而治國、龍文鳳藻、章句聞世、杜父邵母、遺愛被民、風樹先動、泰山之桂、早摧、水菽

釋迦如來
像

阿彌陀如
來像
阿彌陀經

一絕、長江之浪難挹、平生之昔喜怒未彰於色焉、窈窕之今、芙蕖定隨於步矣、今之所修、志之所之也、

一等身皆金色阿彌陀如來像一體、阿彌陀經一卷

右先妣以蘭薰雪白之操、遺身體髮膚之恩、丁氏刻木之思、戀顏華而在眼界、殷

家抽筭之志、慕言榮而留耳根、□望祀帖之炁月、宜訪安養之晚雲、

一三尺地藏菩薩像一體

右為弟子安倍氏□□菩提也、同心之枕多年、合歡之被幾夜、不□□世之□、將

資來世之菩提、縱沈泥梨之中、早□□寶蓮之露、縱在苦輪之底、忽駕真乘之風、

一三尺皆金色延命菩薩像一體

色紙妙法蓮華經一部八卷、開結經各一卷

右為弟子現世安穩後生菩提也、昔遊槐市、久專編柳之勤、後登李門、適忝折桂

之名、仕鸞臺而六稔、戴堯雲之膚、紆鶴綾而幾程、仰佛日之景、箕子五福、以壽為

初、葛氏九篇、除病為本、拂宿霧繫浮雲、銷罪霜納惠日、久保百年之一生、將到西

方之上品、

以前佛經、旨趣如件、夫以分段難恃、乾城破而東岱不遠、娑婆可厭、水月藏而風

延命菩薩
像
妙法蓮華
經
開結經

地藏菩薩
像

雲易斷、危自兩鼠之嚙□、□自駟馬之過隙、今日不修少善、何時證大□、捨淨財而倩毗首、瀝精誠而借巧手、春之□景、華鳥紛飛之天、月之良辰、田舍泰平之□、嘔龍象而振鷺子之詞、叩鐘磬而驚鳥□、響佳事成焉、善願滿矣、如來不捨誠以可足、上□□鬢、下至牛頭、皆離三業、其證七覺、敬白、

康和五年三月廿七日

弟子從五位下行肥前權介文屋朝臣相忠

〔殿曆〕四月十五日、癸亥、天晴、中多峯僧等武勝力來、依神事早可退出之由仰了、即還了、

〔本朝世紀〕七月十九日、丙午、中今日內大臣被參詣金峯山了、雅實

〔金峯神社文書〕金峯山創草記一臣下歸敬事

太政大臣雅實、康和五年癸未七月廿五日參詣、同廿六日、於藏王堂御前如法

經壇、手自折橋枝指之誓願云々、

〔徵古雜抄〕社寺文書一臣下歸敬事

太政大臣雅實私云、六條右大臣顯房之息云々、康和五年七月廿五日御參詣、種々財法施在之、斯時於藏王堂前指植山橋之枝、奇異之事在之、

隆慶忠實ヲ訪フ

〔殿曆〕八月十八日、乙丑、天晴、中酉剋許宰相中將子阿闍梨隆慶勝アラシ同時許退出、

覺信奈良ニ赴ク

九月三日、己卯、天晴、中奈良法印今朝下向云々、

俊賴等忠實ヲ訪フ

廿一日、丁酉、天晴、中左京大夫俊賴、備後介有賢、四位少將有家等來、各退出、

能實忠實ヲ訪フ

十月六日、壬子、天晴、中巳剋許左兵衛督被來、

宗圓增譽ノ弟子トナル

十二月廿日、乙丑、天晴、中酉剋許左兵衛督來、即退出、

基綱忠實ヲ訪フ

〔中右記〕十月八日、中略

有佐馬ヲ忠實ニ遺ル

今夕相具三井寺禪師宗圓君、詣法務僧正房人之成子弟、僧正者已爲菌城寺長吏、仍所付奉也、

俊明忠實ヲ訪フ

〔殿曆〕十一月九日、甲申、天晴、不出行、酉剋許左大辨來、暫退出了、

守王丸二郎丸元服ス

廿日、乙未、天晴、中早旦紀伊守有佐朝臣獻馬一疋、葦毛、民部大輔忠長將來、

廿七日、壬寅、天陰、中戌剋許民部卿被來、

〔本朝世紀〕十二月九日、甲寅、晴、中守王丸、二郎丸元服、

疾病、

俊房病ム

〔中右記〕二月七日、中左府亭訪申所惱、此廿日許有所惱、不被出仕、但四位

宗忠病ム

少將師時相逢云、頗減氣者、老者御事□又可馮事少云々、

風病ム

廿四日、中略、中晚頭參一條殿、入夜歸、風病更發、終夜辛苦、

威德病ム

六月廿二日、中略、中有小所勞、今日以後不出仕也、

忠實病ム

〔殿曆〕三月八日、丁亥、天陰時晴、中略、中從今朝威德不例、

咳病

九日、戊子、天晴、中略、中今日威德猶不快、不出行、

二禁

六月四日、辛亥、天陰雨時々降、依所勞不出行、

風氣

八月十八日、乙丑、天晴、中略、中可參東宮也、雖然聊所勞間暫遲々、明日可參也、

慶子病ム

十月六日、壬子、天晴、依咳病不出行、

慶子病ム

七日、癸丑、天晴、依咳病不出行、

慶子病ム

十一月十四日、己丑、早且天陰、中略、中辰剋許醫師盛親來見二禁、申無指事之由、

慶子病ム

頃之退出了、

慶子病ム

十二月廿五日、庚午、天晴、聊依風氣不出行、

慶子病ム

〔殿曆〕八月十九日、丙寅、天晴、依（北政所不例御、已剋許參京極殿、頗不快御也、

慶子病ム

雖然別事不見、大略御骨（な）はさちのへはせ給歟、權大納言、左兵衛督被參會、

各退出、午時許余退出、

廿日、丁卯、天晴、午剋許參京極殿、御心地頗宜御、中略、中戊剋許被參（内府）於御堂

南對面、子時許被退出了、余同退了、

廿一日、戊辰、天晴、中略、中參京極殿、

廿六日、癸酉、天陰、自內參京極殿、還東三條、

九月十四日、庚寅、天陰雨甚降、中略、中無指事、今日可參宇治也、雖然依有病者不

參、

十五日、辛卯、天陰雨猶降、中略、中女房不例、仍僧一兩來、

十六日、壬辰、天陰雨時々降、中略、中女房依不例、僧等一兩來、宮阿闍梨（增下同シ）僧賢、驗勝

他、酉剋許彼阿闍梨退出、

十九日、乙未、天晴、中略、中依女房不例、今日阿闍梨僧賢渡物、（教賢親王）僧式、（宮男也）部

廿日、丙申、天晴、中略、中次參內、中略、中女房不例、間不候宿、

廿一日、丁酉、天晴、不出行、女房猶不例、仍不出行、

廿八日、甲辰、天陰雨降、中略、中女房依不例、始修法、阿闍梨念範、西塔、

十月十二日、戊午、天陰雨不降、中略、中今日女房修法結願、了以盛家彼阿闍梨壇

修法ヲ始ム

俊明病_△

忠實女病_△

一條殿寢_△
殿御方病

重靈ノ女_{生ル}

高階爲賢_{卒ス}

所_△かつ_△支綿_△送悦給預之由申了、

〔中右記〕十一月九日、○中今日入夜參向民部卿許、訪申所惱、暫言談之間、略

〔殿曆〕十一月十三日、戊子、天陰雨不降、○中祭了程姬君聊依不例、以陰陽師泰長手祓七日、而今日滿七日、仍給被物、姬君宜也、晚頭深雨、入内女房相逢、終夜深雨、

〔中右記〕十二月十七日、○中次參兩一條殿、寢殿御方所惱、近日重御座也、

生死、

〔本朝世紀〕二月十三日、壬戌、△剋女房有產事、女子、

〔中右記〕四月廿五日、天晴、賀茂祭也、使右少將家定云々、但本巡右少將顯重、日者_{□□}一之間、去廿一日、縫殿大夫高階爲賢俄以卒去、仍辭退替以家定所被勤也、

〔本朝世紀〕四月廿一日、己巳、散位從五位下高階朝臣爲賢卒、爲賢者故入道正四位下行備中守高階朝臣爲家第三子也、嘉保二年十二月十四日、以縫殿助補藏人、同廿七日、敍從五位下、

〔系圖纂要〕

號外六
九十 高階朝臣姓
爲家 備中守、正四下、

〔尊卑分脈〕

源村上

雅俊 權大納言、正二、
母美乃守良任女、保安三十四、二十、五十九才、

顯重 神祇伯、正四下、右少將、
母備中守爲家女、

〔法琳寺別當補任〕第廿二阿闍梨宣慶、治廿九年、承保二年、白川堀川二代

承保二三年、承曆四年、永保三年、應德三年、寬治七年、嘉保二年、永長一年、承德二年、康和五年、同年五月十四日入滅、不法別當也、亂行、信算追却之時、寺家

〔失了、仍此時申下官符了、○入唐五家傳、三寶院、
文書五十八、異事ナシ、

〔太元祕記〕○柳原家記、一別當次第事、
錄百九所收、

第廿二、白川堀川阿闍梨、宣慶 承保二年十二月卅日任、寬治二年正月御修法之時、攝政殿召仰云、爲二代御祈僧、其賞越前國封戶四十五戶可加本寺佛供、證明云々、康和五年五月十四日入滅、勤行廿八年、

〔尊卑分脈〕藤原氏
眞作孫

康和五年雜載

法琳寺別當宣慶寂_ス

藤原惟實 卒ス
藤原忠教 室卒ス

兼任 下野守、從五下、
母、出家、

惟實 從五上、或家任子、
母、康和五、卒、六十七、號與勝、
○系圖纂要異事ナシ、

〔殿曆〕 七月十六日、癸巳、天晴、
○中今日宰相中將忠教卿女房死去、仍出門忠

實、興福寺供養ニ臨ムコト、所闕了、仍清實朝臣、泰仲朝臣、能遠朝臣等家點定、
七月二十五日ノ條ニ見ユ、

無一定、伴女房故侍從宰相季定卿子也、而彼民部卿有親事爲子ルナリ、

〔尊卑分脈〕 三條源氏

季宗 參木、從三、
母、良頼卿女、

女子 忠教卿室、
母、忠基卿母、

〔尊卑分脈〕 藤原氏
師實孫

忠教 繼大納言、民部卿、正二位、
母、散位藤原永業女、

忠兼 散位、從五下、
母、春宮大夫源季宗女、

師教 散位、從五下、
母、同忠兼、

忠基 散位、從五下、
母、同納言、帥、正二位、

〔殿曆〕 九月十一日、丁亥、天陰雨降、石藏阿闍梨俊慶卒去、
○故大宮右、仍余爲尋
實否退出、

阿闍梨俊慶 卒ス

忠實解除

十五日、辛卯、天陰雨猶降、
○中戊剋出河原解除、
○河井陰陽師泰長、石藏阿闍梨

事也、故大殿御時付奏藤大納言宗俊卿死去間不服、雖然今度依夢想恐、密々

祓之、無前驅、
○無勘文、
○俊慶、忠實ノ東三條第二見ユ、
○末雜載、諸家ノ條ニ見ユ、

〔中右記〕 目錄 九月十一日、藏俊慶阿闍梨入滅、
○五十、仍籠居、

〔中右記〕 十月二日、
○中今日出河原除輕服也、
○帶許

四日、除服之後初出仕、

〔尊卑分脈〕 藤原氏
南家

懷尹 越前守、正五下、
母、

親信 駿河守、
○二、
○三、
○四、
○五、
母、康和五、卒、
○從五下、

〔正季〕 典藥助、皇后宮少進、
母、筑前守高階成順女、

〔殿曆〕 十月十七日、癸亥、天晴、
○中新大納言經實卿他腹むそめ、去九日卒去、

而依無日次、未除服、仍退出也、

廿五日、辛未、天晴、雖物忌、依除服出二條末、
○時、
○陰陽、
○祓了、
○中、
○件服二位大納言經實卿他腹男也、

去九日死去、而依無日次、于今運々、

文藝、

宗忠籠居

駿河守親信 卒ス

經實女卒ス

忠實服

金剛頂瑜
伽護摩儀
軌ノ傳受

〔東寺金剛藏聖教目錄〕四十
金剛頂瑜伽護摩儀軌

一帖寫 寬文五年

終采書
〔終采書〕
康和五年正月五日、於鳥羽御壇所奉受了

僧實寬

祭屬星法
ノ書寫

〔東寺金剛藏聖教目錄〕五

一帖寫 南北朝

終書本云、
祭屬星法
康和五年二月七日、以修學院羊圓阿闍梨本寫之了、

无所有菩薩
經ノ書寫

〔金剛寺聖教奧書〕

无所有菩薩經卷第四

康和五年 癸未、二月廿二日、於興福寺喜多院長房、

法相末葉沙門兼信書寫已了、

道風自筆
寫經

〔殿曆〕三月三日、壬午、天晴、略 中 橫川禪子覺澄道風自筆妙法蓮華經一部奉

渡神妙第一者也、

五月廿一日、己亥、天晴、略 中 酉時許男共兩（脱アラシ）タハハ、余筆、預能基笛、時元左近生笙

等也、

忠實音樂
ヲ催ス

數珠法相
品ノ書寫

〔醍醐寺聖教目錄〕

一數珠法相品 出陀羅尼集經第二卷、

（原書）
康和五年七月朔日、書了、

僧源勝之

文殊師利
菩薩法ノ
書寫

〔東寺金剛藏聖教目錄〕六

文殊師利菩薩法

終
康和五年七月十二日、以惠光房之本寫了、

一帖寫 康和五年

增愉

大毗盧遮
那經義釋
ノ傳受

〔大毗盧遮那經義釋〕

（原書）
寺石山所藏

康和五年初秋十七日、於金剛峯寺奉受畢、

（原）

〔東寺金剛藏聖教目錄〕四

尊勝佛頂眞言修瑜伽法一卷

一帖寫 康和五年

終
康和五年七月廿六日、書了、

勸修寺法務 寬、二卷儀軌批記云、以此軌上卷、有爲一卷儀軌之本、與

法 卅四 不載諸家錄云々、

尊勝佛頂
眞言修瑜
伽法ノ書寫

高野贈大僧正遺誠ノ書寫

〔仁和寺探訪目錄〕

經藏一

一 高野贈大僧正遺誠

〔與本〕
康和五年八月四日、於觀音院書了、

一帖

中川實範本也、非他爲後世本也、

〔史料蒐集目錄〕

○昭和二年探訪
京都府來迎院

一 佛種集 上卷

〔與本〕
康和五年八月十日未刻、於叡山檀那院實報房書寫功畢、

比丘良忍

佛種集ノ書寫

〔朱本〕
同刻移點了、比校了、

〔倭文神社經筒〕

者〇伯

〔與本〕
釋迦大師壬申歲入寂、日本年代記康和五年癸未歲、粗依文籍勘計年序二千五十二載也、今年十月三日己酉、山陰道伯耆國河村東郷御坐一宮大明神御前、僧京尊奉供養如法經一部八卷、卽社辰巳岳上所奉埋納也、願以此書寫供養之功、結緣親疎、見聞群類、縱使雖異受生之所昇沈、必定值遇慈尊之出世、奉堀顯此經卷、自他共開佛之知見、仍記此而已、

京尊伯耆一宮奉納法經スヲ埋如

銅經筒
伯耆 倭文神社所藏

原寸

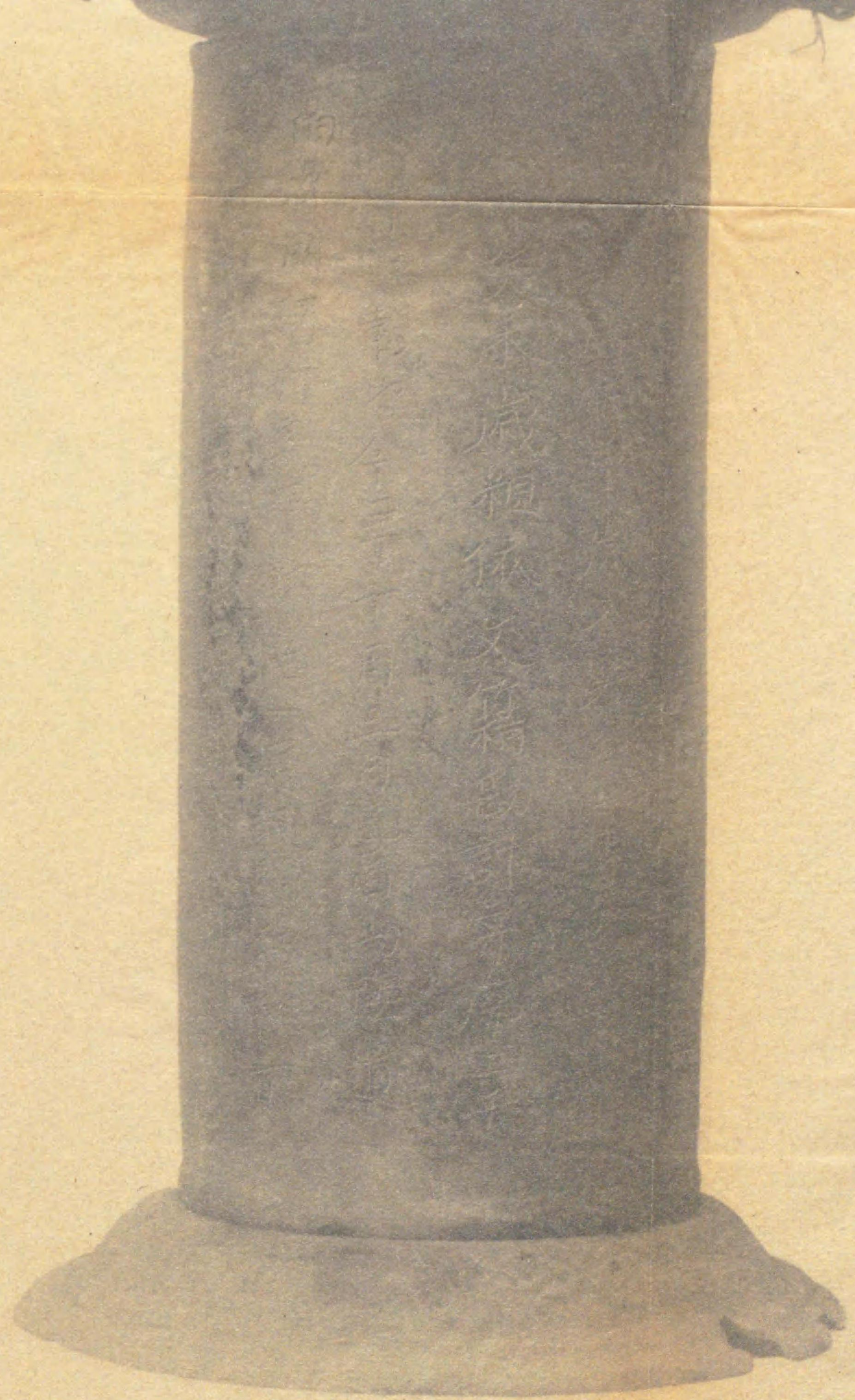
〇三九四



倭文神社所藏銅經筒銘拓本

東京帝國大學所藏





倭文神社所藏銅經筒銘拓本
東京帝國大學所藏

銅經筒
伯耆 倭文神社所藏

原寸

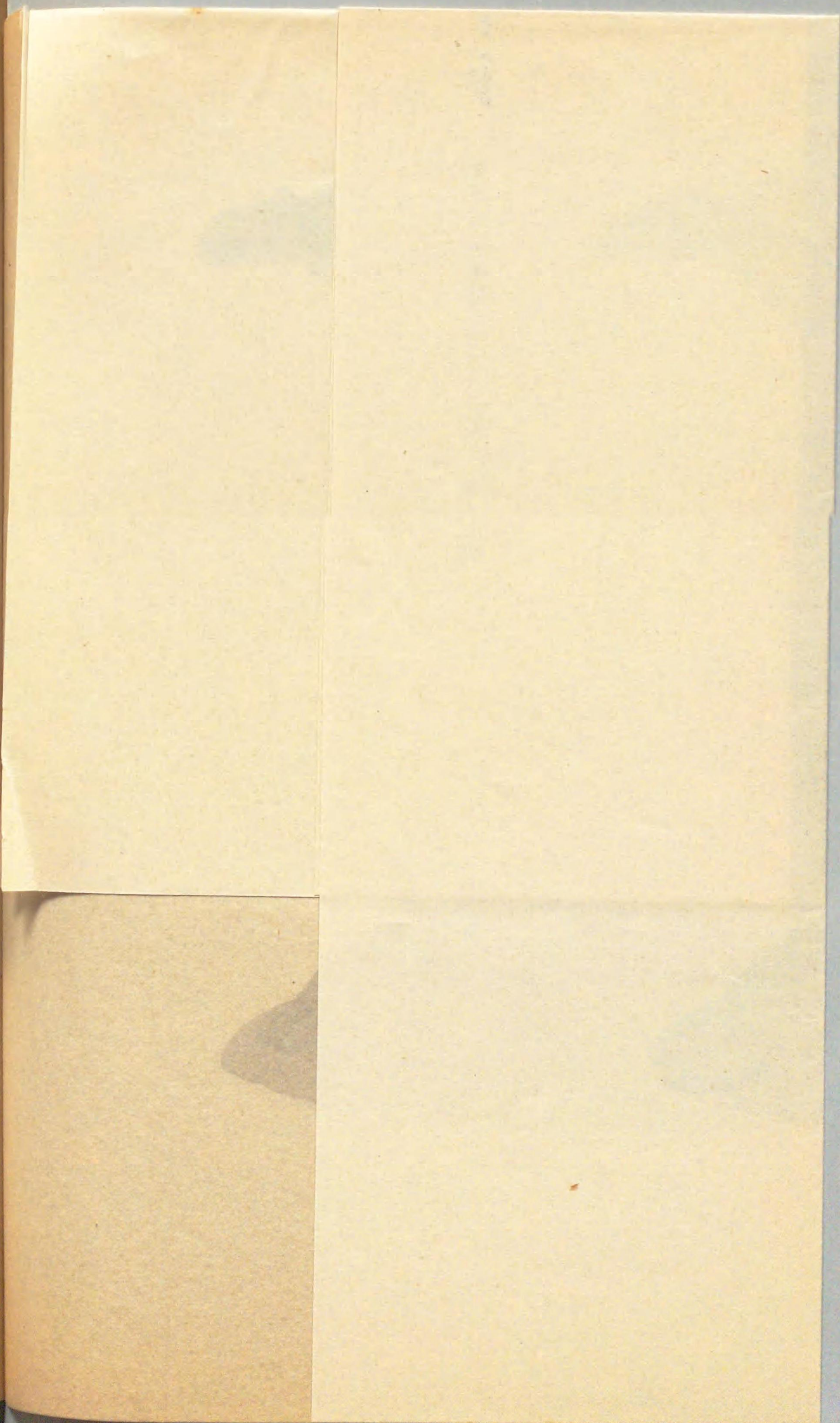
高さ〇三九四





倭文神社所藏銅經筒銘拓本

東京帝國大學所藏



將遊天脚已申歲入第日本平代試厥知
法華笑未歲類依文竹精劫計年序三平
五下二章今三平十月三日色百山隱道
作春因河柯冥輝條生一長大明神後前
骨京道長依如外多音小未時社辰已
臣止信不現也依以此苦厄供養之功
結緣現殊見開群類後使雜吳受生之
作界流成定備遇慈音言之出世奉屈顯
此泥未司他共際保之知是仍記世亦已
翁以死後受及行一切我寺與未生百善也
釋迦之并長道場或靈一在法東中神化元輪
已通和者大勢
相房八言有樂天
下三普世就化樹
明生身見我
世復開
合初是
行

釋迦大師壬申歲入窠日本平代就康和
 五年癸未歲粗依文籍勘計年序二千
 五十二章之今二十十月三日己酉山隱道
 伯春因河村東卿所坐一宮大明神佛前
 清京尊奉供奉如法經一部八卷即社辰巳
 岳上所奉理納也願以此書應供養之功
 結緣親疎見聞群類暇使雜異受生之
 非異疏必定值過慈尊之出世奉屈顯
 此經卷自他其關係之知見仍記此而巳
 願以此經普及於一切我等與衆生皆共成佛道
 釋迦佛成道地所覺一切法界中轉於天上輪
 心遍照者大覺
 願壽八十有五天 下生當坐於花樹
 願我生生見佛常 世世復聞法無違
 願我生生行 白晝夜界 喜喜提

願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道釋迦舍那成道場成正覺一切法界中轉於无上輪

正遍知者大覺□ 邊際智滿方知斷

補處今居都率天 下生當坐龍花樹

願我生生見諸佛 世世恆聞法華經

恆修不退菩薩行 自他法界證菩提

(蓋表)

不

可

心

〔官報〕

第二三〇八號
大正九年四月十五日

告示

文部省告示第二百六十號

古社寺保存法第四條ニ依リ左記ノ物件ヲ以テ國寶ノ資格アルモノト定ム

大正九年四月十五日

文部大臣中橋徳五郎

| 等級 | 種類 | 品目 | 所有者 |
|----|------|-----------------------------------|-------------------|
| 丙種 | 美術工藝 | 銅經筒ノ康和五年 附銅造千手觀音立像一軀 外出土品一切 | 鳥取縣東伯郡舍人村 倭文神社 |

宗忠宗成
興ノ庚申遊

匡房宋ノ
歷代ヲ宗
忠ニ語ル

東大寺御
封代

康和五年雜載

四〇二

〔中右記〕十月十四日、庚申、行向二郎（宗成）大夫庚申所、暫遊興、夜半許歸了、
十二月十三日、略中
（皇房）江中納言談云、略中、又談云、大宋國從高祖以來及當帝九代、唐人申所也、在
宰相府之間所風聞也、

貢進、

〔東大寺古文書〕○八東京南院文書武藏第貳卷
奉送 近江國去年御封米代雜物等事

合佰伍拾疋之内、

薄色綾合衣壹領

代冊五疋 定冊五疋納了、
國司渡了、

夏表衣壹領

代冊疋 （別冊）凡六十三疋
年預五師渡了、

糸総手鞆參具 代七十五疋 國司聽目代渡了、
具別廿五疋定、
一具拾疋一疋、

右去年御封米代内進上如件、

康和五年七月十七日

公文僧（花押）

端裏書
請文

近江御封之内、俗夏表衣一領給預了、

康和五年九月十二日

僧（花押）

〔東大寺文書〕

○五十三
大和三 第四回探訪

進上 越後御封代鮭事

合玖佰尺 内今百二尺未下

右件鮭所進上如件、

康和五年八月廿四日

園本請使快禪

〔古文零聚〕

大○東京帝國
學所藏

進上

四丈絹壹切

右於本寺政所如件、

康和五年七月廿日

内人大和真吉

莊園諸職、

〔朝野群載〕

七攝錄家 補御庄司

右大臣家符 尾張國富田庄

康和五年雜載

四〇三

東寺
四丈絹

尾張富田
莊下司職
補任

大膳少進平季政
右人補任下司職可令執行庄務之狀所仰如件宜承知依件行之故符

令
別當某
11某 11某
從主計允播磨
知家事大膳屬

康和五年二月十日

注進

〔東大寺古文書〕

○八 東京帝國大學文書部藏 第貳卷

東大寺若狹封米結解注進

若狹御封米結解勘文事

□本米佰拾柒斛伍斗者

除前分廳新十石六斗八升一合

正米佰陸斛捌斗壹升玖合

除加賃十四石六升

倉納定玖拾貳斛柒斗伍升玖合

除納所得分八石四斗三升二合

可下定捌拾肆斛參斗貳升柒合

未進九斗七升八合五勺

在判書捌拾枚

右若狹御封米結解注進如件

康和五年三月十一日

出納國依
丈部道法師丸
權上座朝秀
勘公文僧(花押)

同近江封米

注進 近江御封米結解事

合參拾貳石肆升者

馱賃伍斛肆斗

釜賃料肆斗

納所得分貳石參斗貳升

所下廿四石二斗四升 在判書廿枚

釜賃料

五斗納釜一口 四斗納釜一口
鍋五口中之

斗納鍋一口、大炊□正□料下了、
殘者瓦交易直下了、在各請文、

康和五年十二月廿七日

出納國依
文部道（連）法師丸

若狹御封百十七石五斗結解

除十一石九斗五升七合

三石五斗二升五合 木賃石別三升

八石四斗三升二合 納所得分米

定百五石五斗四升三合

□（更）下八十三石二斗九升內

繩師間食四斗又二斗又四斗

一石

自康和四年十月以前并前判
并准米下十石八升五合
尤可被尋之

繩師

葺工

登廊破風
立工

一石五斗又三斗七升五合

已上一石八斗七升五合

二斗七升

已上二斗七升

車力二斗又三升又一斗又二升又三石四斗五升又六石九斗

已上十石七斗

葺工二斗八升四合又二石三斗九升二合五夕又二石六斗四升

已上五石三斗一升六合五夕

登廊破風立工四石一升

已上四石一升

鍛冶一石

已上一石

工不足料三斗二合五夕

已上三斗二合五夕

未進廿二石二斗五升三合○本文書朱書ニカ、便宜合敘ス、

康和五年雜載

四〇七

件修理等立用廿四石四斗

并四十六石七斗二升七合也

〔前田剛二氏所藏文書〕

〔大瀧寺領〕

〔立券〕

注進

阿波國大瀧寺所領 畠荒野事

合

在那西郡吉井加毛

限東柑子

限西 山

四至

限南寺山并國坂

宮谷津 峯

右件寺領田畠荒野野任 領知之理、所司等檢注言上如件、弘法大師之初行靈山也、奉仰馮 幾哉、不知千万、於東寺別院既以數百歲、敢無他妨哉、早任道理、被仰國衛、開發荒野、相加寺家修理、兼又勤仕本寺耳、仍爲後日證文注子細耳、以解、

康和五年八月十六日

蜂田安當(花押)

僧禮能(花押)

阿波大瀧寺所領注進

東寺領伊勢大國莊損田坪付注進

禰宜本家

坪付、

〔東寺百合文書〕

〇山城一之三十五

大國御庄田塔等解申注進俣、干損田段數坪付事

合拾町陸段百廿步

一麻宇曾溝俣、

成任三反 字居垣、常道三反半 在五井於里、是枝安高等五反 同里、

則平三反 同里、禰宜本家二反 同里、

永田井溝俣、

次良五反 字治田尻、親平二反 字大板、

安任四反半 字西永田、爲近四反 同西永田、

成任二反 同西永田、武道三反 中川原田、

正弘三百步 字荒田、爲常二反 字念佛尻惠、

安富本名、

大瀧寺別當救命(花押)

僧妙真(花押)

藤原近國(花押)

東寺領伊勢大國莊損田坪付注進

重友三反 字中永田

安富五反 中永田

定照三反 小井溝田永田

今常二百步 字寺田、爲常本名

時則七反 字下永田

利助陸段 字梅瀬、南川原

力末一反 大安忌部門

清任近末等二反 大安川原田

快能二反 小字川原田

川原田井溝俣、但二越三越之漁田等也

親平八反 字梅瀬、川原田

助平五反半 字後惠久保、安富本名

安平七反 字小西田

祭主御名田三反 大川原田

安任小 字學收、土

爲安三反六十、在二兄國、里无漁矣

右件田等隨見損之理、所注進如件

康和五年九月七日

田塔等

〔東大寺文書〕

○四十九 第四回探訪

〔使兼書生紀〕(花押)

添上郡北
負田中今吉

添上郡北田中今吉負田 康和五年

私領ノ處

處分

〔東大寺文書〕

○東京帝國大學所藏

此間何等事候らん、御京上次鳥羽まや御坐したりけむ、不審く、抑覺尊入

康和五年雜載

(朱下同)

三條二里廿一

一品田

廿二

廿七反

廿八反

廿八一

一品田

廿九

廿二

廿七反

廿八反

廿八一

卅四

卅一

卅二

卅五反

卅三

卅八反

也

八

九

五

五反

七

也

廿

四

十七

十七

十八

已上

玖町玖段半

除諸不輸并干損田等五丁二反

一品田三丁

无量院一丁

傳法院三反

定田

畠四丁七反半

造畠

四丁二反半

水田

五反

寺申田事、一日大底申定了、其後無音如何、可被尋仰、故尼所領惣合（天）九段也、其を奈良の（五段）入寺、田舎の四段をば行延（延）候也、之中田舎、行延佃一段候なる稻を得と被示しかば、行延はおしみ候しかと、代を給、件田稻をば入寺渡と申（天）、稻をも渡と支度仕也、されは其田券を可被返由を申候也、さて互無後論定（一脱カ）せんと思給候也、此由必々可被傳仰也、早々一定可被示之由、同被仰下候、恐々謹言、

九月五日

□慶

上座御房

康和五年

賣買

〔兒玉韞採集文書〕

○（前）筑前村家古文書

（任）任沽券并在地郡司圖師隨近等署判之旨、一々領知之、

少貳（花押）

府老藤原（花押）

謹辭

田地ノ賣買

沽渡所領田伍坪事

在怡土郡大野郷參圖拾玖里拾陸坪壹町、

拾捌里拾捌坪伍反、拾玖坪參反、拾玖里拾玖坪陸段壹所二段、貳拾坪肆段

陸拾步、

直佰疋

右件田依有要用、限永年中原盛平所沽渡進如件、但於本公驗者、依爲連券、不能別進、仍爲後代證驗、新券以解、

康和五年三月十日

藤井今武

府老藤原（花押）

件田今武年來所領田也、者依要用、所令沽渡明白也、仍隨近加署之、

大分宮別當文屋（花押）

神崎庄別當小野（花押）

天滿宮權大宮司小野朝臣（花押）

郡司高橋（花押）

（圖師）權大掾早（花押）

判

類聚ノ百首ノ和歌

太郎百首
ト稱ス中
康和年中
ノ詠進

堀河天皇
御代ノ初
度百首

歌題
春二十題

てまつらしめ給へり、○下

〔和歌色葉集〕

○上 内閣文庫所藏

五撰抄時代者傳私集口

堀河院乃治天よ、此道更よさうへて、君をあり思食、臣ををてあそひて、十

〔古來風躰抄〕

上 此のち同き(白河天皇)君位おりさせ給ひて、堀川の院の御時、又

このみちこのませ給ひ、百首の歌人く、にめす事なとありて、歌又つもりにける、○下

〔堀河院御時百首和歌〕

類○群書

〔堀河院類聚百首鈔〕

一 堀河院百首と稱する、此御代よ百首和歌兩度あり、

今此抄の初度の百首也、俗よ初度を太郎百首と稱す、後度を次郎百首と稱す、

〔堀河院百首〕

○宮内省圖書寮所藏

立春

子日

霞

罌

若菜

殘雪

梅

柳

夏十五題

早蕨

櫻花

春雨

春駒

歸鴈

喚子鳥

苗代

菫菜

杜若

藤花

款冬

三月盡

更衣

卯花

葵

郭公

菖蒲

早苗

照射

五月雨

盧橘

螢

蚊遣火

蓮

氷室

泉

荒和祓

秋二十題

立秋

七夕

萩

女郎花

薄(花イ)

苜蓿

蘭

萩

雁

鹿

露

霧

權(花イ)

駒迎

月

擣衣

虫

菊

紅葉

九月盡

冬十五題

冬

初冬

時雨

霜

霰

雪

寒蘆

千鳥

氷

水鳥

網代

神樂

鷹狩

炭竈

爐火

除夜

戀十題

初戀

人不知戀(不逢イ)

不會戀(忍イ)

初逢戀

後朝戀

會不會戀(逢イ)

旅戀

思

片思

恨

康和年中

四一七

作者十四人

源顯仲及
加永緣及
比永緣及
者トヘテ
トス十六作

曉 松 竹 苔 鶴 山 河 野
關 橋 海路 旅 別 山家 田家 懷舊
夢 無常 祝(歌詞) 述懷

詩人百首、内關文庫所藏堀河院
正二位行權大納言兼東宮大夫藤原朝臣公實○群書類從五人堀川院御時百

正二位權中納言大江朝臣匡房

正二位行權中納言源朝臣國信

參議正三位行右兵衛督兼備中權守源朝臣師賴

從三位行修理大夫藤原朝臣顯季

散位正四位下源朝臣顯仲○群書類從堀川院御時百首和歌正四位下

夫ノ次ニ、行左京大

正四位下行越前守兼中宮權大進藤原朝臣仲實

從四位上行木工頭源朝臣俊賴

從四位上行左近衛權中將兼備中權介源朝臣師時

散位從四位下藤原朝臣顯仲○内閣文庫所藏堀河院御時百首和歌及

散位從五位上藤原朝臣基俊○群書類從堀川院御時百首和歌及

門佐ノ五

權少僧都永緣○群書類從堀川院御時百首和歌及

字少ノ二

阿闍梨傳燈大法師隆源

肥後關文庫所藏堀河院百首前齋院肥後關文庫所藏堀河院百首

紀伊内閣文庫所藏堀河院百首高倉一宮紀伊内閣文庫所藏堀河院百首

藏堀河院初重經爲妻仍號紀伊内親王家平

河内俊子内閣文庫所藏堀河院初從本堀川院御時百首和歌前齋院河内合

堀河院百首和詞

春

立春

康和年中

春立く梢^{さか}すきえぬ^さ雪^{ゆき}のま^まと^と花^{はな}比^ひさく^くと^ところ^こと^とれ^れ 公實
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌めしけるとき、立春の心をよみ侍けるニ、下句ヲまたきにさける花かとそみるニ作ル、
 氷^こぬ^ぬし^し志^し賀^が乃^のう^うら^ら崎^さうち^ちと^と巻^まて^てさ^さ浪^{なみ}よ^よそ^そ春^{はる}風^{かぜ}ふ^ふく 匡房
○詞花和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるに、はるたつ心をよめるニ作ル、

三室山谷^{さんしやうたに}よ^よや^や春^{はる}の^の立^たぬ^ぬらん^{らん}雪^{ゆき}乃^の下^かと^とり^り岩^{いわ}あ^あく^くれ^れり 國信
○千載和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りける時よめるニ、續詞花和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるに、
 よし^{よし}野^の山^のほ^ほも^も巻^まる^る雪^{ゆき}の^のき^きき^き行^ゆり^りま^まと^と古^こ年^{ねん}に^に春^{はる}や^やあ^あり^りらん 師顯
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるニ、
 う^うち^ちな^なひ^ひき^き春^{はる}の^の來^きみ^み巻^まり^り山^の河^の乃^の岩^のよ^よ比^ひ氷^の々^々ふ^ふや^やと^とくら^{らん} 顯季
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるとき、立春の心をよみ侍けるニ、

春^{はる}た^たり^りとい^いは^はせ^せも^もは^はて^ては^は朝^あまた^た花^{はな}風^{かぜ}の^の夢^{ゆめ}し^しき^きそ^そま^まり^りう^うそ^そり^りける^る 源顯
○群書類從、本堀河院御時、百首歌及ビ内、仲朝臣、開文庫所藏堀河院初度百首ニ、此一首アリ、
 庭^{にわ}も^もせ^せみ^み引^ひけ^けら^らあ^あ巻^まる^る諸^{しよ}人^{にん}の^の立^た居^ゐを^を巻^まぬ^ぬや^や千^ち代^ぢ乃^の初^{はつ}春^{はる} 俊賴
○玉葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるに、元日の心を讀侍けるニ、散木奇歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるに、
 朝^あまた^た花^{はな}ゆ^ゆる^るけ^けき^き風^{かぜ}の^の氣^き色^{いろ}よ^よて^て春^{はる}立^たき^きぬ^ぬと^とあ^あら^ら巻^まぬ^ぬる^る哉^や 仲實
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるとき、立春の心をよみ侍けるニ、

い^いろ^ろみ^み啼^な八^{はち}こ^こゑ^ゑの^の鳥^{とり}の^の一^{ひと}こ^こゑ^ゑの^のせ^せし^しに^に年^{とし}を^をの^のそ^そふ^ふる^るあ^あら^らん 師時
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるとき、立春の心をよみ侍けるニ、
 吉^{きち}野^の山^のぬ^ぬも^もと^とを^をみ^みえ^えを^を春^{はる}乃^の今^{いま}朝^あ霞^{がき}の^の衣^いと^とち^ちて^てき^きと^と巻^まる^る 基俊
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるとき、立春の心をよみ侍けるニ、
 き^き比^ひふ^ふま^まて^て雪^{ゆき}ふ^ふる^ると^とし^しと^とみ^みし^しま^まに^に今^{いま}朝^あの^の氷^こを^をは^はる^るう^うせ^せそ^そふ^ふく 權少
○群書類從、本堀河院御時、百首歌及ビ堀河院初度百首ニ、此一首アリ、堀河院初度百首みしまゝにヲみしかともニ作ル、
 う^うち^ちは^は巻^まる^る春^{はる}立^たぬ^ぬも^もみ^みゆる^る哉^や昨^{きのう}日^ひみ^みか^かさ^さる^る々^々ふ^ふの^の氣^き色^{いろ}の^の 隆源
○金葉和歌集、詞書ヲ堀河院御時、百首歌奉りけるとき、立春の心をよみ侍けるニ、
 春^{はる}の^のく^くは^は夜^よ比^ひる^る乃^の風^{かぜ}の^のい^いろ^ろな^な巻^まる^る今^{いま}朝^あ吹^ふし^しも^も氷^こと^とくら^{らん} 河内
○金葉和歌集、詞書ヲ百首歌の中、下に、春のこゝろを人にかはりてよめるニ作ル、以下、春日等ノ歌略ス、
 堀^{ほり}河^の院^の類^{るい}聚^る百^{ひゃく}首^{しゆ}和^わ歌^か 公實卿勸進、仍無御製、
○宮内省圖書寮所藏

〔徒然草壽命院抄〕 上

一 德大寺ノオホキオト、○中略

公實 春宮大夫權大納言 閑院流

堀川院初度百首、此卿勸進也、

〔堀河院類聚百首鈔〕 一

〔卷首〕 一 徒然草抄云、○中略、前掲徒然草壽命院抄ト異事ナシ、

又頭書古本ノ奥書曰、此百首和歌實非勅定、唯春宮大夫公實發起、各隨喜輩詠之、於彼大夫家被講之、其後及叡聽召覽之、切續之、仍號堀河院百首ト云々、

今按、此說ありといへとも、千載集序にも、堀河の先帝云々といひ、又代々の撰集詞書にも、堀河院御時百首歌奉りゑるとのせり、されハ今鏡の說に志よりふへきなり、

作者○作者ノ名略ス、

今鏡云、時の歌よみ十四人ハ百首歌奉らしむと云々、和歌色葉も、作者十四人と見えり、〔近衛信實〕三藐院殿御本、其外師傳の本等同之、古本十五人、加永縁、入基俊下隆源上、仍今永縁僧正之歌共ハ注、

公實ノ起テ隨喜ノ輩詠進スノ家進ノ公實ノ後ノ勸進ノ説ノ批判

作者十五人説ヲ永縁ノミ

伯顯仲ト佐顯仲ト混同スル説判

作者十四人

顯輔堀河院百首ヲ以テ百首ノ歌例證トナス

一本ハ、神祇伯顯仲の歌を、顯季の下仲實の上よいきて、師時の下基俊の上ハ、右兵衛佐顯仲の歌なし、此二人同時同名よて異人也、此百首の中子日の、あとし生の二葉乃松をの歌、新續古今ハ、藤原顯仲朝臣といりて、別の部一本ハ、うへり來てゑるへき身ともとのまねハ乃歌ハ、同じ集ハ、神祇伯顯仲と載たり、金葉集以下の撰集ハ、兩人の歌所載ト此定なり、伯顯仲ハ六條右府顯房公の男也、諸本よりして伯の百首ハ除られん覺つらなし、

〔羣書一覽〕 百首類 堀河百首 三卷

堀河院御時基俊、々頼已下十四人の百首なり、これを初度百首とも、太郎百首とも稱す、

〔古今著聞集〕 和歌

五歌

左京大夫顯輔、〔後醍醐〕新院に參たりけるに、百首よむやうは、

ならひたるかと仰ことありければ、ならひたる事候はす、顯季も教へ候はす〔ヤイ〕と申ければ、まこと〔シイ〕や百首には、おなし五文字の句をはよまざるなるはととはせ給ひければ、顯輔いかゝ候らん、百首迄よむものにて候へは、よみもやし候覽と申ければ、公行かよまぬよしを申也と仰こと有ければ、顯輔かへり、堀川院御百首をひきて見るに、春宮大夫公實卿歌に、薄、荳の兩題

顯昭俊頼
等ノ歌ヲ
註ス

上覺祕事
口傳ヲ註
ス

五十一首
ヲ探リ出
シテ註ス

に、秋風といふ第一句さしならひて有ければ、兩首をたとう紙にかきて、九月十三日の御會にもちて參^りて、公行卿に、これ御覽候へといひたりければ、閉口せられにけり、公行は公實の孫なり、用意あるへきことにや、

〔袖中抄〕 十 このむとなみ

なにごとにこのむとなみはあやかりていとふ涙のしたにちるらむ

顯昭云、このむとなみとは、或書云、むとなみとは妻を云といへり、さればこのむとなみは、なにごとにあやかりて、我をはいとふそとよめるなり、堀川院百首恨の題に、俊頼朝臣詠なり、心得にくく、侍し歌なれば、注申なり、妻をはこなみともいへは、むとなみといはむことも侍なん、

〔和歌色葉集〕

○内閣文庫所藏 八難歌會者

萬葉集をそしめて、類聚此百首に以たる迄、祕事口傳ともをい、千首をかり沙汰し、せましを、みあすされて後、はつきををうしあへり、當時をろをろおゆるるハ、僅三百餘首やらん、

〔和歌色葉集〕

○内閣文庫所藏

次類聚百首中五十一首

- | | | |
|------------|-------------|-----------------------|
| 一さやひめ | 二やほ | 三あたるわらひ |
| 四せまよこ野 | 五ゆとし | 六もとの人 |
| 七てまゆふ | 八神乃ひもろき | 九みあき |
| 十そしろ遊びやとふ | 十一やとし | 十二花をちを |
| 十三草くちて螢と照る | 十四螢をあつむ | 十五せへらき乃ひむろ |
| 十六とことそ | 十七いさなみまなふ乃姿 | 十八花薄まそを乃糸 |
| 十九はり糸を | 二十まとろもと | 廿一あまつと |
| 廿二そほり | 廿三つまとのふ | 廿四みとやもり |
| 廿五あき山よいる人 | 廿六月よさやさそ | 廿七菊乃をま ^(マ) |
| 廿八玉うし | 廿九ゆふこ | 卅志も此り糸えと |
| 卅一ちき乃ろとそき | 卅二あちむら | 卅三志らにきてとくさのえと |
| 卅四をろ | 卅五あま乃かくと | 卅六もしほくさ |
| 卅七こ乃むあ | 卅八な乃ろしこき人 | 卅九わるとも |
| 四十うきんのつと | 四十一こを思ふ鶴 | 四十二鶴昔をあのを |
| 四十三あさひこ | 四十四とこおめ | 四十五驛はとひのす |

四十六をきりて 四十七橋柱よて 四十八をほきひる
 四十九とぬりの笛 五十もくとせ 五十一みよ迄あぬ歎
 一さは姫乃うちをれ髪玉の玉柳を、春風乃ふなるありをり
 さほ姫との四季をけりさと忍神乃中、春此季乃神を云也、玉柳の柳を
 むる詞也、玉の事上よ云うことし、うちをれうととの柳乃を此志と利を
 う髪り似たるを云也、氣晴風梳新柳髪と云詩乃心也、略下

〔愚問賢注〕

本歌ヲト
ルニハ堀
河院百首
作者ルマ
デヲ探ル

一本歌をとるには堀河院百首の作者までをとる、其以後はとるへからさ
るよし申、此分子細なきをや、略中

注
本歌は後拾遺などまでの歌也、堀河院百首作者も、俊頼朝臣歌など近來
とる事ありとは、八雲御抄にも見え侍る、かの御百首作者も、人の口にあ
る名歌などのそれとおほゆるをとるへきにや、

〔堀河院百首〕内閣文庫所蔵

以上題百首 歌千四百首五イ

勅撰集ニ
入レル歌

此内入撰集歌百七十九首之内、

撰集ニ洩
レシ歌ニ
モ秀逸多
シ

金葉四十四首、此内 詞花十一首 續詞花八首、内新 千載七十首 新古今七十首
 新勅撰十三首 續後撰十三首 續古今一首 万代二首 雲葉二首

〔堀河院類聚百首鈔〕一

（卷首）私云、此百首の中も、代々の撰集よとられとる歌とも、我よとに心つけて
見るへきあり、されともとのこされとる歌も、當時勅撰ありあり、えらひ
とらばへき歌、猶わやくとゆめり、眼をつけて見出すへき物ならん、

〔堀河院百首〕内閣文庫所蔵

（卷首）本云、建長四年十月、以覺成法眼本令校合了、落脱歌并難歌注万葉本歌等、皆書入

諸本
覺成法眼
本

〔堀河院初度百首〕内閣文庫所蔵

（内題）堀河院百首和歌

（卷首）以勅本奉書寫校合訖、

慶長五年仲夏上澣

（堀河院）玄旨

〔堀河院類聚百首鈔〕一

（卷首）本之事

康和年中

勅本
細川幽齋
書寫本

近衛信尹

近衛三藐院殿下信尹御本法橋玄仲申出寫之、

古本

古本作者十五人頭書註、

契沖校合本

密門契沖校合本已上ハイ、

板本

當世流布板本オとし、

右四本、以金葉集以來勅撰集并續詞花集萬代集、更校之、

〔堀河院百首〕

○下東京帝國大學本

此（卷ノ原書）一部三卷、以僧契沖校合了、初下河邊長流少々校之、次契沖以金葉以來勅撰集校之、後契沖門人以異本校合焉、

龍吟雲興、虎嘯風冽、

慶安三年刊本

契沖校本
長流校本

今也聖德溢于四海、仁恩及于異域、治教休明、而風俗隆盛、是以萬民安枕、泰山穩思、蒼海白魚、既獻封禪、斯祭凶器、囊和歌大興、雖庶人荷責、負糧無不學焉、是上垂教而下隨、噫、龍吟虎嘯之謂歟、水流濕、火就燥、於是乎累代勅撰、家々歌集、靡鏤于梓、不流布諸世焉、粵有勝兵衛者、一日携書來曰、此書堀河院之百首也、欲梓之、請吾子、分徑謂、辨淄澠、余素學佛教、而不識俗典、況於和哥乎、雖然、瞻望難辭、不獲已、搜求善本、而考訂之、如其添削、以俟君子、

慶安（三年）庚寅四月望

雲堂大居士跋

〔堀川百首肝要抄〕堀川院百首抄序

貞德種通
嘸齋ノ説
ヲ記ス

註釋書
堀川院百
首肝要抄

難波江乃よしあしの里ひとたもあらば、あさう山北何さゝぬうさをもあゝ、
ゝぬへぬも此すら、歌のをぞとゝな利、されそ哥のよぞ事此かゝきよ何ら
ば、よくをぞとのかゝきな利と、古人の心ひをきしとこぬあゝる利、よくを
ぞ事のかゝき、ぬかくり此とちをこゝぬへさるよよほなるへし、材木と
もしくて、り此家を以とあゝかゝきうとく、歌學なくて、り此道をぬう
くうる事かゝうるへし、されぬ歌をよまんと思え、万葉集よ利をし知て、
三代集を見ゑて、ぬるき言葉よを利て、り此あゝぬを律くるへし、いとよ
きとそもなく、あしき詞もなし、はゝぬらよ善惡のあゝるな利、万葉此とそ
なむのとして、知るる知てよき、里ひしらに、へらなといへぬ詞のよむへきり
あらばと、古人此いましめぬるもさる事な利、三十六人乃家集の、常よ見習
ふるきよし、詠歌大概よ見へされとも、大部なれを見る人まむな利、をぬ
ゝ見る人あむとも、とるへき歌をしらば、とるましき詞をとるゆへよ、年楯
乃と此とおほし、丸むうし九條禪定殿下玖山公（種通）、玄旨法印（堀川院書）なとよ、ふうくぞ

兩度百首
ヨリ證歌
トナルベ
キモノヲ
選ブ

數百年世
ニ行ハル

堀河院類
聚百首鈔
百首組題
ノ始
百首歌
ト先此
題ヲ

の巻とてまつ初て、いさゝち耳此底よのこきるを思ひ出るまうを、此集
を抄出して、童蒙(歌)此巻をやめ侍系、今よりと孫ふ利乃いと、堀河院御百
首太郎次郎乃うちと利用ひて、よきとを證歌となるへきたくひ數百首を
ゑらひ出て、堀河百首肝要抄となつて侍るも此な利、あなうしこ、門弟とち
ぬらく函におさめて、閨外を出はへうらそ、なま此せしとや五月雨乃比、
逍遊此軒の筆を筆にまよて、まるしを初侍利ぬ、以下目録ヲ略ス、
(内題)堀河百首肝要抄卷之上號太郎 細川幽齋祕說 貞徳記之以下本
(後)花開主貞徳老人、幼力歌學講磨、九條殿下親炙、玄旨法印受庭下訓者也、稔矣、
堀河院御百首肝要抄等、此其餘論也、蓋此百首行于世數百年于茲矣、和歌者
流所宜則而讀者病往々其無註解也、非一大欠事乎、今此抄也一家袖珍、萬歲
龜鏡、曷尙之、因而命梓人壽于世、學者遊歌海之一舫也云、

貞享改元歲次甲子孟春上旬

披雲軒主人書

〔堀河院類聚百首鈔〕

堀河院初度類聚百首の、百首組題といふ物のをしめなれ、其後の人々、は
うしきもおゆるるも、いさるもまよしきを、百首歌よまむとて、先こ

ス

難解ノ歌
ヲ註釋ス
古キ註本
ヲ發見ス
諸本ノ異
同ヲ勘フ

の題をはきとせ、註事になれり、され、こ乃類聚和歌の、人々のかあらそ見
あらふ物なる哉、初心の人のわきまへまりかよき歌ともましほめれ、お
ろろゆる註釋をもく、へまほしく思ひまゐるに、ひと日書林何あしうも
とよて、ふるを註本を見出たり、誰人のまおまゐる物といしらねと、かくて
うりもれたらむ、いとをしく、又おろなる孫ひもあへるま、ちす
れ、せりさへうへり、あらとめうり、をいて、諸本の異同、裁かう、へ
あ、の、の、の、抄のたらさると、こ、の、を、も、お、な、ひ、な、と、し、て、は、ら、に、書、林、よ
さつ、木、に、の、を、世、に、ひろく、せんと、せ、か、し、こ、き、人、乃、ま、へ、の、月、の、夜、乃、と
もし、火、なる、へ、巻、れ、と、此、道、た、と、ら、む、人、乃、と、め、よ、は、く、ら、き、夜、の、螢、を、う、り、よ
も、お、と、う、の、なら、は、種、々、と、な、む、

寛政十二年の春

吐屑庵慈延略 中

鈔之事

奥入之註を古抄と書

古本の註を古人頭書と書

逍遊軒拔書抄、先達諸抄、古人聞書、愚案等を以註解する所也、略 下

〔堀川院百首抄〕○內閣文庫所藏
堀河院百首和歌之內聞書

○本條ノコト年月日詳ナラズ、姑ク茲ニ掲書ス、

〔參考〕

〔續本朝通鑑〕堀河天皇六

長治元年、是年、勅正二位權大納言兼東宮大夫

藤公實、權中納言匡房、源國信、參議正三位行右衛督兼備中權守源師賴、從三

位修理大夫藤顯季、散位正四位下左京大夫源顯仲、越前守兼中宮權大進藤

仲實、從四位上木工頭源俊賴、右近衛權少將備中權介源師時、散位從四位下

左兵衛佐藤顯仲、散位從五位上前左衛門佐藤基俊、及權少僧都永緣、阿闍梨

傳燈、大法師隆源、官女肥後、紀伊、河內、各詠百首倭歌、春秋題各二十、夏冬題各

百首、作者十六人、總計千六百首、世稱之曰堀河院百首、凡倭歌詠百首、題者始

于此、此百首通行于世、爲歌林模楷、然不詳其年月、唯目錄詳記作者官位、兼官、

守、故知可爲今年、仍記于此、但補任源顯仲、今春顯季、初敘從三位、師賴、兼備中

疑下、可焉。

作者十六
人千六百
首林ノ模
楷ノ考
證年ノ考

長治元年甲申

正月丙子朔

一日丙子小朝拜、節會、院拜禮、東宮拜禮、及ビ東宮御藥、御戴餅ノ儀アリ、

〔中右記〕康和五年十二月十日、朝間從院有召、則馳參、仰云、爲使可參內也、○

略院拜禮間無所便事、○中參內奏件等之處、皆有御返事、○中如此之沙汰間、

四ケ度及夜陰往反、夜歸家、

十三日、○中參仗座、○中次有元日擬□從并荷前定、○康和五年十二月先令

外記進例文、使使公卿吏名入宮持參、又硯宮置參議座前、○件二通定文大間書

也、令予書之後、乍二通一度奉上卿、々々入件定文二通并中務省日時勘文、令

右中辨內覽奏聞之後、入宮返給外記、合入舊勘文等、今度使

六年正月元日、日漢天高晴、扶桑甚明、午時許先參、○大臣殿、東三未剋人々

參集之後有拜禮、殿下令立東對南庭給、寢殿大北民部卿、右大將左兵衛督、下

官、左大辨左宰相、一上藏人頭、右近中將顯實朝臣以下、藏雲客一列、中宮亮

高實朝臣以下諸大夫一列、六位外記、史主從對南階昇給、御查取公

□廊具、頃令參院給、高松西洞院、內大臣以下公卿多被參集、於

長治元年正月一日

四三三

擬侍從定

右大臣家
拜禮

院拜禮

東宮拜禮

群臣初メ
テ東宮ヲ
拜ス

小朝拜

御物忌ニ
依リテ出
御ナシ

外任奏
諸司奏

西中門下、先令院別當修理大夫顯季朝臣奏拜禮由、勅許之後、列立南庭、右大臣、內大臣以下公卿一列、十八殿上人顯季朝臣以下五十餘人一列、藏人頭立、位階次第、六位判官代藏人一列、偏院殿上人、九立、立定了後、舞踏之間、東宮褰御簾、頗有御拜々禮之氣色、万人屬目、奉仰儲皇、繼次之貴、誰不欣感、御降誕○康和五年正月十六日ノ條、參後、人々未奉見間、初拜華顏、人々暫候殿上、此寢殿東面東宮御所、南申時許、右大臣殿引諸卿令參內給、入從陽明門、左衛門、左兵衛陣、從敷政門暫居陣座、渡階下參弓場殿、令頭辨重資朝臣奏小朝拜由、勅許之後、入從仙華門、列立、公卿一列、雲客一列、被相尋六位之處、不存不立、頃者藏人右衛門尉重隆參、其後舞踏了歸著仗座、予此間參中、宮御方、藤重、今日禁中御物忌也、清涼殿東庇上御簾、付御物忌、垂母屋御簾、額間立御倚子、但無御出、頭中將顯實朝臣出仗座、內辨之由、仰右大臣殿奉仰之後、移著端座給之後、以御隨身敦時、令押笏紙、即官人令置、軾、又令官人喚外記、大外記師遠參進軾、被問諸司具否、其次有被位事歟、命カ、諸司、事、大外記進外任奏、入筥、令官人召頭中將、頭辨、爲御使、付頭中將被奏外任之次、諸司奏事、被取御氣色歟、此間及秉燭、頭中將歸來、右大臣殿取外任奏結申給、仰云、令候列、與、其次諸司奏可付內侍所由被仰下、次召大外記、被下外任奏、

外記無禮

東宮御戴
餅ノ儀

節會ノ諸
役ノ儀

稱唯、又諸司奏可付內侍所之由被仰下、大外記稱唯退出、內大臣以下出於敷政門、著外辨座、右少辨、俊信、外記稱唯之聲甚微音也、已以不聞、每事無禮之由人々相談、開門、及數剋頃者、召使一人參來、令下式筥、召外記、被問諸司去、外記乍立申之、近代、被著外辨之、時、可居歟、外記稱唯之聲甚微音也、已以不聞、每事無禮之由人々相談、開門、大舍人稱唯、少納言參入、內大臣以下起座、經左兵陣北、西端平頭之由見北、山抄、今日違彼記如何、民部卿、俊明、右大將、家忠、春宮大夫、公實、經實、新大納言、經實、左衛門督、雅俊、右衛門督、宗通、左兵衛督、能實、藤中納言、仲實、源中納言、國信、右兵衛督、師顯、雅、右宰相中將、顯通、下官、右大源宰相、能俊、左宰相中將、忠敬、源宰相中將、顯雅、大藏卿、道良、散、列立之後、謝座了、入從軒廊東二間、著堂上元子座、不經程、右大臣殿退出給、予獨扈從退出了、不見餘儀、依仰歸參院給、是東宮有御頂餅事、於寢殿東西畫御座方、有、有其儀、本宮大夫公實卿室家辨、三位奉抱儲皇、右大臣殿奉仕御頂餅事給、則退出給、其後及深更歸家、略、後、聞節會次第如常、御酒勅使、左宰相、宣命使、右兵衛、內大臣行內辨事、依御物忌無御出間、宣命見參進御所邊被奏云々、

辨官ハ必
ズ先ヅ一
上ニ參候
ス
忠實御戴
餅ノ儀ヲ
奉仕ス
流星

二日、蒼天得晴、人多歡樂、午時許先詣民部卿許、依一家次參前齋院、堀川五次參左府、堀川三條、爲辨官先必次參殿下、中略、忠實臨時客已及秉燭、引諸卿被參院、於東宮御方有御頂餅事歟、次參內給從陣座經階下、暫坐殿上給、從本路、歸出和門、從承香殿後、參中宮御方給之間、流星互天、人々驚見、其光如火、次參太后御所、批把給先於前庭二拜、了昇給、次參高倉一宮、依及深更、已鑲御門、仍令歸路、予此間參一條殿退出、

後取懷季

三日、遙漢高晴、太陽甚明、下略、朝觀行幸先已時許參殿下、參院給了、則馳參院、是東宮御頂餅爲奉仕給、先參院給也、略

〔爲房卿記〕

正月一日、丙子、天晴、在于兵衛佐一條亭、曉更拜四方并七仙諸神、

院拜禮
節會
內辨
近江燧餅
贊ヲ御餅
ニ用フ

〔院拜禮事〕 如例、未剋相具武衛、參仙院立拜禮、右內兩府以下濟々焉、渡東宮御拜舞了後、〔朱卷下向シ〕小朝拜御物忌無御出供御座事、群卿參內、余參東三條、次參內、昇殿之後即以退出、今日內御物忌、小朝拜如例、〔外辨昇堂之後讓內辨出事〕節會、〔東宮御戴餅事〕但無御出供御座如例、節會內辨右大臣、依可被參東宮御戴餅、外辨昇堂上之後、讓內辨於內府退出、及戌剋參龍樓給於東面戶內被行其事、三位〔內辨事〕內御奉抱儲皇、辨乳母取御劍、兵衛佐通季持參御餅、件餅被用近右府帶劍指笏被勤仕、

東宮御藥
儀成人
禮ノ如

〔東宮御藥事〕 其儀如例、仙院御氣色、依爲外東宮御藥儀如成人之禮、出御晝御座、三位奉抱云々、後取安藝守經忠朝臣、陪膳辨乳母、〔東宮御戴餅事〕二日、丁丑、天晴、中略、忠實臨時客臨夜事了、相率卿相令參院給云々、被奉仕東宮御戴餅、宮後取少納言實明云々、

〔本朝世紀〕

康和五年十二月十三日、戊午、〔後房〕左大臣、權中納言匡房以下參入、略次被定申元日侍從、荷前使等、

〔中右記〕

正月五日、今明內御物忌也、中入夜參殿下、中其夜亥時許令參內給、御宿、〔傳〕下官同候宿、

御物忌
忠實宿侍
ス

六日、御物忌也、中今夜宿侍、
八日、中今日禁中御物忌也、
十一日、中略、
今明內御物忌也、
十五日、今明內御物忌也、

十六日、内御物忌也、晚頭參殿下、爲御共參内、○中予獨留禁中宿侍、
十九日、從今日四ケ日内御物忌也、
廿一日、○中略宗忠參院ノコトニカ、給御返事歸參内、依御物忌、付因幡掌侍退出、

廿五日、今明内御物忌也、○中今夜宿侍、

廿九日、欠日、○中略

今明禁中御物忌也、

〔爲房卿記〕正月十六日、辛卯、踏歌節會、依御物忌不出御云々、

十九日、甲午、今日以後四ケ日内御物忌也、奏事之由、於院參籠、

廿日、乙未、○中次令奏文書、○中依御物忌、參入籠中、奏覽如例、

廿六日、辛丑、内御物忌、○中三大臣以下參籠、

法皇、鳥羽殿ニ御方違御幸アラセラル、

〔中右記〕正月元日、日漢天高明、扶桑甚明、○中今夜節分也、三方可在南將法

王爲御方違、密々有御出鳥羽、鷄鳴之後可還御云々、

〔爲房卿記〕正月一日、丙子、天晴、○中今夕立春、仍上皇有御方違、鳥羽殿西河

三大臣參籠ス

節分ニ依ル

還御

宮者、然而深更行向九條、同爲方違也、鷄鳴歸參了、

二日、右大臣忠實臨時客、

〔中右記〕正月二日、蒼天得晴、人多歡樂、○中略宗忠年首廻禮ノコトニ次參

殿下、東西對南庇被儲臨時客座、殿上人座、上達部座、末人々被遲參之間、光

景漸傾、申四點許也、右大將被參入、公卿暫列立中門外、南左兵衛督、左大

辨相從、右大將共也、主人櫻下、製、紺地立對南庭給、諸卿列立、右大將、爲尊客、左

兵衛督、能、源中納言、國右宰相中將、顯通、宗忠下官、源宰相、能左大辨、基左宰相中將、

新宰相中將、家、已上雲客兩貫首以下十餘人、至藏人重隆、一列、二拜之後頗

以猶讓、殿下昇西階給、御香仲右大將昇南階被著端座、侍從、宗取、查、件、侍、從

之、列、東、宮、殿、上、人、七、人、餘、人、々、昇、從、中、門、廊、各、著、座、頭、中、將、以、下、依、氣、色、著、座、了、立

家主机、看、物、清、實、朝、一、獻、家、主、頭、中、將、顯、實、依、位、著、公、卿、座、末、頭、辨、二、獻、頭、中、將

隆、人、重次居飯汁物、口口口口、三、獻、相、宰次居汁物、鳥、子、依、仰、歌、催、馬、樂、田、新、年、席、次

四獻、宰、相、中家主讓尊客給、人々肩脫、次朗詠、万、歲、千、秋、居、菓、子、次、五、獻、源、中、納、言、朗、詠、又

東岸之句、西岸之句、居薯蕷粥、引出物馬一疋、引廻前庭之間、殿下御隨身欲騎、

放御馬於南山邊、取張馬又牽廻、侍從忠宗取張馬、其後出給、已及秉燭、

諸卿列立尊客

宗忠催馬樂ヲ歌フ

長治元年正月三日

四四〇

〔爲房卿記〕

臨時客

正月二日、丁丑、天晴、今日於東三條東對、右大臣殿被行臨時客、其儀如常、殿上人座在上達部座末、仍右大將爲尊者、五獻之後有引出物、大納言正、臨夜事了、

三日、或法皇御所高松殿ニ朝觀行幸アラセラル、

〔中右記〕

正月三日、遙漢高晴、太陽甚明、爲朝觀、有行幸法王御所高松亭、東宮御此

東宮高松殿ニ御ス
日時勘文
留守官
行幸路
南殿ニ出御
公卿列立

也、先已時許參殿下、中則參內給、爲御共參入、從陽明門、左衛門陣和德門、參殿上給、宗忠下官留候仗座、兼實內大臣以下人々參集之後、頭中將顯實朝臣持行幸日時勘文、宗忠下內大臣之、兼實留守并行幸路次第事等宣下、內府披勘文被結申、件日時勘文、宗忠卷勘文、先差遣件勘文於端座方、起座被移著端座之後、以官人召外記、大外記師遠參進、被下勘文之次、留守左大辨基綱并右中辨長忠朝臣、又行幸之路宮城東大路二條、并同院西大路者、大外記師遠稱唯退出、左大辨令在仗座、內府便被仰留守之由、又令官人召頭辨、重資朝臣則參來、兼實被御輿裝束事歟、未剋御出南殿、左右近衛陣列、右次將中將宗輔朝臣、少將家定、顯重出於本陣渡階下、公卿列立、內大臣、兼實左大將、兼實民部卿、兼實右大將、兼實地緒、兼實波階下立階、兼實西殿、兼實春宮大夫、兼實新大納言、兼實左衛門督、兼實右衛門督、兼實藤中納言、兼實源中納言、兼實右兵衛督、兼實右宰相中將、下

陽明門ヨリ出御

寢殿ニ於テ御拜
東宮ト御對面

御膳ヲ供ス

賜祿
勸賞
還御
名謁

官源宰相、兼實左大辨、兼實留守在列後、立左宰相中將、源宰相中將、兼實新宰相中將、兼實大藏卿、兼實圍司奏、兼實出從左少納言懷季鈴奏、了寄御輿、兼實鳳輦、兼實泰、兼實從日華、兼實宣陽、兼實建春、兼實陽明門出御、經大宮二條西洞院、高松西門暫留御輿、公卿列立中門外北邊、兼實東上南面、兼實北面、兼實令院別當民部卿奏事由、此間發亂聲、寄御輿於西中門下、左右宰相中將顯通、忠教取璽劍前行、入御西對、此間公卿著侍廊座、光景漸傾、漢天頽陰、於寢殿簾中有御拜、兼實人不見其儀、又東宮有御對面歟、西時許卷庇、御簾供御座、先左右近次將以下陣前庭、兼實御出、右大臣殿候簀子敷給、以頭辨仰、諸卿起座、參進簀子敷圓座、次召左少將、兼實時實隆朝臣、右中將宗輔朝臣爲樂行事、左右次將行向樂屋亂聲、左近大夫將監伯光末、右近將曹多忠方振梓吹調子、舞左萬歲樂、兼實八人、兼實右地久、兼實八人、此間居公卿衝重、兼實兼三所殿上、兼實右三臺、已及秉燭、供御膳、右大將爲陪膳、參議益送、舞人暫垂裾候前庭、供了舞之、兼實右古鳥蘇、次龍王、納蘇利、次引出御馬二疋、右中將宗輔、左少將實隆牽之、兼實不居、其後御時、兼實面間、漸及曉更、給公以下祿、但無院司祿、被仰勸賞、兼實左中將、兼實俊忠、兼實敝正四位下、兼實院別當、兼實次還御、兼實鈴奏了公卿名謁、兼實隆敝正四位下、兼實宮權亮、兼實侍從、兼實信通、兼實敝正五位下、兼實院別當、兼實左少將實隆、兼實宗問之、兼實留守藏人廣房、兼實加階人々奏慶、寢殿南面爲御拜座、東庇爲大床子御

長治元年正月三日

四四一

長治元年正月三日

座、東庇爲假東宮御所、北庇爲內御所、西北角間爲院御所、依無所便宜、旁御所
 在一所也、又南階左右敷筵、爲院內殿上人座、西內、南庭東引幔、其前儲樂一字、
 立左衛門（陣方）西面、其南北立左右鉦鼓、其前立鉦（鉦）各九、南右、北左、又西中門前引廻幔、
 西侍廊上達部座、障子西殿上人座、同廊北庇東宮殿上也、□□此亭寢殿西
 對代廊、西中門許也、又東二（宮方）許有小屋、不作滿一町、仍有行幸頗以輕々歟、假
 東（宮方）前栽翠隔小屋棟也、西對代廊爲東宮御歟、西車屋宿暫爲御輿宿所、

〔爲房卿記〕 正月三日、戊寅、天晴、今日行幸上皇御所高松第、自去年十二月廿
 八日、被始御裝束、其儀、移上（立方）東宮畫御帳母屋、自東第一間畫御座供其東庇、東
 面、夜御帳移立西對代南第一間寢殿棟分戶、次西舖弘筵如例、引壁代、立五尺
 御屏風、當御階間北障子前、供上皇御座、々々南庇供御座、西座爲御休息所、所
 司立大床子、立隔大宋御屏風、北庇爲朝餉御所、其北西度殿爲內臺盤所、西廊
 設公卿座、所司居饗、其西中隔障子以西二ケ間、爲內殿上人饗座、北庇爲東宮
 殿上、南階西砌、爲內侍臣座、同東砌爲殿上人座、座末絕席爲東宮殿上人座、更
 南折爲帶刀舍人座、東宮築垣去一許丈立樂屋帳、其前立大鼓一面、左右衛其
 南北立鉦鼓各一面、並西立梓如例、御車宿爲御輿宿、其西儲侍從上官御樂陪

從座、本帶刀陣未剋鳳輦臨幸、內大臣、雅實民部卿、俊明右大將、家忠著紅梅春
○中略宮大夫、公實、新大納言、經實左衛門督、雅俊右衛門督、宗通左兵衛督、能實藤中
 納言、仲實源中納言、國信右兵衛督、師賴右宰相中將、顯通右大辨、宗忠源宰相、
 能俊、左宰相中將、忠教源宰相中將、顯雅新宰相中將、家政大藏卿、道良等供奉、
 左大辨、基綱於中門下、御輿、入御寢殿西庇御所、此間亂聲、次有御拜、籠中儀
卿爲留守、仁壽出御之時、御束帶、仁壽次御對面、宮渡御了、次近仗陣、次改御座、垂母屋簾如例、兼
和寺宮被持參三衣、三所昇殿之者、役之主、上出御、法皇不出御、次召諸卿、此間亂聲、左右振梓、光
末、五位次左右舞、左、萬歲樂賀殿、舞間給衝重於公卿、次供御膳、內大臣陪膳
右、忠方、脫弓箭、懸爲房爲行事、候渡殿內、參議爲役送、賀殿之間、主殿秉燭、事了
 御引出物、御馬、又御對面之間、及三更、被行勸賞、正四位下藤原俊忠、隆依可超
越、有臨、藤實隆、院別同信通、同別次還御、余供奉、歸一條了、

四日、己卯、被改御裝束如元、

〔朝觀部類〕 ○歷代殘闕日 ○上文關ク、記錄名及ビ年月日詳ナラザレド、
記十五所收ム、モ、本條ニ關係アルニ似タルヲ以テ茲ニ收ム、
 退出、午上飯參、者、廻方卿相百僚、漸以群參、未剋殿下御參內、春宮御戴餅、事了參
 御之間、遲引也、申一點、御于南殿、子付御雅樂頭、泰長奉仕、御反問、事了、近仗引

長治元年正月三日

爲章ノ病ヲ祈ルニ依ル

參給爲御共同參入、右大將、新大納言、左兵衛督、予左大辨、宰相中將二人、(忠家)大藏卿、殿上人五六人參入、上座法橋隆尊處勘當、不可候座由、以出雲前司重仲朝臣(仰カ)下、是(爲)章朝臣去今重病之間、隆尊於此堂行祈者、仍有勘當尤理也、或說云、爲章爲丹波國司滅亡御堂庄園、夢有入道殿勘發、何成其恐、致種々祈語、其後不經幾日、遂以卒去也、(康和五年十二月十九日ノ條參看)

〔爲房卿記〕正月四日、己卯、(略)中殿下參無量壽院給、被勘當上座隆尊、去年於御堂修爲章祈事云々、

六日、辛巳、(略)中阿彌陀堂修正不參云々、

五日、(庚)京都火災、法成寺ノ僧房一字燒失ス、

〔中右記〕正月五日、(略)中入夜參殿下、當東北方有燒亡、殿下乘御車、予候車後令走向燒亡所、富小路東西土御門北也、依京極殿近人々被參來、火滅了後殿下參內給間、重又當東方燒亡、令走御車、參法成寺給、御堂北築垣外(爲力)房一字燒亡、北風頗吹、餘炎欲及御堂、仍仰檢非違使、令答人夫等諸堂、上令防火、依三寶助、免餘炎了、

六日、辛巳、(略)叙位、

富小路土御門燒ク

餘炎法成寺ノ堂宇ニ及バントス
檢非違使ヲシテ防火セシム

〔公卿補任〕九 參議從三位源基綱 左大辨、勘解由長官、周防權守、正月六日、正三位、(大辨勞、○辨官補任同ジ)

〔公卿補任〕十 永久三年 參議正四位下藤實行、(廿六、同六正六從四下、勞)

〔公卿補任〕十一 保安二年 非參議從三位藤實能、(廿六、長治元正六敍爵、御給)

〔中右記〕正月五日、(略)中依欠日敍位儀延引、

坎日ニ依リ延引
召仰

六日、(略)中入夜待公卿先參著仗座、左大臣、內大臣、右大將、左衛門督、藤中納言、源中納言、右兵衛督、下官、源宰相、左宰相中將、(忠)頭辨出伏座、敍位儀、召仰左大臣、入從軒廊西二間、經宜陽殿壇上、出從日華門、從南一間著儀所座、內大臣以下入從東面北間、相分各著座、(出座)令掃部寮令置軾、欲有獻盃事之處、藏人廣房出來、召諸卿、左大臣以召使仰外記、先外記一人參進、被仰宮文事、次外記三人參來、取宮文、列立日華門外、(北面)公卿如本路、入於日華門、下從宜陽殿石階、經階下、列立弓場殿儀如常、宮文右大將、藤中納言、下官取之、敍位之間、諸宮御申文、左宰相中將、(忠)奉之、受領功過定三ヶ國、(參河長明、佐渡兼對馬有基)下官讀帳、源宰相見宰相中將書定文、夜半許事了、左大臣持敍位被出殿上、給入眼上、卿藤中納言、披見之處、左大辨基綱、敍正三位、一院御給已不見、有由緒歟、此外拾事不見、

功過定

敍人四十
入眼ノ勞
大辨ノ勞
十一年

基綱著座
ノコトヲ
宗忠ト談
ス

執筆
藏人敍爵

爲房通季
ニ櫻饌ヲ
送ル
執筆

長治元年正月六日

四四八

敍人卅一人也、入眼左宰相忠教、○中
左大辨敍正三位、不次朝恩也、往加階大辨勞十一年、雖然其間關口宮行事
賞、仍外記宮入勘文、尋舊跡浴鴻恩歟、

七日、天陰、時々飛雪、不及庭濕、○中午剋許參仗座、左大辨基綱參會、候仗座、予談
云、先加階事誠以欣感、爲大辨面目之秋也、抑加級之後、撰吉日可令著座歟、今
朝令著給如何、被答云、賜位記後、撰吉日可著仗座也、不給位記以前不可憚、且
又故帥大納言治曆五年正月爲大辨間加階、七日被參內、不賜位記前、先被著
仗座由見家記、且吉例、且家風、仍參陣座者、此事尤可然、爲後日所記置也、

〔爲房卿記〕

正月五日、庚辰、依欠日無敍位儀、參院、

六日、辛巳、敍位儀、執筆左大臣參入、左大辨基綱卿、以大辨十一年勞臨時敍正
三位、自餘如例、重隆敍爵、藏人、

七日、壬申、○中入夜、重隆參所々、申慶賀者、

著顯隆裝束、垂綬、闕掖袍、青半臂、蒔繪野劍、平緒、今夜三位渡給一條兵衛佐
宅、儲御饌、奉送、次、檀紙、薄、椽扇、

〔敍位除目執筆抄〕

長治元年正六敍位、執筆左大臣俊房、

七日、壬申、白馬節會、

〔中右記〕

正月七日、天陰、時々飛雪、不及庭濕、今日節會也、從夜前候內介間、聊

窺從容閑候御前、午剋許參仗座、○中未剋右大臣殿參給、先著輿座給、則頭辨

重資朝臣仰云、內辨奉仰之後、移著端座給、召官人令置軾、次以官人召外記、大

外記師遠參進、諸司具否并外任奏等事、令尋給歟、稱唯退歸、外記申代官、大外

記進外任奏、召頭辨奏外任奏之次、諸司奏候之由被奏、外任奏返給、令結申給

之後、又諸司奏可付內侍所之由被仰下、召大外記給外任奏之次、諸司奏可付

內侍所之由被仰下、大外記重稱唯歸出、天皇御南殿、內侍取下名臨東檻、右大

臣殿起座、著靴、進東階、賜下名著兀子、宜陽召二省賜下名、近仗陣列、宸儀出御

近仗稱警、口、內辨著兀子、諸卿著外辨、內侍喚人歟、內辨昇給、右少辨俊信、少納

言實明、外記宗資、史盛言著外辨座、此間內大臣（雅實）以召使令召外記、被問諸司參

否、次、第如恆、二省彈正入從建禮門候左右、兵部并彈正開門圍司分居、內辨被奏宣

命、給位記宮下與內辨召舍人、大舍人稱唯、少納言實明參入、此間諸卿起座、行

向左兵衛陣、鷹行、外辨列立前庭、內大臣、民部卿、俊右大將、家春宮大夫、公新大

納言、經左衛門督、雅右衛門督、宗左兵衛督、能源中納言、國上右兵衛督、師左

長治元年正月七日

四四九

內辨
外任奏

出御
下名

長治元年正月七日

四五〇

謝座謝酒

群臣兩段
再拜

拜賀ノ儀

白馬奏

御膳ヲ供
御箸鳴ル

御酒勅使

音樂

還御

宰相中將、顯通(宗也)、源宰相(能俊)、左宰相中將(忠教)、源宰相中將(雅巳)、內辨宣、群臣謝座謝酒、了著堂上座、左大辨雖(可力)、著外辨、依爲敍人面(可力)、二省率敍人參入、左大辨立式部省前參入、(公卿立)、內辨召宣命使、源中納言、國、賜之、諸卿降殿列立、西面、宣命使就龍版、群臣兩段再拜、歸昇、式部輔代四位有賢朝臣勤之、(輔不參)、四位取、此間及秉燭、主殿寮立明南庭、位記召賜間、依臨暗拜賀之儀、不慥見、敍人拜舞、歟、掃部寮撤案、諸卿下殿拜舞、西面、了歸昇、內大臣、將、左大將共白馬奏、(內大臣立南殿壇取之)、左右府生取標、左將監取尋常版白馬渡了、采女撤御大盤覆、供御膳、(諸卿起)、昆屯、御箸鳴、臣下箸下、供御飯、賜法下、御箸鳴、臣下箸下、供三節、供一獻、賜臣下、內辨可催國栖之由有氣色、予起座下從殿上、召仰外記、發歌笛聲、二獻、賜臣下、御酒勅使源宰相中將顯雅、供三獻、賜臣下、內辨起座下殿、取內教坊增舞、妓奏給、被奏之、披返給外記、舞妓進出臺、樂人在射場殿奏音樂、舞了諸卿下殿拜舞、(西面、內大臣以下也)、此間右大臣殿於陣座、御覽宣命見參等、奏聞了、賜宣命於右宰相中將、顯通、見參給下官、著祿所、(右少辨俊信共)、諸卿列立、西面、宣命使就版、宣制了、諸卿歸昇、天皇還御本殿、諸卿著祿所取祿、一拜之出、從日

華門、各退出、于時子一點許歟、

〔爲房卿記〕

(宗也) 正月七日、壬午、節會、內辨右大臣奉仕給云々、

〔職事補任〕

(堀河院) 五位藏人 侍從正五位下源顯國 (長治元年) 同六正七從四位下、于時左中將、

○顯國ニ昇殿ヲ聽スコト、本月十四日ノ條ニ見ユ、

八日、癸、御齋會、後七日御修法、諸寺修正、法皇、尊勝寺及ビ法勝寺修正ニ

臨御アラセラル、

〔中右記〕

正月八日、(中)申時許、殿下參御齋會給、又御共同參仕、先著東廊端

座給、以召使召外記、大外記師遠參進、諸司參、否并堂童子參、否問給、先是召辨

右少辨俊信參入、(俊力)參否被尋、事具了仰辨令打鐘、出居右少辨俊信、少納言

季殿下、右大將、(家忠)左衛門督、(雅俊)左兵衛督、藤中納言、(仲實)右兵衛督、(師實)右宰相中將

顯通、(宗也)下官、源宰相、(能俊)左宰相中將、(忠教)左宰相中將、(雅巳)右宰相中將、(忠教)著大極殿

諸引列登、樂人發樂、講讀師登、講師興福寺慶助大法師、出前庭爲舞、朝座了左

右行香、左方右大臣以下、右方行事辨以下、秉燭事了、殿下參法成寺修正給、右

長治元年正月八日

四五二

內辨

鐘ヲ打タ
シム

講師
朝座
行香
法成寺修

長治元年正月八日

四五二

法勝寺及
修正尊勝寺

圓宗寺修
正上卿

呪師散樂
東宮女房
見物

大將、左兵衛督、予、左宰相中將忠、扈從、追又新大納言經、左宰相中將口、參入、爲御堂子孫之人多以參入、子剋事了人々退出、其後予參白河門法勝寺、事了僧侶被渡、參尊勝寺之間也、內大臣以下公卿十一人參會、呪師二、午後大導師昇光、雞鳴之後、事了人々退出、略、左宰相中將忠、勤之、圓宗寺上卿源中納言、國信、

九日、○中略、藏人ヲ補ヌルコト等ニ參院之間御幸成、於途中騎馬供奉、御幸法勝、尊勝寺、呪師十餘手、散樂等種々申、東宮女房見物、雞鳴以後還御、右大臣内、大臣、右大將被著出衣、公卿十六人、直衣、殿上人五十人許供奉、右大臣殿以御車扈從給也、

十一日、夜參法勝、口勝方寺、民部卿以下公卿七八人參仕、雞鳴以後事了退出、雨脚（脱アラシ）

十二日、入夜參右大臣殿、爲御共、參法勝、尊勝寺、公卿十六人參仕、夜半許事了歸家、

法成寺呪
師

十三日、○中入夜參殿下、爲御共、先參京極殿、次參法成寺、見呪口退出、

一獻

公卿不足

散三位ハ
御齋會ニ
列セズ

内記宣命
ヲ進ム

宣命ヲ讀
ム

内并中宮女房渡尊勝寺、見呪師云々、今夜天陰雨雪相加、寒風殊甚、

十四日、天陰、雨雪之間道口泥也、○中夜陰以後參院、仰云、今夜可御幸白河也、

汝者早可參御齋會、公卿相分可參八省由仰下了、汝其一也者、承仰先參内、○

略次退下直廬、著東帶、參八省大極殿講筵、申口人々歸著東廊座、一獻後申文

了之間也、諸卿新大納言、經左兵衛督、能右兵衛督、師左大辨、基新宰相中將、家

大藏卿、道良、左京大夫、顯仲、被參會、申大藏卿、左京大夫二人散三位也、本散三

位殊不參此送、頗成奇、之處、件人々被申云、依有院御幸、公卿相分兩方、人數不

足、頭中將被命云、可參八省者、仍所參仕也、於有別仰非此限、但頭中將頗不知

案內相催歟、散三位殊不參御齋會、可尋例事歟、二獻、右居粉熟、次居飯汁、

箸下、王大夫令著座、史生二人昇机立其前、三獻、右末座人轉盃之於王

大夫、内記進宣命、上卿目、王大夫進軾給宣命、次召辨歟、被問布施堂、本所暫不

參、人々被申云、大略具了者、強不可被尋、新大納言以下起座行、白布施堂、口新

大納言解劍持笏、餘人々不解劍、不知是非、得可尋之、先是著座諸卿并辨以下

上官等著座、禮拜三度、王大夫讀宣命、省官捧布施文授三師、堂達打磬、一々給

長治元年正月八日

四五三

布施綿ヲ賜フ

長治元年正月八日

四五四

布施綿、綱所申上云、三僧布施先々皆入櫃了、今夜□櫃今一合不足如何、行事辨俊信申上云、講讀師布施許入辛櫃由所存也者、人々云、頗奇怪也、猶三僧□施力可入也、儘可尋渡由、且召仰行事史了、次一拜□□次諸卿參內、入從修明、陰明門、月華門、著□座力右近陣、著與座人、從與方可入、與辨少納言著座、依上卿命、上官等著座、召官人、令置軾、本陣次將皆有障不參、只頭中將顯實一人也、雖不座立、月華門前行事、爲藏人頭、次將於不著座歟、有三獻、勸一人也、頭中次居湯漬并薯蕷粥、上卿召外記可入僧之由被仰下、頃者藏人平實親著青著軾仰云、御裝束□此詞如何、故實歟可尋、長經藏人記云、召小者、今度不然、可尋之、諸卿起座先參也、殿上座出居左中將俊忠朝臣、右中將宗輔、翁著座、諸卿著御前座、□主殿寮炬火前庭、入信衆僧參上、真言宗長者法務法印大僧都經範進出加持香水、僧綱進出結番、法印大僧都覺信讀立、當講興福寺慶助大法印、問者二人、二番、重祥、東□三番、俊範諸卿取祿、於殿上戶前取從簀子敷北進入從額間、授僧綱、僧下元殿上人給凡僧、藏人給綱所、衆僧下公卿退下、出居退下、了歸家、○中略、事後聞、院有御幸法勝、尊兩寺、內大臣以下公卿十人前駟、午王印仁和寺親王

加持香水

祿

法成寺修正結願堂
京極殿御堂修正

大導師增珍

法皇往亡日ニ依リ
臨幸ナシ
法皇呪師
御覽
祇園社及
御塔修正

取之被進云々、道師、鷄鳴事了還御者、右大臣殿參法成寺修正結願給云々、十五日、中入夜參殿下、今夜京極殿御堂修正也、仍殿下參給、候御車後參入、右大將、新大納言、左兵衛督、左大辨、宰相中將二人、大藏卿、殿上人俊賴朝臣、有賢朝臣、行信、懷季、宗能等參入、僧侶廿人之中、奈良法印以下僧綱九人、以增珍律師爲大導師、亥時許事了歸家、

〔爲房卿記〕宋書、御齋會、八省御齋會、行事右少辨、俊信正月八日、癸未、八省御齋會、往亡日上皇無御事、修正如例、予參法勝、尊勝兩寺、今日往亡日、仍上皇不渡御、上皇幸法勝寺、九日甲申、院令渡修正給、法勝寺事了之後、渡御尊勝寺、兩寺覽呪師、鷄鳴□還力御余如奉仕前駟、祇園日吉修正、十日乙酉、參兩寺修正、今日被行祇園并日吉御塔修正、各請僧十口賜布施、御導師有被物、日吉差遣主典代助忠、余行事也、參法勝寺給事、十二日、丁亥、參兩寺修正、十三日、戊子、雪降、偷閑先參尊勝寺、次法勝寺、次法成寺、今日上下多以不參、然而依思遺德、不顧傍難、故以參入、次宿一條、

長治元年正月八日

四五五

長治元年正月十日

四五六

十四日己丑、上皇渡御兩寺修正、於尊勝寺愚息泰隆聞補藏人之由、騎馬參内、
ル○中略、藏人ヲ補ス付簡之後、更以歸參、々會二條東洞院、供奉御幸自高松殿
歸畢、于時青天漸明、

十五日、庚寅、京極修正云々、

〔類聚世要抄〕

四

○德富猪一郎氏所藏

正月八日

御齋會事

同曆記云、長治元年、(正月)

十三日、爲參御齋會上洛、車參美福殿、即著京極殿了、

十四日、參大會并内議義了、勤仕番役了、同參御堂修正、依及深更、不能參會罷
歸了、

後七日御
修法

〔東寺長者補任〕

二

長者法印權大僧都經範

法

後七日法行之、於清涼

殿被行之、

〔後七日御修法阿闍梨名帳〕

長治元

甲申

加持了、清涼殿、

十日、配女敍位、

〔中右記〕

正月十日、未剋許參内、○中

及深更退出、或雪或雨、乍陰乍晴、女敍

事、執筆民部卿殿下、令候給、其儀如臨時除目、頭中將奉仰進諸堂御申文、請印

執筆俊明
請印

前女御基
子給
東宮女爵
ナシ

上卿左兵衛督、○中

女敍位間、前女御基子給賢子給子力堅子立堂時、母后御名也、甚不便也、

〔爲房卿記〕

正月十一日、丙戌、今夕女敍位御申文沙汰之次、春宮無女爵之由、

令奏院了、有御許諾者、執筆民部卿、女賢子敍爵云々、賢子者當時母儀、贈太后
御名也、可謂失錯、

十三日、安藝守藤原經忠ノ室實子ヲ東宮ノ御乳母トナス、

〔爲房卿記〕

正月十三日、戊子、雪降、○中

今夜安藝守經忠妻參春宮御乳母、大

實子、

○法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、經忠室歸參ノ由ヲ奏聞セシメ給フコ

ト、八月二十三日ノ條ニ見ユ、

十四日、藏人ヲ補シ、左近衛少將源顯國等ニ昇殿ヲ聽ス、

〔公卿補任〕

大治五年

參議正四位下藤忠宗、四長治元正十四昇殿、十四

〔中右記〕

正月九日、晚頭參殿下、依有令申給事參内、○中

又爲御使二ケ度參

院、五位藏人、六位藏
人、還昇殿等事、

長治元年正月十三日 十四日

四五七

宗忠勅使
トシテ參

公實ノ女

十日、未剋許參内、爲御使二ヶ度參院、是職事沙汰也、今夜雖可被補、依遲議事延引、及深更退出、

十三日、晚頭參内、二ヶ度爲御使參院、侍中

十四日、天陰、雨雪之間道、泥也、往反有煩、未時許著直衣參内、爲御使二ヶ度

參院、是昇殿侍中等事也、中承仰先參内申院御返事、于時御前

略、中頭中將顯實、仰下云、縫殿助行盛、官代、行家朝臣男也、院判大舍人助、泰隆、

爲房朝臣男、已上二人可補藏人、左近少將源顯國朝臣、前少納言源家俊朝

前齋院御乳、已上二人、昇殿、五人被

藏人允五人皆非藤氏、因之今度被撰補藤氏人々、御使之間慥所承也、藏人

二人初參、

十八日、天陰、雨下、本月二十三、日ノコトニカ、ル、還昇人々參内、

廿日、天晴、政ノコ

今日、新藏人二人從事、奏吉書、

〔爲房卿記〕正月十一日、丙戌、今夜藏人不補、五位藏人无其人之故云々、

還昇五人
藤原氏ノ
人々ヲ撰
補ス
新藏人初

同從事
五位藏人
ヲ補セズ

爲房成實
ト共ニ慶
賀ヲ奏ス

泰隆奏文
トヲ習フ

泰隆從事
出御

十四日、己丑、於尊勝寺、愚息泰隆、開補藏人之由、騎馬參内、頃之、伴僧備中、

相具、養父成實朝臣、參内、令申慶賀、付簡之後、更以歸參、今夜昇殿、左少將

顯國朝臣、五位藏人、散位家俊朝臣、四位之後、侍從忠宗、藏人、縫殿助兼

行盛、入道讚岐守行家朝臣、二男、年卅、大舍人助泰隆、給、第五、愚息也、

十九日、甲午、今日以後、四ヶ日内、御物忌也、奏事之由、於院參籠、泰隆明日可隨

事之故也、

廿日、乙未、著朝大盤、次退下直廬、次相具新藏人、密々向右兵衛督陣、令練習奏

文、供膳事、又令補氣上、行盛侍中、密々來臨、雖不穩之事、代々作法、又不可守株

歟、次令著束帶、右府忽無恩賜也、次令昇殿、次以藏人大進、令奏事之由、次出御、

次令奏文書、先廣時公用、依御物忌、參入簾中、奏覽如何、次令供朝饌、予爲陪膳、

泰隆執蓋、行盛執御酒蓋、退後、次泰隆、令書陪膳記、次令觸障、爲內覽退出、

具參院、次遣里第、暫可休息、臨昏參内、於藏人所、召出納、令成廣、絹返抄、次出陣、

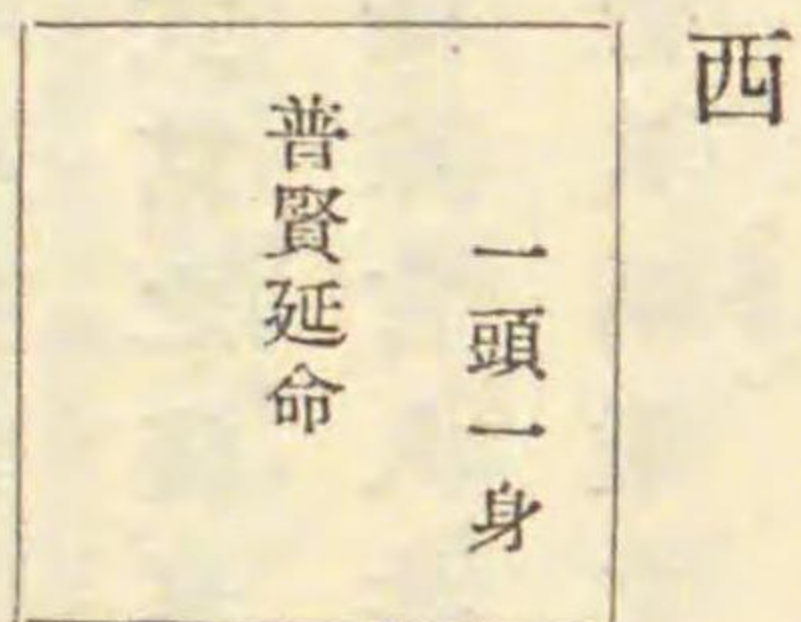
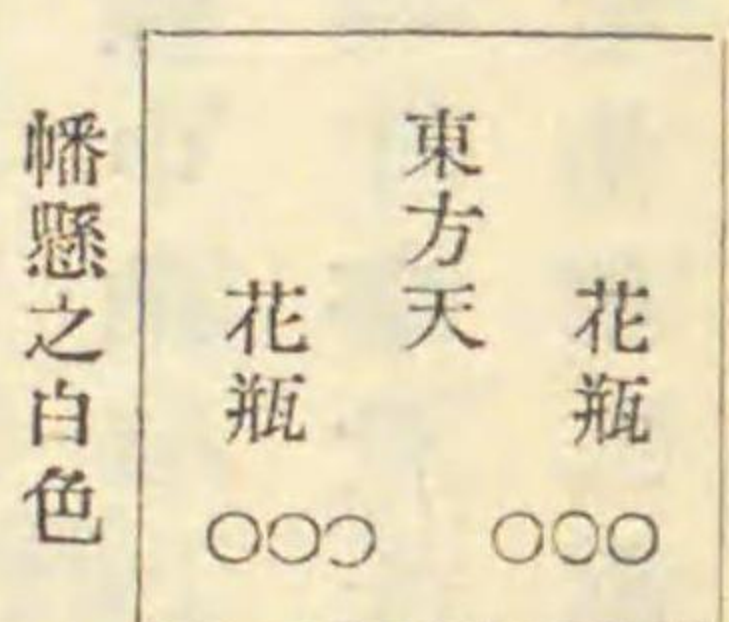
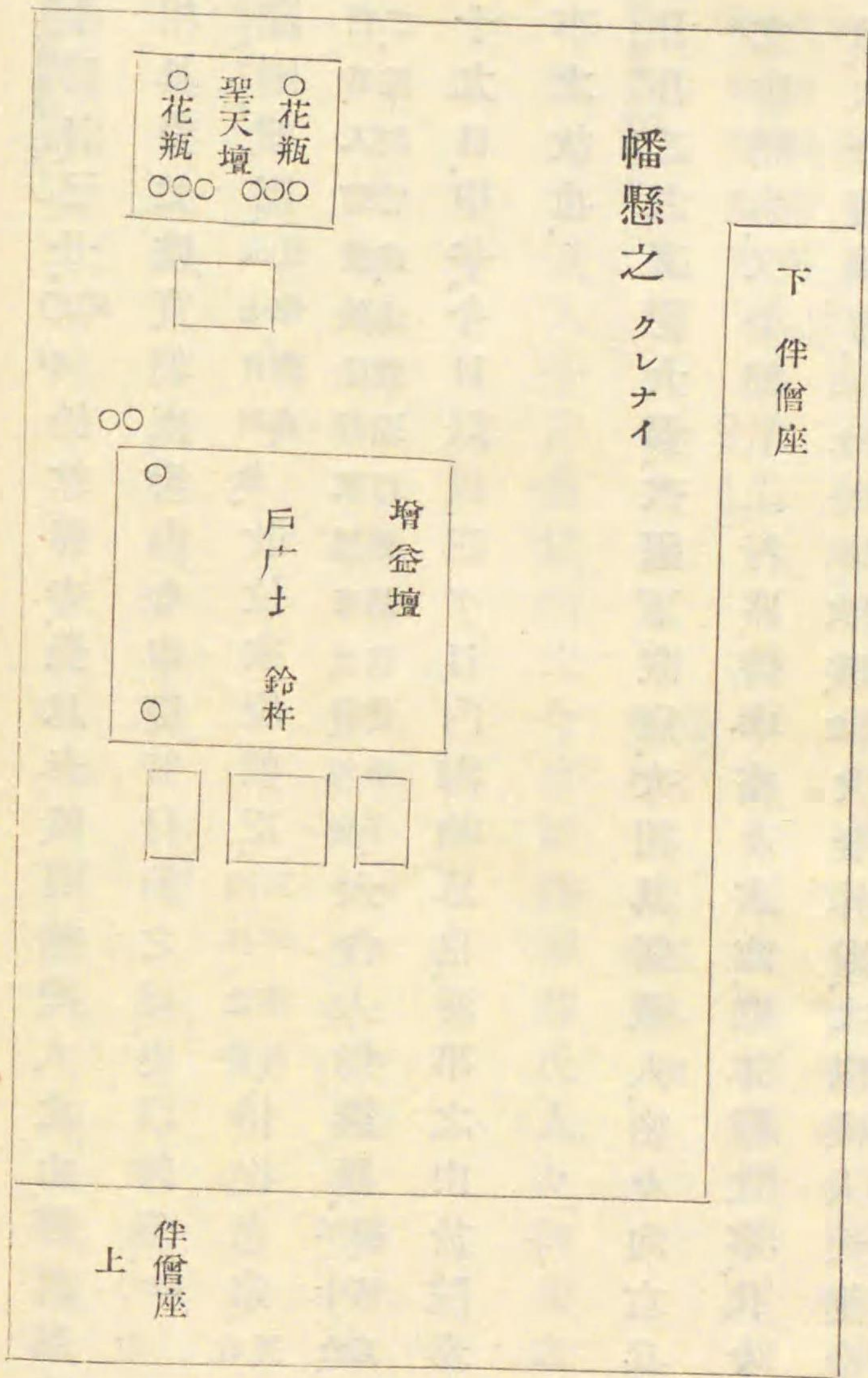
令下宣旨、余不歸參、

長治元年正月十五日

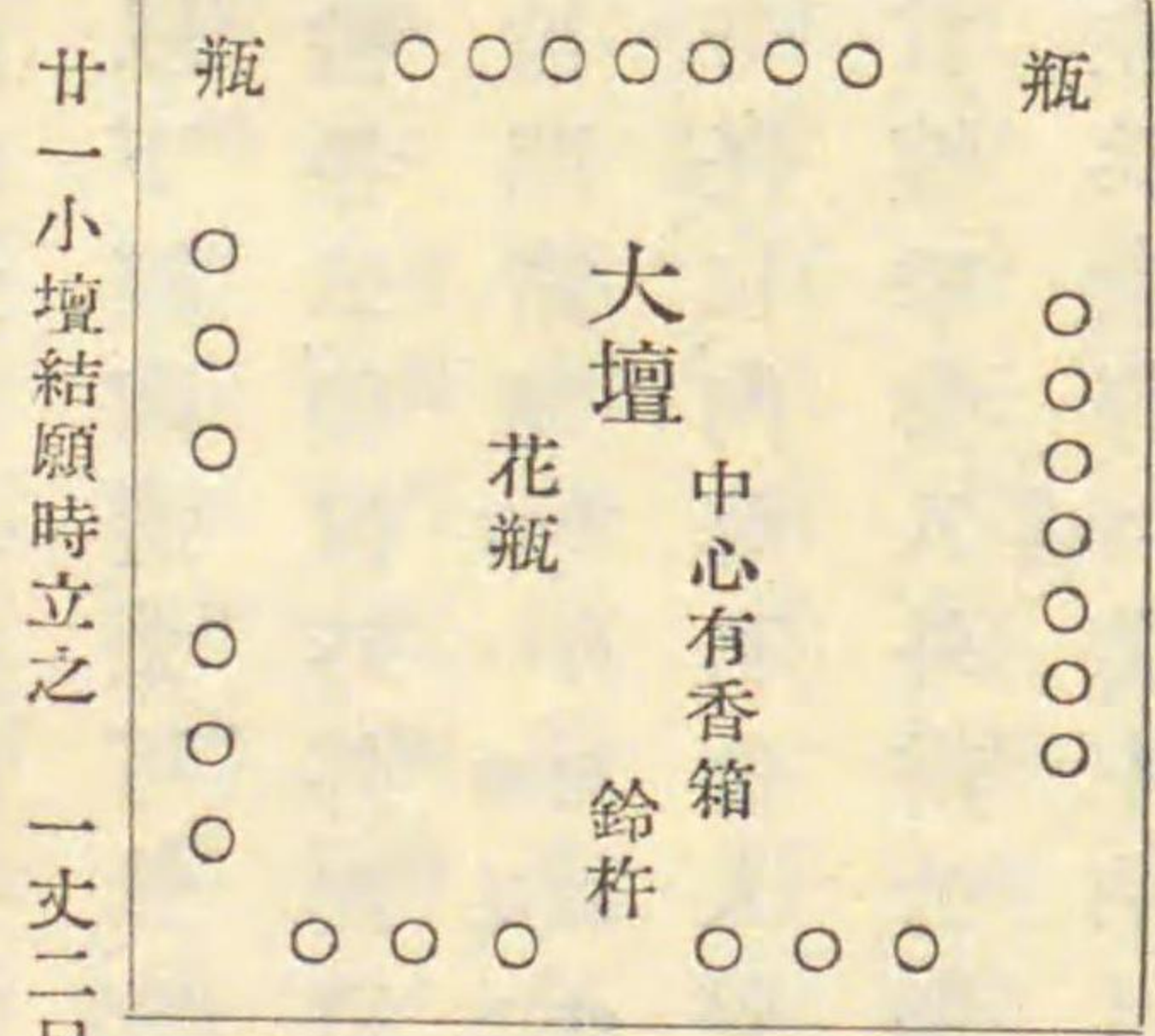
四六〇

○顯國ヲ從四位下ニ敍スルコト、本月七日ノ條ニ見ユ、十五日、庚、禁中ニ普賢延命法ヲ修ス、
 〔阿婆縛抄〕^{七十五} 普賢延命法日記 ^{長治元年} 康和六年正月十五日、於内裏被行始之、大阿闍梨辻法眼、四天王阿闍梨經親、尊智、隆教、義仁、護摩阿々々、實算、院照、十二天供陽宴、聖天供有賀、其外伴僧一々不注之、惣廿人也、赤色幡後ヲ、マイヒキタリ、幡懸之、

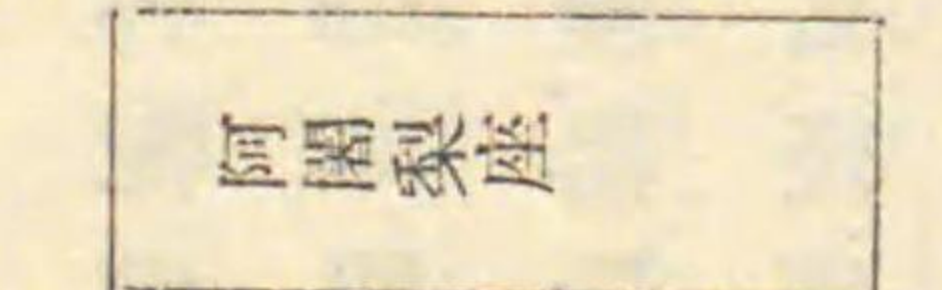
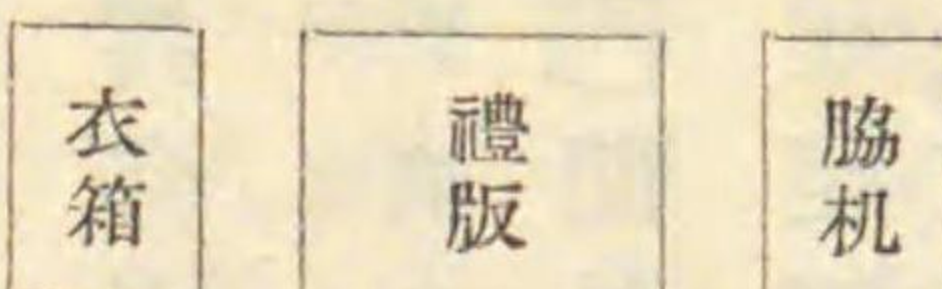
修法ノ指



香加持以大毘羅加持之
 後加持降三世呪
 供養法以成身會行之
 香加持行法了後自禮版下禮シテ
 又禮盤ニ登加持之

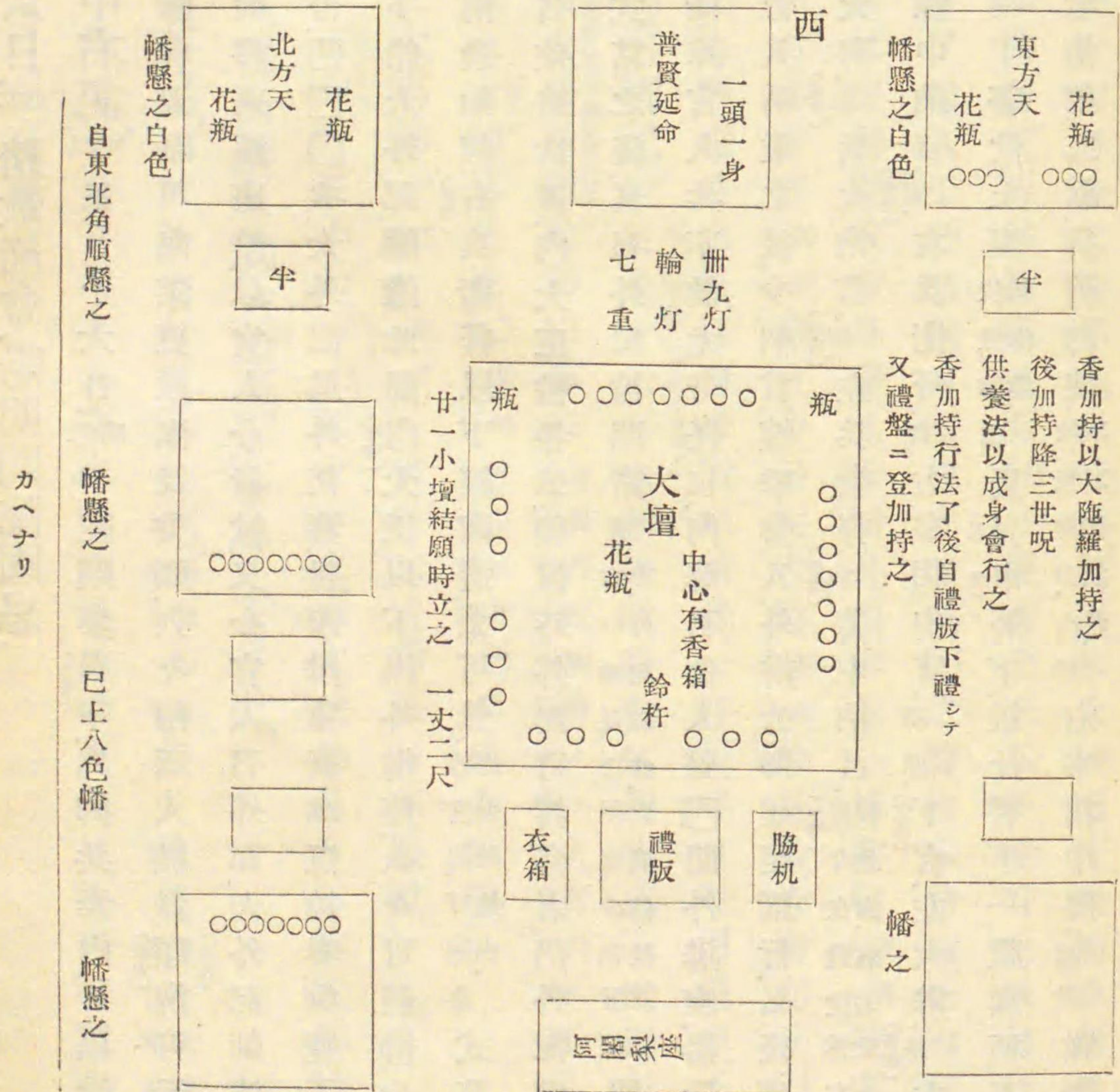


廿一小壇結願時立之一丈二尺



長治元年正月十五日

四六一



十六日、卯、踏歌節會、陽明門院國忌、

〔中右記〕正月十六日、○中、晚頭參殿下、爲御共參內、日已欲暮、公卿遲參、今日

公卿遲參
內辨

外任奏

公卿南庭
二列立

謝座

一獻

御酒勅使

節會大略可臨深更歟、漸及秉燭、人々兩三人被參、頭辨仰云、內辨□□、右大臣殿移著端座給、以官人令置軾、又令官人召外記、大外記師遠參進被問諸司具否、□□次大外記進外任奏、付頭辨重資朝臣被奏、御覽了返給被結申、次下給大外記師遠、此間內大臣以下出外辨座、人々可經辨少納言座北也者、經南邊如何、右兵衛督以下經南邊、尤可然、西宮記、可經南邊、由顯然也。式宮不置、內大臣被尋、召使追欲置、內大臣被答云、後置時外記可持參者、仍外記範兼持參、以召使下式宮之後、又召外記被問諸司、右中辨長、忠朝臣、少納言、懷、開門、不、開、建、左右兵衛陣官人共不候、尤奇怪也、內辨召舍人聲、□聞外辨座、器量之由人々感氣、大舍人稱唯之後、少納言懷季參入、外辨公卿起座雁行、召後列立南庭、內大臣、右大將、家、新、大、納、言、經、左、兵、衛、督、能、藤、中、納、言、仲、今、夜、俄、院、稱、有、御、幸、之、由、從、軒、廊、被、念、出、猶、著、堂、上、座、之、後、可、被、出、與、源中納言、國、右、兵、衛、督、師、右、宰、相、中、將、顯、通、宗、也、下官、左大辨、基、左、宰、相、中、將、忠、敦、謝、座了著堂上座、依、無、御、出、居、昆、屯、箸、下、飯、汁、箸、下、一、獻、國、栖、遲、參、頻、被、尋、頃、者、發、歌、笛、聲、二、獻、御、酒、勅、使、依、無、御、出、內、辨、不、取、御、氣、色、右宰相中將、忠敦、雅樂寮入從承明門、立

公卿拜舞

宣制

給祿
御物忌
依リテ出
舞中宮
東宮中
御ナシ
依リテ出
給ハズ

還御

樂、左右舞各二曲了、退出音聲、歸出、右大臣殿下從殿取舞姬奏給、別當、不、參、也、頭、中、將、傳、奏、之、渡階下於弓場殿被奏、留、御、歸著堂上兀子給、府生取標、妓女出從、兩三廻庭

中了歸入、于時禁庭月明、妓女踏赴、之、替、自、催、情、感、公、卿、拜、舞、西、面、此、間、內、辨、於仗座御覽宣命見參、人々歸昇、內辨進弓場殿給、下、經、階、被奏之後歸著堂上給、

召右兵衛督、師、賴、給宣命、召左大辨、基、綱、給見參、公卿列立、宣、命、使、就、版、宣、制、□公卿還昇之後、行向祿所取給祿、一拜了、從日華門退出、予猶留禁中宿侍、

〔爲房卿記〕

正月十六日、辛卯、踏歌節會、依御物忌不出御云々、中宮不被奉新

妓女、陽明門院御國忌、元、陽、明、門、院、崩、御、ノ、コ、ト、嘉、保、二、見、二、今、日、之、故、也、東、宮、同、不、被、獻、故女御忌月也、○、康、和、五、年、正、月、二、日、ノ、條、參、看、共妓女不參、

〔江次第鈔〕

踏歌、正月、當時二宮御忌月不被獻、康、和、六、正、十、六、日、左、府、節、會、中、宮、東、宮、依、御、忌、月、不、被、進、舞、妓、

法皇、鴨河邊ニ御方違御幸アラセラル、

〔中右記〕正月十六日、○中略、踏歌節會、藤中納言、仲、今、夜、俄、院、稱、有、御、幸、之、由、從、軒、廊、被、念、出、○、中、略、

今夜上皇有御幸九條末鴨河邊、依御方違也、曉可有還御、十七日、壬、辰、射禮、

長治元年正月二十日

四六四

兵部手結
一人

〔中右記〕正月十五日、○中 兵部手結、右兵衛督(師)對之、射手藏人廣房只一人也、爲嗚呼事、

十七日、○中

六府將佐
不參

射禮、左兵衛督、宰相中將(忠)被勤之云々、六府將佐一人不參、尉等參仕云々、左少辨左衛門督(權)佐顯隆參仕云々、

〔爲房卿記〕

正月十五日、庚寅、○中 兵部手結、臨晚右兵衛督師賴依催參入、射

手一人、藏人廣房云々、可謂末代歟、

〔射禮事〕

十七日、壬辰、射禮、上卿左兵衛督、辨顯隆兼左衛門佐、其外五府將佐不參、

二十日、乙未、政始、

〔中右記〕

正月廿日、天晴、有政始云々、右衛門督(宗通)左大辨(基)著行云々、

法皇及比東宮、內御乳母藤原兼子ノ夢想ニ依リ、內大臣雅實ノ土御門第二遷御ノコトヲ停メサセ給フ、

〔殿曆〕

康和五年十一月廿四日、己亥、天晴、○中略、宇佐使(遣)依東宮御所之事、頭辨重資(殿)歟、

廿六日、辛丑、天晴、○中 已剋許爲隆來云、院仰也、來月廿日東宮行啓也、仍可進

忠實ヲシ
進メシメ

上卿

給フ

糸毛、但於修理可隨申者、余申云、修理(天)可進之由申了、

〔中右記〕

康和五年十二月七日、申時許從院有召、則參入、仰云、爲御使、可參內

被申事、○中 東宮(行)黑戶方一々奏聞之處、有被仰旨、歸參院委申御返事了、

八日、晚頭參內、申昨日院御返事、○下

十日、朝間從院有召、則馳參、仰云、爲使可參內也、○中 內府亭御渡事、○中 參內

奏件等之處、皆有御返事、○中 其次仰云、內大臣可參內事、可申者、如此之沙汰

間、四ヶ度及夜陰往反、夜歸家、

六年正月十八日、天陰雨下、○中 依召申剋參院、二ヶ度爲御使參內、○中 內府

及深更歸家、

十九日、○中 從院有召、已時許參入、仰云、內府亭御渡、依有伊豫三位夢想猶可

卜占、陰陽師三人被召之處、光平、泰長申不吉之由、家榮申頗宜之由、占形可持

參內者、則持參、依御物忌書寫宿紙、付因幡掌侍惟子奏聞、御返事云、見給了、御

渡可在御定者、則參院申件旨、晚頭歸家、

〔爲房卿記〕

康和五年十二月廿八日、癸酉、春宮畫御帳移立棟分戶以東、東向

即供御膳藏人有氏隨事、東宮藏人不啓文書、以役供爲隨事之初云々、

長治元年正月二十日

四六五

伊豫三位
ノ夢想ニ
依ル
陰陽師ヲ
シテ之ヲ
トセシム
渡御ハシ
皇ノ御慮
ルニ任セ奉

伊豫三位
ノ夢想
不吉ノ告
アリ

長治元年正月二十日

四六六

六年正月廿日、乙未、○中略、新藏人泰隆從事ノコトニ余不歸參、以藏人大進（伊豫三位兼事）令扶持、來廿三日、上皇、東宮可還、御內府土御門第、而內御乳母伊與三位、夢想有不吉之告者、召陰陽師光平、家榮、泰長等於院、有御卜、申不快之由者、忽被停止了、

○法皇、雅實ノ土御門第二遷御ノコト、七月十一日ノ條ニ見ユ、

法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、御祈ノコト等ヲ奏聞セシメ給フ、

〔中右記〕正月廿日、天晴、○中入夜參院、依有召也、可申內事、今年御陰、御祈事、齋院御筮夢事

承仰之後、參右大臣殿、○中次參內宿侍、

廿一日、朝間見參之次、院會申給事等奏聞了、入夜參院申御返事、且又進上內

御消息、給御返事歸參內、依御物忌、付因幡掌侍退出、今朝雨下、午後天晴、

○御愼年ニ依リテ、非常赦ヲ行フコト、康和五年六月三日ノ條ニ、右大

辨藤原宗忠ヲシテ、法皇ニ御祈物ノコトヲ奏セシメ給フコト、本年七

月二十日ノ條ニ見ユ、

右大臣忠實、東三條第ヨリ高陽院ニ移ル、

〔殿曆〕康和五年十二月十日、乙卯、天晴、陰、雨不降、辰刻許向高陽院、頃之還東

院旨ヲ奏
ス

延引

三條、

十五日、庚申、天晴、辰刻許、○中向高陽院申刻許還亭、○中明日可渡高陽院、雖然依方違方角事延引了、召陰陽師光平所召問也、

〔中右記〕正月廿日、天晴、○中略、宗忠參院承仰之後、參右大臣殿、今夜從東三

條、移高陽院、前駟等布衣、宰相中將、（忠實）予宗能等扈從、

○忠實、高陽院ヨリ東三條第二移ルコト、康和五年八月五日ノ條ニ見

ユ、

二十二日、酌法眼經暹ヲシテ、仁壽殿ニ七佛藥師法ヲ修セシム、

〔中右記〕正月廿二日、○中又於同殿法眼經暹修七佛藥師法、

二十三日、戊戌賭弓、

〔中右記〕正月十八日、天陰、雨下、及晚景雖得晴、賭弓延引之由被仰下之、

廿三日、午時許參內之次、先參右大臣殿了、依御物忌、給者、仍參內了、今日賭

射也、公卿參集仗座、左右大將遣召了、內大臣以下參入、四府射手著南庭座、（左中）

將俊忠、右中將宗輔、左兵衛佐宗能、此間頭辨以日時勘文下內大臣、則件勘文

引、引射、右兵衛佐庭參、且射、手參著、此間頭辨以日時勘文下內大臣、則件勘文

被結申後、著遣端座、起座、移著端座、召官人令置軾、召外記、大外記師遠參進、被

四六七

公卿參集
射著座

延引

長治元年正月二十二日 二十三日

日時勘文
ヲ下ス
出御
四府矢奏

射殘役

射手障ヲ
申ス
入御

出御
御膳ヲ供
ス

長治元年正月二十三日

下日時勘文、式日延引之時、賭射日時於藏、天皇出御畫御座之次、先是四府矢奏、
左少將顯國朝臣、右中將宗輔、申剋出御之後、左中將俊忠朝臣依仰召諸卿、內大臣、左大將、右大將、春宮大夫、右衛門督、宗、藤中納言、源中納言、右宰相中將、下官、源宰相、左宰相中將、新宰相中將、取弓箭參著、依無座所、宰相以下暫入從無名門、又左大辨、在陣座間、頭中將可勤仕射殘役、由仰下、行向建禮門座、外記、退出、尋、又勤件使之、人可歸參、左大將、內大臣、白地、右大將、櫻、萌、木、下、緒、出屏、外取奏、左少將、師、重朝臣、右兵衛佐、通季、傳、獻、奏、將、各進射、庭、奏了歸著、右少將、顯國朝臣、取硯著座、出居左中將俊忠仰云、的、木工寮懸之、兵部省著座、的、申、籌、刺、府、生、著、座、矢、取、近、衛、經、瑚、前、西、度、左、少、將、師、重、朝、臣、申、射、手、障、又、右、中、將、宗、輔、朝、臣、申、射、障、射、手、子、進、出、射、庭、參、射、依、次、一、度、了、間、暫、入、御、此、間、右、大、臣、殿、依、召、參、給、候、御、渡、給、此、間、及、秉、燭、左、兵、衛、佐、宗、能、申、射、手、障、右、兵、衛、佐、通、季、同、申、之、一、度、之、間、左、右、大、將、被、退、出、了、門、退、出、二、度、初、重、出、御、幸、相、中、將、稱、警、內、膳、大、膳、給、衝、重、次、供、御、膳、頭、中、將、暫、居、射、庭、供、了、更、立、射、之、召、左、兵、衛、佐、宗、能、右、兵、衛、佐、通、季、仰、可、止、射、手、之、由、先、仰、上、卿、春、宮、大、夫、次、近、衛、射、手、進、射、此、間、依、有、小、所、勞、忿、退、出、餘、儀、

兵衛射手
矢禮

延引作法
ノ先例

舞樂
四大曲ヲ
ク一時ニ吹

今夜兵衛射手頗爲嗚呼、或破次第有進射者、或有出射庭欲居之、先每事失禮、誠以不便也、後聞、三度者中左勝者、龍王、納蘇利共舞、右方時被止納蘇利例也、今度不然、左右共備天覽、

〔爲房卿記〕

正月十八日、癸巳、雨降、仍賭弓延引其之內頭中將仰上卿、或人云、

可仰一上云々、中將命云、資房卿爲頭之日、仰中宮大夫長家、齊信卿爲藏人方、

沙汰難之、小野右府其難左道也、尤可仰上卿、

廿三日、戊戌、被行賭弓日時下上卿、頭中將、

二十四日、紀禁中御遊、

〔中右記〕 正月廿四日、終日雨下、入夜參內、宿侍、左京大夫、新中將、備後介、

有賢朝臣、四位侍從、師親朝臣參入、於黑戶方有御遊、先舞律呂、催馬樂、其後被、

盡大曲、令亂旋、春鶯囀、蘇合、龍王、納蘇利、如法次第盡之間、已後曉更、四大、

曲一時吹盡、未逢此御遊、依勝事所記置也、

二十五日、故女御藤原茨子一周闋正日、依り、法會ヲ七條ニ修ス、

〔中右記〕 正月廿五日、略中、

今日、故女御一周闋正日也、仍於七條被修法事云々、

長治元年正月二十六日

四七〇

○茨子卒去ノコト、康和五年正月二十五日ノ條ニ、一周闋法會ヲ修スルコト、同年十二月十九日ノ條ニ、茨子ノ爲メニ堂宇ヲ建立シ、之ヲ供養スルコト、本年本月二十七日ノ條ニ見ユ、

二十六日、位記請印、

〔中右記〕正月廿六日、藤中納言、(仲實)行位記請印事、

陣定ヲ行ヒ、大神宮大宮司ノ補任ヲ議ス、

〔中右記〕正月廿六日、中今夜春除目初也、〇本月二十八日ノ條參看、仍公卿被參籠、參

集仗座、左大臣、(兼實)內大臣、藤中納言、源中納言、右兵衛督、右宰相中將、(顯通)下官、源宰

相、(兼經)左大辨、左宰相中將、(忠敏)新宰相中將、(家政)難被候、先有陣定、頭辨、(重光)仰云、太神

宮司有闕、所望之輩五人也、(周房)公盛、(公衡)各募成功、所申有理、可定申者、予讀申

解狀、或以父祖父功募申、或有覆勘上臈者、又有成數多功之者、仍人々被定申

旨意趣旁分、事不一決、以詞付頭辨被奏之處、追可補給者、定之間夜及深更、

〔二所太神宮例文〕第九大宮司次第

第八十宣孝 祭主賴宣孫、承德二年十月廿八日任、造離宮院功、在任六年、

〔朝野群載〕六太政官

所望ノ輩五人、各成功ヲ募ル、後任決セズ

宣孝秩滿

公隆申文ヲ上ル

太政官符 式部省

應以散位從五位下大中臣朝臣公隆、補任伊勢太神宮大宮司、同公衡秩滿替事、

右得公隆去四月廿五日奏狀、備謹檢案内、大神宮司者、尋成功次第、被補任命例也、爰去承曆年中、造進齋宮寮內中外并三箇院數十字殿舍之上、依別宣旨、恆例員數之外、造進數十字舍屋、依件功可被補任前宮司、宣孝秩滿替之由、去長治元年具注事狀、經奏聞之處、被下依請宣旨、既畢、〇中

元永元年六月八日

○大宮司大中臣宣孝ヲ罷ムル日、詳ナラズ、宣孝ヲ主稅寮ニ勘問スルコト、康和五年十一月十八日ノ條ニ、大中臣定輔ヲ大宮司ニ補スルコト、本年四月六日ノ條ニ、宣孝ノ罪名ヲ議スルコト、同年五月二十二日ノ條ニ見ユ、

二十七日、寅京都六波羅密寺燒失ス、

〔中右記〕正月廿七日、壬寅午時許、六波羅密寺中并堂、一字燒亡、是失火云々、

是ヨリ先、故女御藤原茨子ノ御菩提ノ爲メニ、堂宇ヲ仁和寺內ニ建立セ

失火

長治元年正月二十七日

四七一

宗忠御使
トシテ參

僧名定

時章受領
テ功ヲ以
テ去年ヨ
リ造營ス
上卿

御願文作
者勸賞
供僧ヲ補
ス

寬助ヲ權
少僧都ニ
任ズ

一間四面
檜皮葺ノ
堂六金色
阿彌陀ヲ
安置ス御
沙汰ノ御
封戸ヲ寺
用ニ充ツ

長治元年正月二十七日

四七二

ラル、是日、之ヲ轉輪院ト名ヅケ、仁和寺覺行法親王ヲシテ、之ヲ供養セシメ給フ、

〔中右記〕

康和五年十二月十日、朝間從院有召、則馳參、仰云、爲使可參內也、○

略 正月廿七日、仁和寺堂供養事、參內奏件等之處、皆有御返事、但堂供養事過神今食之後、可申左右者、○中 如此之沙汰間、四ヶ度及夜陰往反、夜歸家、

廿六日、○中 爲御使參院申事、○中 正月廿七日、

六年正月廿三日、○中 今夜藤中納言奉勅、仁和寺御堂供養僧名被定申、眞言

供養、仁和寺是爲導師、定文之中阿闍□覺行ト被書也、讚衆卅人、是爲故女御公家被新造也、

廿七日、壬寅、○今日公家被供養、仁和寺地中堂、是爲故女御建立一堂、故丹波

朝臣爲男時章受領、功從去年造營也、眞言供養、導師覺行法親王、讚衆卅人、公卿雖除目、○本月十八日ノ條、間分遣春宮大夫、公藤中納言、仲今日宰相中將二人、家政、大藏卿、道誦經使有賢朝臣、殿上人等取布施、堂童子諸大夫、五位、其寺號法名稱轉輪院、御願文式部大輔正家朝臣作之、是圓德院例云々、○應德三年六月、道師賞以權律師寬助任權少僧都由被仰下、又供僧六人被補、頭中將顯實行向

〔僧綱補任〕

○興福寺本 權律師寬助 正月廿七日、仁和寺邊建立御堂、是

故女御殿御祈也、供養御導師宮御讓、轉任少僧都、

〔仁和寺諸院家記〕

○山城 轉輪院

古德記云、轉輪院堀川院爲女御茨子周忌、建立之、康和六年正月廿七日、壬寅

供養、大阿闍梨中御室、色衆卅口、御願文云、造立一間四面檜皮葺堂一字、其中奉安置丈六皆金色阿彌陀、

一條記云、奉爲鳥羽院母后被造立、白川院御沙汰被造之、當時御室御進止也、當院無庄園、一向以諸國封戸被宛寺用之間、上古者無懈怠、及于末代諸國司皆對捍之故、全分無寺用顛倒了、御佛事者、於法金剛院南御堂被行之、○仁和寺

〔御室相承記〕

甲 中御室

轉輪院 康和六年正月廿七日、壬寅、卅僧、阿闍梨賞寬助任少僧都、超律師四人、

裏云 公家爲女御茨子、建立供養云々、

〔伊呂波字類抄〕

七 諸寺 轉輪院 長治元年 甲寅 二月 供養、

長治元年正月二十七日

四七三

○仁和寺御傳、仁和寺諸師年譜、真言諸寺院記、狩野文書、異事ナキヲ以テ略ス、茨子ノ御菩提ノ爲メニ、堂宇ノ建立ヲ法皇ニ諮リ給フコト、康和五年二月七日ノ條ニ、茨子ノ一周闋正日法會ヲ修スルコト、本年本月二十五日ノ條ニ見ユ、

陣定ヲ行ヒ、東大寺別當ノ補任等ヲ議ス、

〔中右記〕

康和五年十二月廿六日、中略爲御使參院申事、中東大寺事、略

六年正月廿七日、壬寅、中略○入夜之後諸卿參集仗座、後左大臣、兼內大臣、兼右大臣、兼右衛門督、源中納言、兼右兵衛督、兼右宰相中將、兼下官、源宰相、兼左大臣、兼左宰相中將、兼先有陣定、頭辨、兼重資、仰云、東大寺別當有其闕、權少僧都寬助、法橋勝覺、法橋徵覺、已講勝暹、四人成其望、宜定申、先不被下申文、人々被申旨、或以上藹可被補、或以公請勞可被成者、件旨被奏聞、又頭中將以申文下申云、可定申、是參河前司敦遠得替也、年雖濟公文、可列任中之由申請如何、僉議之座多可有裁許旨申上了、是雖浴濟公事、任終多依無故、無官符請印之間、自然爲得替、彼年伯耆前司隆忠申此旨例、例任中了、依爲同事、可有恩許之由、予定申、了各付頭辨、重資、頭中將顯實、被奏了、

東大寺別當所望ノ人々

參河前司敦遠ノ得替

東大寺別當ノ補任ハ重事

〔殿曆〕

康和五年十二月廿九日、甲戌、天晴、不出行、中略戊剋許爲御使爲隆來、

云料、又阿闍梨并諸寺別當事等也、其中東大寺別當事極大事也、爲之如何、余申云、彼寺日本第一之所也、而無修造人、極不便事也、猶其沙汰可候、爲世間、爲世無極大事候、頗猶人々被尋問候能候歟、如此諸寺別當先例人々被尋問常事候、如此事一身難申左右者、爲隆歸參了、頃之頭辨來、云同事、中略○東大寺別當永觀ヲ罷ムルコト、康和四年十二月是月ノ條ニ、勝覺ヲ東大寺別當ニ補スルコト、本年五月二十九日ノ條ニ見ユ、

二十八日、縣召除目、

〔公卿補任〕

九

參 議正三位源師賴、卅七、右兵衛督、正月廿八日兼備中權守、

藤宗忠、一、四十、右大辨、正月廿八日兼伊豫權守、大辨、兼伊豫權守、官補任同

從三位藤忠教、卅、左中將、讚岐權守、正月廿八日正三位、右大臣、兼讚岐權守、長二年春、日行

幸賞、○承德元年三月二十八日ノ條參看

非參議從三位藤顯季、五十、正月十八日、造宮修理大夫如元、去春宮亮美作

守等、

長治元年正月二十八日

四七六

〔公卿補任〕 嘉承元年 參議正四位下藤顯實八、五十 同六正廿六兼丹波權介八、六十

亮勞

〔公卿補任〕 天永二年 參議正四位下藤實隆廿三 同廿八兼美作介廿三、廿八

〔公卿補任〕 永久三年

參議正四位下藤通季廿六 同六正廿八左少將 同日美作守尊勝寺功、四年七月二十

日ノ條

藤信通廿五 同廿八右少將長治元年正月

〔公卿補任〕 保安三年 參議正四位下藤爲隆三、五十 長治元正廿八任木工頭

二月六日、中宮權大進如元、

〔公卿補任〕 大治五年 參議正四位下藤忠宗四、四十 同廿八日讚岐介長治元年正月

〔公卿補任〕 保延三年 非參議從三位藤顯輔八、四十 同六正廿八越後守、院分長治元年

〔東宮坊官補任〕 院鳥羽 亮 修理大夫正四位上藤顯季同六正十八去

〔中右記〕 康和五年十二月廿六日、略中 爲御使參院申事中 同六正十八去丹波國關事、○

六年正月九日、晚頭參殿下、依有令申給事參內左宰相 將加階事中

院分

除目御修

除目始

召仰

闕官帳ヲ

奏ス

功過定

中夜ノ儀

饗饌ヲ据

廿二日、從今日於仁壽殿、大僧正剋命修除目御修法、

廿六日、略中 今夜春除目初也、仍公卿被參籠、參集仗座、左大臣後、內大臣後、藤中納

言、源中納言源、右兵衛督、右宰相中將源、下官、源宰相、左大辨、左宰相中將源、新宰

相中將源、寄陣座源、○中略、頭中將顯實朝臣出仗座除目召仰、左大臣召大外記被

仰下後、議所裝束被問、大辨申具了由、人々引著議所、辨少納言遲參之間源、盃

藏入縫殿助行盛來召諸卿、左府召外記、被仰宮文之後、左大臣以下起座列立

弓場殿、宮文源、右大將、下官、源宰相、左大辨取之、右大臣殿從殿上加座給依召殿

下著御前座給後、左內府令被著御前圓座、被奏闕官帳歟、頃者召新宰相家政、

被尋院宮御申文、出殿上尋取持參、召功過文書、邦家源、山城、俊兼、能登、兩國文進

上之、右大將與奪有功過源、左宰相中將源、書定文、予與左大辨互思見合、且

讀帳定、漸及鷄鳴、事了人々退下、

今夜又宿侍、

廿七日、壬寅、○入夜之後、諸卿參集仗座、左大臣、內大臣、右大將、右衛門督、源中

納言、右兵衛督、右宰相中將、下官、源宰相、左大辨、左宰相中將源、先有陣定源、○中

其後引諸卿被渡著議所者、不居饗饌、左府被谷云、諸卿申云、春除目時初渡許源

長治元年正月二十八日

四七七

俊房之ヲ
答ム

顯官舉

尻付ニ名
ヲ書スル
慣例

俊明御使
トシテ參
院ス
入眼ノ儀

長治元年正月二十八日

四七八

居物、中夜不居物、是例也者、左府被問大外記、不慥覺有無之由所申也、去年春依日華門（御方）例、（御方）○（御方）康和五年正月二日不被著、其前無慥見內裏儀者、仍皆不審、左府命云、我不慥覺、仍還著仗座、藏人廣房來仰云、召（御方）左大臣、召大外記、被候宮文之由、少外記等取宮文、入從日華門、列立宜陽殿西庭之後、人々被進弓場殿、右大將、右兵衛督、（宗）源宰相、左大辨、取宮文、右大臣殿從殿上加給次第如昨夜、顯官舉、左大辨撰上之、又書上、鷄鳴之後事了、今夕又宿侍、

左府談給之昨夜公卿當年給尻付之中、右宰相中將源朝臣二人也、名顯通、顯雅、依付上書共顯也、凡不能思廻、付下字例全不覺、仍下藹之人々付顯雅了者、此事可尋先例也、但故者之時書名二字、愚案只可付下行字事歟、尤可尋（御方）事也、左府又被談云、春秋除目之次、殊於陣座不被行定之事也、朝家大事無他事之故也、任人沙汰者、於御前被僉議、他事者無仗議者、昨夜今夜共有陣定、（御方）○本月二十六日、依之及深更爲除書、爲公卿頗不便也、其理尤可然、兩貫首不知案内被申行歟、

廿八日、除目入眼也、（後明）民部卿爲御使、昨今往反院、入夜陰、左大臣、內大臣、右大將、新大納言、治部卿、左兵衛督、藤中納言、源中納言、右兵衛督、右宰相中將、源宰相、

阿波伯耆
計歷ノ宣
旨ヲ下ス

受領舉
神祇副ヲ
任ズ

朝選ニ漏
ル、モノ
アリ
敍位

顯季受領
ノ任三十
年ニ亘ル

下名延引
人々慶賀
ヲ申ス

左大辨、左宰相中將等參集、先於仗座被下阿波伯耆計歷宣旨、次著議所、藏人泰隆、召公卿、人々參上、右大將、新大納言、治部卿、源宰相、取宮文、及夜半除目始功過定、（朝輔）紀左大辨讀帳、予見合、左宰相中將、書定文、天已明、卯時許受領舉、行向議所、還參上、一々進舉、於御前有其神祇副、（神祇）有其闕、而大中臣家成、卜部兼政、（大夫）卜部兼良、（大夫）三人申文被下、此中可撰申、人々被申旨各々不同事、但多以兼政、（達）是傳、（傳）卜道輩、勤公事之者也、頗有忠歟、仍被成兼政了、（永）長元年正月五日、

廿九日、欠日、後朝辰剋許、除目了清書、上卿治部卿、（俊）左大辨、（基）源宰相、（能）六ヶ國轉傳任之中、任中一家、範朝臣漏朝選、世人有不甘心氣、式部一不被成外記、又不被成受領、又有敍位、左宰相中將、（忠）敍正三位、是右大臣殿春日行幸上卿、（承）德元年三月二日、（條）參看、賞讓給也、修理大夫顯季朝臣、（敍）從三位、（賞）受領卅年、（前）大夫史祐俊、（敍）從四位下、事了巳時許歸家、（中）後聞、受領二相續不斷、人、左衛門尉被成、（云々）左府考之所歟、

二月二日、（中）今日可有下名、依御衰日延引、（中）今日人々申慶賀云々、

長治元年正月二十八日

四七九

長治元年正月二十八日

四八〇

下名

召名ヲ奏
聞ス

始

六日、○中略、賀茂社行幸日時定等ノコト、又藤中納言、參仗座、予同候仗座、是除目下名依可勤也、頭辨先仰下云、中務大輔闕以藤實兼可成給、左衛門佐闕以藤定通可成給、東市令史以葛原宿禰季忠可成給、又攝津守在良可付兼字、博士、文章、伊豆守通國同可付兼字、大藏、木工頭爲隆同可有兼字、元中進、又左少將有家朝臣、右少將顯國朝臣可改替左右、依有兼國、又各可付兼字、上卿奉仰移著端座、召外記、令進召名等入宮、令下官書加文武召名中後、入召名二通於宮、付外記被內覽、殿中御座、次進弓場殿被奏聞、歸著本座、令外記召二省丞、給下名後、出自敷政門、并左衛門陣、入從官東門、著靴著廳座、外記置召名於上卿座前床子、次第如恆、右少辨俊信參勤、少納言被行下名之例、間有之由所申上也、就中夜深更重不能沙汰、因之只被行、但外記兼不申、頗奇怪也、夜半許事了退出、休日下名有、

十一日、○中略、從院有召、馳參廣隆寺、○二月五日、近召御前有被仰事等、除日中略、此事等大略令奏內之儀歟、件事不能委記、不可出口外之故也、晚頭退出、

十二日、○中略、先參御前、昨日院仰旨、慥所奏聞也、是非御使、然而又不可奏事也、

〔爲房卿記〕

正月廿六日、辛丑、內御物忌、被始除目、三大臣以下參籠、頭辨依召

國司ノ遷
任多シ

公實前使
ヲ美作ニ
遣ス

下名

顯季著座

參院、依爲外宿、藏人大進爲隆撰申文云々、

廿八日、癸卯、除目入眼、及明日已剋、民部卿爲青鳥往反仙院、及六ヶ度云々、加

賀守季房遷丹波、內府、越後敦兼遷加賀、御乳、顯輔任越後、院分、御出雲忠清遷

淡路、御願、備後家保遷出雲、御乳、宗光任備後、左府、申遷任頗多々云々、自餘

在除目、又美作守顯季朝臣、敝三位、殿賞、辰、右兵衛佐通季任美作守、兼任左近

權少將、使宣旨、左衛門尉盛季藏人、今日任尉、以件盛季爲

二月二日、丙午、少將可被申慶賀、本府隨身來給饗、又稱近例、申狩胡籙、壺、匣、巾、

具、院御隨身敦俊依御氣色被相具、先是大納言光臨一條、遣美作前使、雅樂頭

泰長、勘申日時、申剋雜色長景國發白金、與疋馬、次少將再拜退出、納言也、入夜

被歸來、府隨身各給疋絹、謝遣、敦俊綾一重也、○中略、今日顯季三位申慶賀、大夫

裝束、朝服、別當車前、駢五人、子族、外孫、少將、御二人、

人、自車、扈從、左府被示云、三位慶賀可著一位袍者、

六日、庚戌、○中略、今日被行下名、休日、例、藤中納言、仲實、奉行云々、中務權大輔藤

原實兼、家光、四、左衛門佐定通、故保實、卿子、初爲通俊、卿、西市令史、々々、尊勝功

云々、在良、通國、爲隆三人給兼字、

八日、壬子、○中略、今日顯季卿著左仗座、前駢二人、子族、自車、相從、不可然申歟、

長治元年正月二十八日

四八一

長治元年正月二十八日

四八二

執筆
申文ノ作
法

〔敍位除目執筆抄〕長治元年正廿六日縣召廿八日執筆左大臣俊房、

〔魚魯愚別錄〕三下

長治元正五廿六記云、院宮御申文被任之時、硯宮北ニ雙

大間ノ作
法

オイテ、任一通懸勾、取ニハ、裏紙奏被置彼置座前、次第ニ如此シテ任畢後、件裏ト
モヲ又懷中退出畢、後見同年冬者、裏紙入第三宮也、執筆同之、○中略

諸司奏

〔除目祕抄〕柳原家記錄四十四所收 諸司奏

或抄云、舉二分ノ狀也、三分又有例、又云、申其司允已下也、但三分不許、長官已
下連署、

北堂舉

長治元正宰御記云、散位仲信申大監物、北堂儒士江納言已下五位已上舉
奏事也、入大監物東、但注北堂舉、

諸道舉

〔除目大成抄〕三所 春外國三四所 籍 四道舉

長治元同 和泉權掾正六位上高志宿禰季友明法道舉、

皆不任、 河內大掾正六位上紀朝臣季良算道舉、

〔魚魯愚鈔〕一所々奏 諸行事所

造興福寺
供養行事
所請奏

行造興福寺供養事所

請被殊蒙天恩、因准先例、依進納私物八百疋、以正六位上源朝臣經方拜任

內舍人狀、

右、狀略之、

康和六年正月廿二日

從五位下行左大史兼春宮大屬紀朝臣

從四位下行右中辨藤原朝臣長忠柳○

原家記錄三十五所
收魚魯抄符案同ジ、

造內裏行
事所請奏

行造內裏事所

請殊蒙天恩、因准先例、以私物諸門額漆功、以正六位上平朝臣佐則拜任內

舍人狀、

右、狀略之、

康和六年正月十九日

修理右宮城使正四位下權右中辨兼近江守中宮大進平朝臣時範

柳原家記錄三十五
所收魚魯抄符案同ジ、

長治元年正月二十八日

四八三

長治元年正月二十八日

四八四

故中宮賢子御給

中務省舍人正六位上平朝臣佐則行造內裏所申

〔除目大成抄〕

二 奏外 國二 故者 諸宮

中務省内舍人正六位上源朝臣經方行興福寺所申

長治元年

少監物正六位上紀朝臣實俊故中宮應德元年御給

俊房

可勘給不件職去應德元年

正六位上紀朝臣實俊

望少監物

右去應德元年御給未補所請如件

康和六年正月廿六日

正二位行大納言兼大夫陸奧出羽按察師源朝臣師忠

〔本朝續文粹〕

六 奏狀上 申京官

前上野介正四位下藤原朝臣敦基誠惶誠恐謹言

請殊蒙天恩因准傍例依儒學并奉公勞被拜任刑部卿彈正大弼式部權大

輔等闕狀

一大業非成業舊吏未勘公文輩任顯官儒官諸司長官等例

源扶義卿

藤原敦基
中原文卿
刑部大弼
正權大弼
部權大弼
望等ノ闕ヲ

先例

永延元年十一月任右少辨河內國公

藤原國成朝臣

長元八年十月任右少辨因幡國公

菅原定義朝臣

天喜二年十月任文章博士

康平五年十一月兼大學頭已上和泉國

先父明衡朝臣

天喜四年二月任式部少輔

康平五年十一月兼文章博士

同六年十一月兼東宮學士已上出雲國

藤原正家朝臣

康平八年三月任文章博士越中國公

嘉保二年十二月轉任式部大輔若狹國公

橘俊綱朝臣

承保三年正月任內藏頭播磨讚岐等國

長治元年正月二十八日

四八五

長治元年正月二十八日

四八六

藤原實政卿

承曆元年十一月，任右京大夫。近江國公文未勘問。

同家綱

承德二年十二月，任兵庫頭。信濃國公文未勘問。

高階業房

康平二年十二月，任大舍人頭。上野國公文未勘問。

右儒士等或是碩學，或亦賢才也。敦基雖恥頑魯之性，自有思齊之心，至于非成業何以可相敵乎？就中家綱誦管之藝，遏雲之曲，雖奇，敦基翰墨之勤，聚雪之功，多積，比量之處，優劣孔章焉。

一敦基儒學并身勞事。

右敦基幼童之昔，讀經史學詩篇，弱冠之年，舉秀才，遂儒業，補侍中而拜吏部郎中，任柱下而任京兆員外，尋兼翰林學士，再為芸閣覆勘，遷一州刺史，登四品崇班，凡志學之後五十餘年，勤王之間幾千萬許，恆例宴會，臨時詩筵，嘲風晦月，迎春送秋，况亦守廉正以報國，施慈仁以撫民，萊蕪之塵生甑焉，遙繼范史雲之遺跡，蓬蒿之露濕樞矣，更同張仲尉之幽栖，幸逢知人之聖鑒，專仰拜官之皇恩耳。

敦基ノ儒學及ビ身勞

法皇ノ東宮ノ折ニ陪侍ノ勞アリ

大内記ノ勞

一太上皇在藩時，有陪侍勞事。

右先太上皇主器之昔，今太上皇在藩之時，敦基初以弱齡久陪邦第，常憶近龍顏，而羽化附鳳翼，而雄飛矣，其後頭戴堯帝之聖日，心祝封人之古風，若尋功効

何無哀矜，彼高帝之重故鄉，先宴沛中之父老，光武之憐舊里，更賞汝南之吏人，曲垂聖聽，可為老幸矣。

一太上皇御宇之時，為大内記有奉公勞事。

右太上皇御宇之時，承保四年正月，以敦基被任大内記，僣俛從事，夙夜在公，黃紙紫泥之草書，染筆端餘千卷，左言右事之節操，記柱下送十年，不遷顯職，無賜兼官，俄當万乘脫屣之時，空預四品加級之列，追憶舊効，猶仰洪慈而已。

藤原敦宗朝臣

先頻任儒官，次兼東宮學士。

同俊信

先頻遷顯官，次兼東宮學士。

同友實

長治元年正月二十八日

四八七

長治元年正月二十八日

四八八

先直文殿、次補藏人、次補內裏藏人、
同實光

先直文殿、次補藏人、次補內裏藏人、

同宗光

補藏人、

同行盛

先補判官代、次任春宮少進、次補內裏藏人、

同尹通

先聽昇殿上、次補藏人、次補東宮藏人、

右太上皇院號之後、去寬治五年四月、以敦基被直文殿、其後寒來暑往十有四
廻、然間儒家後進文殿淺藹之輩、頻浴玄渙、多昇青雲之中、壯發四五許輩、論年
齒宛如父子、謂功勞多隔星霜、雖恥掄材之用、不堪積薪之愁、就中院中別當殿
上侍臣藏人所武者、或依座次、或尋恪勤、每有敘位除目之儀、必浴加階拜官
之恩、文殿一所何背傍例乎、敦基已為第一之籍、尤當最先之仁、漢天雲隔、老鶴
之唳雖卑、胡城月明、行雁之陣不亂之故也、

以前條々之理、甄錄如右、望請天恩、依儒學并奉公勞、被拜任件等闕、且誇教學
之為先、且知勞績之不墮矣、敦基誠惶誠恐、誠恐誠恐謹言、

長治元年正月廿六日

前上野介正四位下藤原朝臣

〔除目大成抄〕

六 春京官一

長治元年 音博士正六位上中原朝臣資盛父廣宗 申給 俊房

從四位下行助教中原朝臣廣宗誠惶誠恐謹言、

請被殊蒙天恩、因准先例、以男正六位上資盛任書博士闕狀、

右

長治元年正月廿一日

從四位下行助教中原朝臣廣宗

〔朝野群載〕

二十二 諸國雜事上

韋負佐申受領

右少辨正五位下兼行右衛門權佐文章博士東宮學士周防介菅原朝臣俊信

誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、被兼任攝津淡路等國守闕狀、

右俊信謹檢案內、為延尉佐之者、經五六年拜任受領、承前之例也、又為辨官之
輩兼任刺史、古今之例也、爰俊信承德二年、拜任右衛門權佐、康和元年、拜除右

長治元年正月二十八日

四八九

中原廣宗
申文

藤原俊信
申文

長治元年正月二十八日

四九〇

少辨、雖思夕陽尚仰朝恩、抑有信、爲房時範、敦宗朝臣等共退金吾任刺史、近代之例指屈如此、俊信廷尉之職已歷七年、今思舊貫、偏在新恩、望請天恩、因准先例、罷右衛門權佐職、被兼任件等國守闕、然則不懈夙夜於鸞臺之鳳、偏致拜觀於龍樓之日、俊信誠惶誠恐謹言、

康和六年正月一日

右少辨正五位下右衛門權佐(文章博士重康學士周防介藤原朝臣俊信)、

〔魚魯愚抄〕

八 一讓

施藥院使正五位下行圖書頭兼醫博士侍醫士佐介丹波朝臣重康誠惶誠恐謹言、

請特蒙天恩、因准傍例、依奉公勞、以所帶權醫博士職、讓與男散位從五位下重賴狀、

右、狀略之、

康和六年正月廿二日

施藥院使正五位下行圖書頭兼醫博士侍醫士佐介丹波朝臣重康

典藥寮權醫博士從五位下丹波朝臣重賴

件重賴依父重康讓任之、依爲五位無尻付、

丹波重康
申文

中原宗資
申文

〔魚魯愚抄〕

七 宿官 申文

從五位下行大外記中原朝臣宗資誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依當職勞、被拜任肥後國介闕狀、
右、狀略之、

康和六年正月廿五日

從五位下行大外記中原朝臣宗資

長治元年正月二十八日

四九一

長治元年二月一日

二月小乙巳朔盡

四九二

一日、乙巳日食ニ依リテ、僧三十口ヲシテ、清涼殿ニ大般若御讀經ヲ行ヒテ、之ヲ祈禳セシム、

正現セズ
人々喜悅

〔中右記〕二月朔日、寅剋日蝕可有之由兼奏聞、仍於中殿大般若一日御讀經（被蝕也）行、（風信）卅口、上卿源中納言者、不正現、日未出前蝕歟、將又依爲不分蝕不慥見歟、凡不正現、人々爲悅耳、

〔爲房卿記〕（日蝕事也）二月一日、乙巳、有司奏日蝕由、卯剋、不正現云々、

〔北院御室日次記〕（日蝕事也）○山城 壽永元年十一月廿六日、癸巳、助教師直勘申齋

月佛事例、先日頼業注申之上、予又勸（被蝕也）齋月被行佛事例

一二月四日祈年祭以前佛事例

長治元年二月一日、乙巳、日蝕於御殿有御讀經事、（風信）卅口、依蝕御祈也、先被定

日時、

〔阿婆縛抄〕（日蝕事也）九十四可修大白衣此法事 一先蹤

長治元年正月、大原僧都被修之、

祈年祭以
前佛事ノ
例

日時定

○良忍、大白衣法ヲ修スルコト、本條ニ關係アルヤ否ヤ詳ナラザレドモ、便宜合致ス、

〔參考〕

〔東京天文臺回答書〕（日蝕事也）昭和七年六月二十二日

長治元年二月朔日ノ皆既日食ハ、其ノ中心線南洋群島ニ始マリ、北米ニ終リタルモノニシテ、北海道地方ニ於テ、日出頃僅ニ食ノ終リヲ見タル外、本邦ニテハ見エズ、

二日、（風信）法皇、九條末賀茂河邊ニ御方違御幸アラセラル、尋デ、又西洞院五條坊門邊ニ御方違御幸アラセラル、

〔中右記〕二月二日、（風信）略、○今夕上皇依御方違、夜半許俄御幸九條末鴨河邊、下御車暫御待、鷄鳴還御云々、

四日、○中略

今夜上皇爲御方違、有御幸西洞院五條坊門邊、乍御車令立給、鷄鳴之後還御云々、殿上人十人許前駈、（依駈力）是明日御物詣、○本月五日、大伯神方令違御歟、

〔爲房卿記〕二月二日、丙午、○中略

長治元年二月二日

四九三

還御

前駈

日吉御塔
九輪金物
ルノ入ラザ
ルニ依ル

長治元年二月三日

四九四

深更院出御、々方違也、九條河原乍御車御坐、日吉御塔九輪金物未被入之故云々、

○日吉社御塔供養ノコト、康和五年十月三日ノ條ニ見ユ、

右大臣忠實、勸學院學頭ヲ補ス、

〔中右記〕

二月二日、○午未剋許參殿下、勸學院學頭學生資光給學問料○和五

九年十二月二十之後、新申學頭由申上、仰云、以學生藤宗行、可補學頭之由被仰、

仍則仰下了、件宗行者、故秀才成家孫、修理亮元真男也、

〔參考〕

〔尊卑分脈〕

藤原氏
南家

成尹 宮内少甫、正五下、

成家 文章得業生、大學頭、信乃守、

元真 修理亮、或本成家子、

家行 勸學院學頭、從五下、母、
○中右記、宗行トナス、

三日、丁未釋奠、

〔中右記〕

二月三日、丁未、○今日釋奠也、天陰雨下、除封道路、依分配、申時許參

大學寮、右大將、（家世）又參仕、相共著、（中門座、上卿、關內、東、被問人々參否之處、

春日祭奉
幣日依
ナリテ拜
シテ廟

深雪ニ依
リテ出立
ヲ停ム

勸盃ヲ停

論義

百度座ニ
著ス

何予答云、有憚時不拜廟、是恆事也者、仍上卿、予相共不可有拜廟、由議定了、外

記申應裝束了、由代官不令申、上卿大將、○五起座著廳座、上卿入自北宇東戶、

自坤著座、少納言懷季以下、上南入先難可有出立、依深雪止之、又辨少納言不

著幄座、是深雪也、學生等居物、公卿前高坏各四本、先居一獻少納言懷季、大學

參、近代辨少勸盃人、依又不參止之、官掌申都堂裝束之由、於北廂申上之、官掌

申都堂裝束了、由、外記於北廂申上之、上卿以下起座、入自郁芳門、著靴著東砌、

辨以下在西、上卿著中兀子、入自巽角間、上卿參、辨以下著西座、主博士登高

座、問者出著座、寮屬授如意於問者、云々登高座、論義二重了、座主替、博士等退

下、得業以下出之、上卿以下經本路、著東砌床子、所司改座、左少辨、顯隆、今間參

加、外記申裝束了、由、申壇下、上卿以下著百度座、著靴、上卿少納言、外記、北、參議、

辨、史、南、造酒司勸盃、唱平、三獻了、立箸則起座出、上卿北面中戶、暫著北砌

床子、東上、外記又申裝束了、由、上卿以下著座如初、但辨、少納言以下南、（北）傳博

士、敦基朝臣以下著北座、諸道博士著東南廂床子、北面、三道學生等著北廂座

長治元年二月三日

四九五

長治元年二月三日

四九六

文章博士

者明法博士不參仍明經無勸之(勸)三返古論(勸)明經明事了退出寮官居聰明(勸)居之(勸)後(勸)又居紙筆(勸)折敷(勸)上卿召上藤博士(勸)文章博士不參仍前上卿今藤屑下(勸)召敦

序者人々詩ヲ

基朝臣稱唯起座進來上卿右邊仰云題可進者復本座書題入折敷覽上卿取折敷歸著上卿令寮官令傳參議又傳辨少納言座次第見下上藤博士又下本座仰序者東宮藏人秀才尹通九序者人々獻詩造酒司一獻可有之近代無之

講師

上卿暫起座著北砌座(勸)近代如此從實(勸)外記申裝束了由上卿以下著穩座(勸)北參

上卿

者南講師散位永實著中央床子寮允一人指燭(勸)在東文章生外記爲讀師諸

進顯隆供奉

卿講師前床子一々講之(勸)令講書禮記(勸)或有述懷句或有興詞(勸)亥時許事了人々退出

〔爲房卿記〕

二月三日丁未(勸)中釋奠如例(勸)上卿右大將有宴

〔爲房卿記〕

二月三日丁未(勸)中此夜東宮御竈神自高陽院移高松之西隣大

○東宮高陽院ヨリ高松殿ニ遷御ノコト康和五年八月二十七日ノ條

二見ユ

四日^或祈年祭春日祭

〔中右記〕

二月三日丁未春日祭使右近少將師時朝臣(勸)代官中宮使亮高實朝

祭使發遣
中宮使
東宮使
祈年祭春日祭同日

臣春宮使學士敦宗朝臣右中辨長忠朝臣參勤祭事云々

四日春日祭也又祈年祭同日之例相尋之處
天元三年二月四日戊申(勸)祈年祭同四年二月四日壬申(勸)祈年祭永承三年二月四日(勸)祈年祭承保元年二月四日壬申(勸)祈年祭雖廢務式日祭先仍同日被

〔爲房卿記〕

二月三日丁未深雪春宮大使學士敦宗發遣御幣使宮主座設西

中門內余奏事由於上皇達行事藏人長隆神馬々々在中門南庇下大夫奉抱殿下(勸)權亮陪膳大進顯隆役供如例

祈年祭上
東宮使
院御馬賜
隨身ヲ

四日戊申祈年祭(勸)上卿(勸)辨顯隆春日使內藏助近衛右少將師時(勸)代官馬寮右助云々中宮亮高實云々東宮學士敦宗(勸)給院御馬(勸)

〔春日祭歷名部類〕

長治元年二月四日戊申祭

長治元年二月四日

四九七

辨左少顯隆 近衛使右少將師時朝臣
中宮使亮高實朝臣 東宮使學士敦宗

五日、酉己酉法皇御惱ニ依リテ、廣隆寺ニ參籠シ給フ、尋テ、僧正增譽、法印仁源等ヲシテ、御修法等ヲ行ハシメ給フ、

〔中右記〕二月五日、己酉、晚頭參院、是今夜依令參籠廣隆寺御也、戌剋許出御、

出御 著御 世人御不知ラズ 例ヲ知ラズ 忠實家忠等祇候ス

其路經西洞院、二條西大宮、春日末、從廣隆西大門入御、寄御車於堂東廂方、幔、公卿内大臣以下新三位顯季凡十七人、直衣、殿上人五十人許、衣冠、前駟騎馬、是頗不例御歟、世人不知之也、

七日、巳時許參内、而殿下從内參廣隆寺給、候御車後參廣隆寺、右大將以下上達部五六人被參會、殿上人 布衣、同參入也、

十日、巳時許參殿下、爲御共參廣隆寺、晚頭歸洛給、

十一日、略、中從院有召、馳參廣隆寺、近召御前有被仰事等、略、中又明日雖可出御、依別當僧正申請、今三ケ日延引之由所被語仰也、此事等大略令奏内之儀歟、件事不能委記、不可出口外之故也、晚頭退出、

增譽ノ申 請ニ依リ 還御ヲ三 引シケ日延 給フ

今日大原野祭并明日奉幣使也、日ノ本月十二條參看、仍入寺中條雖有憚、於別喚者

非此限歟、

十二日、略、中先參御前、昨日院仰旨慥所奏聞也、是非御使、然而又不可奏事也、

〔爲房卿記〕

二月五日、己酉、此夕院令籠廣隆寺給、依御腰不例御也、寺僧申御

明、給被、被始御修法、不動僧正增譽、本寺長吏、藥師法印仁源、御讀經、十二口、左右大

將以下騎馬前駟如例、余候東宮留守、

十二日、丙辰、略、中此曉上皇可出御、然而今三ケ日可令延御之由、寺僧等申者、

來十五日可還御者、

十三日、丁巳、略、中廣隆寺僧非□云々、

十四日、戊午、此夕相扶參宿于院、

十五日、己未、此曉自廣隆寺、上皇于高松殿、自廣隆寺當東、正方天一至于曉更

頭、中將顯實朝臣爲中使參入、被奉綿二百屯、麻布五百段、籠石山給之時、院令

皇參高野給之時、以頭中將雅俊被奉綿布、同被誦、誦、十、二、又、以其例、寬治、二、年、上

以其例、可申行、便被修御誦經、公家可行御誦經、由、雖、有、其、議、明、日、伊、世、奉、幣、

由、予、來、尋、也、召、勅、使、給、祿、白、掛、又、召、別、當、增、譽、僧、正、給、御、馬、由、兼、効、日、被、者、仰、云、云、然、而、

察、請、文、內、藏、力、無、指、驗、云、即、以、出、御、左、右、大、將、以、下、扈、從、質、明、著、御、

御腰不例 不動法 藥師法

還幸延引

高松殿ニ 還御ニ 法皇ニ 布等ヲ 給フ

御誦經ヲ 修ス 增譽ニ 賜フ

長治元年二月六日

五〇〇

○法皇、賀茂河邊ニ御方違ノコト、本月二日ノ條ニ、御惱ニ依リテ、鳥羽殿ニ御幸ノコト、同月二十八日ノ條ニ見ユ、

六日、藏人頭藤原顯實等ニ東宮ノ昇殿ヲ聽ス、

〔中右記〕二月六日、略中

還昇二人

今日被聽東宮殿上七人、實行朝臣、顯國朝臣、已上二人還昇、頭中將顯實、兵衛佐東宮昇殿之由、小舍人來告、給祿小舍人、一卷、網仕人、布卷、

宗能奏慶

七日、巳時許參内、而殿下從内參廣隆寺給、略中、略本月、五、宗能令著東帶、相具

寺中ニハ拜賀ナシ

令申東宮昇殿慶、寺中不拜之由人々被申、仍不令拜、但此事可尋、申時許殿下

歸給之後、於高陽院又宗能令申慶、將參東宮、於西中門邊、付藏人啓慶申付簡、

秉燭之間歸家、

八日、略中

入夜相具兵衛佐、參入東宮、

宗忠宗能ヲ具シテ東宮ニ候ス

九日、終日候御前、略中、晚頭退出之次、與宗能參東宮、頃而退出歸葦、

〔公卿補任〕

大治五年

參議正四位下源雅兼、二、五、十、長治元六六、東宮昇殿、

〔公卿補任〕

天承元年

參議正四位下藤宗能、八、十、長治元二、聽東宮殿上、

〔公卿補任〕

久安五年

參議正四位下藤資信、六、十、同六正、春宮昇殿、資信、改名

廿三、

七日、辛、政、

上卿新任少納言初參

○資信ニ東宮ノ昇殿ヲ聽スコト、便宜合致ス、

〔中右記〕

二月七日、略中

今日有政云々、上卿治部卿、俊、左大辨、基、左右少辨、新

任少納言時俊、明賢二人初參政之故也、

八日、壬、御物忌、

〔中右記〕

二月八日、略中

入夜、略中、次參内宿侍、從今日四々日禁中御物忌也、

四々日

九日、癸、禁中御遊、

〔中右記〕

二月九日、終日候御前、有管絃御遊、

十日、甲、長治ト改元ス、

〔殿曆〕

康和五年八月廿一日、戊辰、天晴、申剋許欲退出間、頭辨持來改元勘文、

見了參京極殿、

〔中右記〕

二月十日、略中

今夜依可有改元定、諸卿參集左内臣、俊、左衛門督、左兵

長治元年二月七日、八日、九日、十日

五〇一

定

忠實改元勘文ヲ内覽ス

年號勘申
ノ人々
僉議
承安長治
ノ中ヲ撰
ル天變ニ依

大神宮ノ
限ハ救ノ
詔書ヲ奏
檢非違使
不參

吉書

長治元年二月十日

五〇二

衛督源中納言右兵衛督下官左大辨左宰相中將左府被下年號勘文四通、
籠一懸紙結中^(中イ)文章博士二人^(信厚)在良後信撰申^(臣)左府兼日奉仰下知儒者等被撰
申奏聞後有僉議也次第見下又申上承安長治此二間可隨勅定申上了付頭
辨被奏件旨勘文同進上之重仰云件二年號中重可申上者左衛門督以下承
安可宜左內府被申云長治可宜又仰云可用長治是依天變也但依正曆可令
作詔書召大內記敦光被仰下件旨予申云永保康和例被拘神社許近日太神
宮事旁有其訴如何左府命給云尤可然令頭辨重資朝臣奏聞仰云神社訴不
可被免之由可載詔書者予又申上云神社事已廣轉多人被拘如何又被奏之
處仰云雖無先例只觸伊勢太神宮訴者不免限由許可載也至神社條者尤事
廣之故也件旨重召大內記被仰下了詔書草則持參入^(宮)付頭辨被奏聞^(仗座)
被奏宿老^(大)仰書清書重令清書被奏也^(殿)便內覽^(殿)召中務少輔源通季被下
詔書^(乍入宮)次被尋檢非違使佐尉等之處一人不參左衛門權佐顯隆雖參入
早退出了頗奇怪也相尋尉之處或爲院御共候廣隆寺^(〇本月五日)或候東宮
留守或又新任者未從事夜已及三更天欲明而明日凶會也重尋^(察)催有煩爲之
如何甚以不便也仍左府被仰下頭辨追可下知使應者頭辨重資申官方吉書

檢非違使
別當不參
依施行
詔書施行
以前仰免
天祐ノ難
末世亡帝
用ヒズ

康和ハ代
末年號

五月改元
申ス例ヲ勘

〇以上九字岩崎文庫所藏先申左府^(年)新米頭中將顯實奏藏人方吉書共於
改元部類記ヲ以テ補フ^(頭辨イ)仗座下申左府々々共被下頭辨於床子座下大夫史歟件旨吉書頭辨藏人方
吉書之後下左府也頗奇怪也如此吉書必以官爲先事也檢非違使不候之條^(〇)
發大外記而左佐顯隆參陣定存可候之由早速退出之條外記案之外事歟誠
何爲哉又別當不參仍今夜詔書施行以前可勘免囚人之由不被仰下尤不便
也改元之時被行常赦之時必可勘免之由專所被仰下也漸及曉更人々退出
今度年號勘文之中ニ天祐或儒者撰申之條甚奇怪也天祐ハ唐末景宗時
年號也先例唐年號雖被用末之世亡帝之時年號未被用而撰申之條可謂
無用心爲後代所記置也^(〇)岩崎文庫所藏改元
〔爲房卿記〕二月十日甲寅今夜改元右內兩府參入^(江中納)被用長治兩文章
博士撰申者康和之字爲代末年號之由去年有沙汰者被行赦令廷尉判官以
上不參左府被仰頭辨曉天退出云云

〔本朝世紀〕

康和五年四月十四日晚頭雷鳴雹降頭辨仰云五月改元例奉幣

前後齋日改元例如何五月例勘申了

〔七月改元事〕

六月廿九日丙子略

又頭辨仰云七月改元并納言奉行件事例如何度々例

長治元年二月十日

五〇三

長治元年二月十日

五〇四

勘申畢、入夜民部卿俊明、召予仰云、式部大輔正家朝臣、文章博士在良、俊信等可撰申年號字者、又改元月日并赦令趣可注進者、

〔元祕別錄〕

勘文部

康和六年二月十日改元、長治、天變、

四人

大輔藤正家、博士菅在良、同藤俊信兼右大辨、權中納言匡房

去年依可有改元、人々進勘文延引之年依左府被申、召加匡房、

式部大輔正家朝臣

天祐

毛詩曰、○治曆元年八月二日、改元ノ條參看、

周易曰、○長元元年七月二十日、改元ノ條參看、

延壽

後漢書曰、○長曆元年四月二十日、改元ノ條參看、

文章博士在良朝臣

天永

尚書曰、○康和元年八月二十日、改元ノ條參看、

俊房ノ依リテ
匡房ヲ撰
者ニ加フ
正家ノ勘
申

在良ノ勘
申

俊信ノ勘
申

匡房ノ勘
申

嘉承

漢書曰、禮樂志曰、嘉承天和、伊樂厥福、

長治

漢書曰、建久安之勢、成長治之業、

文章博士俊信

承安

尚書曰、○天喜元年正月十日、改元ノ條參看、

成德

孔子家語曰、○寬德元年十一月二日、改元ノ條參看、

長治

漢書曰、○在良ノ勘申參看、

江中納言

延世

尚書曰、賞延于世、道德之政也、

天仁

長治元年二月十日

五〇五

長治元年二月十日

文選曰、統天、仁風遐揚、○以下中右記、交アリ、略ス、

〔元祕抄〕○二 押小路本 年號勘文書様

勘文新紙懸紙封并付人々及外記來告事

康和六年改元、長治、博士在良付外記師遠畢、有懸紙封之、書名二字、

〔元祕抄〕○三 押小路本 進年號勘文人數多少例

四人例

堀川 二月十日或本□去年延引時事歟、
康和六年八月廿八日改元、長治、

大輔藤正家 博士菅在良 同藤俊信、兼右少辨、 權中納言匡房

去年依可有改元、人々進勘文延引、今年依左府被申、召加匡房、

以去年延引勘文、次年被用例、元依立太子始改、延引例也、

去年延引勘文用フ例

康和六年改元、長治、件年號等、去年依可有改元、仰儒家并文章博士等所召也、然而依立太子之始延引、上卿民部卿仰大外記師遠奉行、今度依左府被申、去

年式部大輔正家、文章博士在良、俊信等撰申、

人々進勘文之後改元延引例

康和五年依可有改元、仰儒家并文章博士召年號、然而依立太子之始延引、次

勘文ノ書様

年號勘文人ノ例

去年延引勘文用フ例

勘文ノ後延引ノ例

年有改元、

外記催以前時使進年號勘文例

以外記催以前時使進年號勘文ノ例

康和六年改元、長治、民部卿被申云、去年左府內府有障不被出仕、仍所奉行也、於今者左府無御障、猶上臈可令奉行也、予奏此由、奏下左府之處、被申云、前例匡房卿進年號勘文、今度不候如何、仰云、勘例可仰下者、因之觸案内於江中納言之處、即付使者獻此勘文、外記未下知以前有此事、俄不重尋問之處、被與云、維時中納言時、以男齊光被召勘文、件齊光者彼時藏人、依例可進上之旨、○下

〔行類抄〕

五改元定 仰赦於辨例、別當佐等不參、或未補之時、常例也、

康和六、二十、爲隆、被行赦令、尉以上不參、左府被仰頭辨、

仰之、仰之、 康和六、二十、爲隆、內府召中務給詔書、次召權佐實光、不待施行可原放之、由

仰之、

〔元祕別錄〕

柳原家記 錄、○十六、 頭左中辨重資朝臣、奉行人左少辨顯隆、官方頭 長治、同代 康和六年二月、變、 辨重資、藏人、方頭、顯隆、官方頭、

長治元年二月十日

法救令ノ作

長治元年二月十一日

左大臣俊房、各舉承安、長治、重々一

內大臣雅實、同、同

五〇八

左衛門督雅俊、同申兩號、重テ

左兵衛督能實、同左

源中納言國信

右兵衛督師賴

參議右大辨宗忠、延祥

左大辨宰相基綱、天祥

左宰相中將忠敬

新九

〔西襦抄〕

○京都御所東山御文庫 一年號切韻字之例

長治切治

長治ノ切韻

天變地震ニ依ル

〔歷代編年集成〕

十九 堀河院

長治二年

康和六年二月十日改元、依天變地震也、

○百練抄、一代要記、十三代要略、改元烏兔記、異事ナキヲ以テ略ス、法皇、右大辨藤原宗忠ヲシテ、改元ノコトヲ權中納言大江匡房ニ諮問セシメ給フコト、康和五年二月二十四日ノ條ニ、改元後政始ノコト、本年本月二十三日ノ條ニ見ユ、

十一日、卯、大原野祭、

〔中右記〕

二月十一日、大原野祭也、早且依例奉幣、○下略、本月五

定

上卿

宗忠賀茂使ヲ勤仕

御拜

〔爲房卿記〕

二月十一日、乙卯、大原野祭、依未洗手、自河原奉幣、

十二日、丙、祈年穀奉幣、

〔中右記〕

二月七日、略、

云々、

八日、召使來催云、來十二日奉幣、賀茂可勤仕者、申承了由、

十二日、祈年穀奉幣也、爲勤仕賀茂使、巳時許參內、天陰、時々小雨、上卿新大納

言經實卿被奏宣命草之間也、○中渡參八省、行事右少辨俊信也、使源宰相、新

宰相中將、家各給宣命後、晚頭參賀茂下上社、付幣於社司先二拜、次居座讀宣

命、又二拜、返祝詞了後退出、下御社司書寫宣命後、返上、使參上社、入夜歸家、此

間雨脚殊甚、於南殿有御拜云々、

〔爲房卿記〕

二月十二日、丙辰、略、

拜云々、

十三日、卯、右大臣忠實、故關白師實忌日ニ依リテ、宇治ニ赴ク、

〔中右記〕

二月十三日、略、

今日故大殿御忌日也、因之右大臣殿以下家人

々早且被向宇治、

五〇九